

第10回キャリア教育優良教育委員会、
学校及びPTA団体等
文部科学大臣表彰
受賞団体における推薦理由

第10回 キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA 団体等の取組内容（推薦調書）

— 目 次 —

<青森県>

佐井村立佐井小学校・・・・・・・・・・・・・1
 佐井村立佐井中学校・・・・・・・・・・・・・1
 七戸町立天間館中学校・・・・・・・・・・・・・2

<岩手県>

岩手県立西和賀高等学校・・・・・・・・・・・・・3

<宮城県>

加美町教育委員会・・・・・・・・・・・・・3
 宮城県黒川高等学校・・・・・・・・・・・・・4

<秋田県>

鹿角市教育委員会・・・・・・・・・・・・・5
 五城目町立五城目第一中学校・・・・・・・・・・・・・6
 秋田県立花輪高等学校・・・・・・・・・・・・・6
 秋田県立比内支援学校・・・・・・・・・・・・・7

<山形県>

山形県立鶴岡中央高等学校・・・・・・・・・・・・・7

<福島県>

いわき市教育委員会・・・・・・・・・・・・・8
 柳津町立西山中学校・・・・・・・・・・・・・10

<茨城県>

日立市教育委員会・・・・・・・・・・・・・10
 白鳥学園（那珂市立瓜連小学校,
 那珂市立瓜連中学校）・・・・・・・・・・・・・11
 常総市立水海道西中学校・・・・・・・・・・・・・11
 茨城高等学校・中学校・・・・・・・・・・・・・12
 稲敷市立江戸崎中学校PTA・・・・・・・・・・・・・13

<群馬県>

富岡市立小野小学校・・・・・・・・・・・・・13
 富岡市立北中学校・・・・・・・・・・・・・14

<埼玉県>

ときがわ町立萩ヶ丘小学校・・・・・・・・・・・・・15

<千葉県>

千葉県立一宮商業高等学校・・・・・・・・・・・・・16
 千葉県立船橋古和釜高等学校・・・・・・・・・・・・・17
 野田市立東部中学校区学校支援地域本部・・・・・・・・・・・・・17

<東京都>

小平市教育委員会・・・・・・・・・・・・・18
 杉並区立杉並第四小学校・・・・・・・・・・・・・19
 杉並区立桃井第三小学校・・・・・・・・・・・・・19
 東京都立青井高等学校・・・・・・・・・・・・・20
 東京都立赤羽商業高等学校・・・・・・・・・・・・・20
 学校法人上野塾
 東京実業高等学校・・・・・・・・・・・・・21

学校法人十文字学園

十文字中学・高等学校・・・・・・・・・・・・・21
 東京都立鹿本学園・・・・・・・・・・・・・22

<神奈川県>

藤沢市立湘洋中学校・・・・・・・・・・・・・23
 神奈川県立大和東高等学校・・・・・・・・・・・・・23

<新潟県>

田上町教育委員会・・・・・・・・・・・・・23
 新潟県立小千谷西高等学校・・・・・・・・・・・・・24

<富山県>

氷見市立朝日丘小学校・・・・・・・・・・・・・25
 富山市立大泉中学校・・・・・・・・・・・・・25
 富山県立高岡南高等学校・・・・・・・・・・・・・26

<石川県>

石川県立明和特別支援学校・・・・・・・・・・・・・26

<福井県>

高浜町立内浦小中学校・・・・・・・・・・・・・27
 福井県立武生商業高等学校・・・・・・・・・・・・・27
 福井県立嶺北特別支援学校・・・・・・・・・・・・・28
 キャリア教育推進協議会・・・・・・・・・・・・・28

<長野県>

千曲市教育委員会・・・・・・・・・・・・・29
 長野県箕輪進修高等学校・・・・・・・・・・・・・29
 伊那市立富県小学校PTA・・・・・・・・・・・・・30

<岐阜県>

大垣市立中川小学校・・・・・・・・・・・・・31
 中津川市立坂本中学校・・・・・・・・・・・・・31
 岐阜県立山県高等学校・・・・・・・・・・・・・32
 徹明子ども会育成会・・・・・・・・・・・・・33

<静岡県>

焼津市立大井川西小学校・・・・・・・・・・・・・33
 静岡県立韮山高等学校・・・・・・・・・・・・・34
 島田市商工会青年部・・・・・・・・・・・・・34

<愛知県>

豊橋市教育委員会・・・・・・・・・・・・・35
 東浦町立片葩小学校・・・・・・・・・・・・・36
 高浜市立高浜中学校・・・・・・・・・・・・・36

<三重県>

四日市市立西笹川中学校・・・・・・・・・・・・・37
 三重県立伊賀白鳳高等学校・・・・・・・・・・・・・38
 三重県立特別支援学校玉城わかば学園・・・・・・・・・・・・・39

<滋賀県>

- 草津市教育委員会 3 9
- 滋賀県立水口高等学校 4 0

<京都府>

- 京都府立大江高等学校 4 0

<兵庫県>

- 姫路市立四郷中学校 4 2
- 兵庫県立上郡高等学校 4 2
- 兵庫県立阪神昆陽特別支援学校 4 3

<奈良県>

- 奈良県立磯城野高等学校 4 4

<鳥取県>

- 鳥取市立江山中学校 P T A 4 5

<島根県>

- 江津市教育委員会 4 5

<岡山県>

- 岡山県立岡山南高等学校 4 6
- 岡山県立矢掛高等学校 4 6
- 岡山県立倉敷琴浦高等支援学校 4 7

<広島県>

- 福山市立川口小学校 4 7
- 安芸太田町立筒賀中学校 4 9
- 広島県立三次高等学校 5 0

<山口県>

- 周南市立勝間小学校 5 0
- 防府市立華西中学校 5 1
- 山口県立美祢青嶺高等学校 5 2

<徳島県>

- 鳴門市撫養小学校 5 2
- 美馬市立江原中学校 5 3

<香川県>

- 香川県立石田高等学校 5 4
- 香川県立坂出工業高等学校 5 5

<愛媛県>

- 松山市立東雲小学校 5 6
- 愛媛県立松山商業高等学校 5 6
- 愛媛県立宇和特別支援学校
(知的障がい部門) 5 6

<高知県>

- 高知県立高知海洋高等学校 5 7

<福岡県>

- 福岡県立若松商業高等学校 5 8
- 福岡県立東筑高等学校 P T A 5 9

<熊本県>

- 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校
. 5 9
- 熊本県立翔陽高等学校 6 0
- 熊本県立水俣高等学校 6 1

<宮崎県>

- 日向市立財光寺小学校 6 1

<鹿児島県>

- 志布志市教育委員会 6 2
- 指宿市立德光小学校 6 3
- 長島町立鷹巣小学校 6 3
- 鹿児島県立伊佐農林高等学校 6 4

<沖縄県>

- 那覇市立開南小学校 6 5

<仙台市>

- 仙台市立南材木町小学校 6 5

<横浜市>

- 横浜市立中川西中学校 6 5
- 横浜市立若葉台特別支援学校 6 6

<浜松市>

- 浜松市立笠井中学校 6 7

<京都市>

- 京都市立凌風小学校・凌風中学校 6 7

<神戸市>

- 神戸市立高倉台小学校 6 8

<広島市>

- 広島市立三和中学校 6 8

<青森県> (種別：学校) 佐井村立佐井小学校

推薦理由

当該校、学区内中学校、下北教育事務所と三者でキャリア教育推進委員会を設立し、県で発行している「青森県教育委員会キャリア教育の指針」(総論編及び実践編)、「キャリアノート」の実践的な活用方法を研究した。更に、その実践的研究の取組と併せて、効果的なキャリア教育及び充実したキャリア教育の展開を目指して創意工夫及び特色ある活動を展開した。その取組については、次のようなものがある。

【取組】

- ・ 学校行事(運動会)における地域の方々の参加場面の拡大と充実
- ・ 運動会における学区内中学生の招待リレーの実施及びPTA参加種目の設置による地域住民、お年寄との交流場面の設置 (昨年度より増)
- ・ 村の八幡宮例大祭、校内学習発表会での神楽等の演出により地域の方々との深いふれあいと絆づくり
- ・ 地元の方を招聘しての職業講話の実施
第1回は佐井村長、第2回は地元観光業者、第3回は地元交通安全員
- ・ 地元農家による農業体験の実施(アピオス作り)
- ・ 修学旅行時に、村長から委嘱を受けて「ふるさと大使」となり、佐井村の魅力をまとめた自作パンフレットを訪問地である函館の方々に配布
- ・ 5学年の総合的な学習の時間では、地元老人ホームへの訪問を行い、お年寄りとのふれあい活動及び福祉に関する活動等の体験活動の実施
- ・ 西目屋村との交流会(隔年でお互いの地域に赴き、宿泊を伴う交流会)
- ・ 異学年同士での読み聞かせ交流会の実施
- ・ 学区内小中学校間におけるキャリアノート活用に関する連携
- ・ 村の偉人で「ジュネーブ条約」の実践者である三上剛太郎氏についての学習会の実施

以上から勘案し、地元企業、組織、住民と連携し、児童生徒の地元への深い理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に取り入れており、実践していることから推薦に値すると考えられる。

<青森県> (種別：学校) 佐井村立佐井中学校

推薦理由

当該校、学区内小学校、下北教育事務所と三者でキャリア教育推進委員会を設立し、県で発行している「青森県教育委員会キャリア教育の指針」(総論編及び実践編)、「キャリアノート」の実践的な活用方法を研究した。更に、その実践的研究の取組と併せて、効果的なキャリア教育及び充実したキャリア教育の展開を目指して創意工夫及び特色ある活動を展開した。その取組については、次のようなものがある。

【取組】

- ・ この事業の推進に向けて設立・委託された各企業との窓口であるあおもりで「生きる・働く」を学ぶ下北地区実行委員会に職業講話の講師派遣を依頼し、建設会社の経営者を招聘しての職業講話を実施した。
- ・ 保護者や卒業生を講師として招き、「地元佐井村で働く」というテーマで職業講話を行った。
- ・ 3年生の家庭科で、佐井村保育所で保育実習を行い、体験活動を重視した授業を実践した。
- ・ 1年生の技術科で、佐井村森林体験館で実習を行い、ヒバ材を使った木材加工に挑戦するなど、地域とのつながりを深める授業を実施した。
- ・ 佐井村の祭り(山車や神楽)に携わる方々から伝統芸能(御神楽)の指導を受け、その練習成果を地域住民、保護者を招いた文化祭で披露した。
- ・ 1、2年生は村内と距離にして60km離れたむつ市内で、各部署、企業からの協力を受けて職場体験を実施した。
- ・ 3年生は佐井村漁協組合と佐井村定期観光所から商品を提供してもらい、東京にある青森県のアンテナショップで販売体験と地元のPR活動を行った。
- ・ 村内他中学校交流学習会では、互いの職場体験活動の発表会を実施した。
- ・ 学区内小中学校におけるキャリアノート活用に関する連携を行った。特に、小6から中1へのノートの持ち上がりなどが効果的であった。

・ 学校だよりや学校参観日を通して、生徒の活躍や学校生活の様子を保護者に計画的・積極的に伝えた。
以上から勘察し、地元企業、組織、住民と連携し、児童生徒の地元への深い理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に取り入れており、実践していることから推薦に値すると考えられる。

＜青森県＞（種別：学校）七戸町立天間館中学校

推薦理由

1 研究指定校として

七戸町立天間館中学校（以下「推薦校」）は「あおもりっ子キャリアノート」の活用を核に、組織的に研究を行った。

2 研究の詳細

推薦校では次の3点を研究の柱とし、実践研究に取り組んできた。

- (ア) キャリア教育推進のための校内体制のあり方
- (イ) 「あおもりっ子キャリアノート」（青森県教育委員会作成）の活用のあり方
- (ウ) 地域人材、地域性を生かした取組の実践

特に推薦校が重点としたのは、(イ)「青森県教育委員会作成『あおもりっ子キャリアノート』（以下「キャリアノート」）の活用のあり方」である。各行事の見直しや夢講話の実施とキャリアノートの活用を関連させることで、キャリア発達を促し、生徒の自己肯定感、自己有用感を向上させることができた。

3 「推薦の観点」に照らして

「2」で述べた取組の詳細を、「推薦の観点」①に照らして、以下に説明する。

(1) 適切な検証改善

推薦校では、校内分掌に各学年職員から構成されるキャリア教育推進部を新設し、組織的な活動を展開している。特に、研究指定を受けた平成26・27年度は、次のような検証改善を行った。

- ① 各行事の実施要項にキャリア教育の視点からねらいを明記。
(キャリア教育推進部を中心とした各行事の見直し。)
- ② キャリアノートとの関連を図った夢講話の実施。
(事後にキャリアノートでの振り返り、互いの夢や目標の発表、学級担任による生徒一人一人へのコメント。)
- ③ キャリア教育自己評価の継続
(キャリア教育自己評価シートの定期的な活用と推移の分析)
- ④ 自己肯定感・自己有用感を醸成するための環境整備
(校内掲示やキャリア通信による情報発信)

(2) 事前・事後指導を含めた職場見学、職業体験等

推薦校では各学年生徒の発達段階を考慮し、特別活動や総合的な学習の時間の中で次のような学習活動を行っている。

- ① 1学年
 - ・ 職業講話会
 - ・ 農業体験
 - ・ 命の学習（妊婦体験）
 - ・ キャリア合宿
- ② 2学年
 - ・ 七戸町内及び隣接市内の施設・事業所等での職場体験
 - ・ 命の学習（乳児触れあい体験）

(3) 他校種や地域・産業界等との主体的な連携・協力

- ① 小学校との縦の連携
(小学校のキャリアノートを引き継ぎ、ファイルを購入し、続けて中学校でも活用)
- ② 地域の方や卒業生を講師として招聘
(地域で活躍している人、本校に関係している人に講師を依頼し夢講話を実施)

4 キャリア教育推進に関する管内での貢献

上記の取組を含めて、研究指定を受けた2年間の実践をまとめ、「平成27年度 あおもりで『生きる・働く』を学ぶキャリア教育実践活動事業 上北地区キャリア教育研修会」で実践発表を行った。

「2」で述べたとおり、「キャリアノートの活用のあり方」に重点を置いた研究であったが、特に行事や職業

講話に関わらせたキャリアノートの活用事例が紹介され、研修会の参加者から「自校の取組の改善のヒントになった」という声が多く聞かれた。

推薦校は、キャリアノートの活用を核としながら、校内の指導体制を整え、研究成果を着実に積み重ねた。特に、キャリア教育推進部を中心とした全職員でのキャリア教育自己評価の継続的な取組は、研究指定終了後も持続可能なキャリア教育の推進体制であると同時に、今後もキャリア教育の先進校として、管内の各学校に成果を発信していけるものとする。以上の点を踏まえ、キャリア教育優良学校として推薦するものである。

＜岩手県＞（種別：学校）岩手県立西和賀高等学校

推薦理由

主体的に設計する「私の生きる道」－夢を叶えるキャリア教育－

1 キャリア教育の方針－生徒一人ひとりの人生百年を主体的に設計する－

生徒が主体的に「自分が生きる百年に及ぶ人生」を設計し、その進路目標を達成するために、生徒の発達段階に応じて、「総合的な学習」を活用し、計画的に高校3年間のキャリア教育を以下のとおり実践している。

- (1) 1年生は、地域の方々の協力による体験学習をとおして自分の生まれ育った故郷について調べ、自然環境や産業、人々の暮らし等について多面的に学ぶ。
- (2) 2年生は、地域の商工会や事業所と連携し、進路目標に基づき、事前学習を経て職場体験を3日間行い、事後学習を重ね、生きる道を明確にする。
- (3) 3年生は、地域の事業所見学会や大学説明会等のキャリア学習を経て地域社会への貢献を目指す生き方を模索し、設計した人生に合う新書を読み、小論文を書く。
- (4) キャリア教育の集大成として、キャリア学習を積み重ねた3年生が、自分の生き方をどのように設計したのかを小論文に書き、その小論文をまとめて『私の生きる道』を制作する。

2 キャリア教育の具体的方策－基礎学力を培い、生きる力を身に付ける－

人生百年を主体的に設計するとは、自己有用感を高め、人生百年をいかに生きるかと問い、真剣に考え、自己の使命を自覚し、感謝の念を胸に刻み、社会貢献をとおして自己存在の証を立てることである。そのために、以下のとおり生徒に語っている。

1年生は早く西和賀高校の校風・生活に慣れ、学ぶ目標を見いだす「志す者」になろう。2年生は目標を持って勉強・部活動に励み、限界を超克する「挑む者」になろう。3年生は高い志の下、努力を積み重ねて進路目標を達成し、自分の生きる道を「拓く者」になろう。

そのために、(1) 基礎学力の定着 (2) 体調の管理 (3) 規律正しい生活 (4) 文武両道の実践 (5) 人生百年を主体的に設計という具体的方策を立てて指導。

3 キャリア教育の成果－志す者から限界を超克する者、そして、道を拓く者に成長する－

- (1) 教育、行政、医療等、地域社会の発展に寄与する人材を育成した。
- (2) 地域の事業所への就職を推進し、就職した生徒の高い定着率を実現した。
- (3) キャリア教育の集大成として小論文をまとめた『私の生きる道』を2006(平成18)年度から毎年制作し、10年間にわたり継続している。

＜宮城県＞（種別：教育委員会）加美町教育委員会

推薦理由

加美町教育委員会では、宮城県教育委員会指定「志教育支援事業」を受け、平成24年度・25年度に小野田中学校区、平成26年度・27年度に中新田中学校区、平成28年度は宮崎中学校区と、所管する全ての中学校区において、宮城県の教育基本方針・宮城県教育振興基本計画における志教育をとおして、キャリア教育の充実を推進するとともに、各学校のキャリア教育の円滑な実施の支援を図った。

＜各中学校区における取組内容＞

- 平成24・25年度 小野田中学校区【東小野田小学校、西小野田小学校、鹿原小学校、小野田中学校、中新田高等学校】
 - 目標『小・中・高等学校の連携のよりよい在り方を志教育の視点から探り、交流活動を改善・活性化させることによって小野田中学校区の志教育を推進し、児童・生徒が社会人としてよりよく生きる力を高める。』

- 概要 3小学校合同薬山登山（3年），3小学校花山野外活動事前交流会（5年），小・中・高交流会（全2回実施），小・中英語活動交流会
- 成果 ①自信をもって話すきっかけをつくる交流活動 ②意義や目的を明確にする交流活動の見直し ③交流活動を一層充実させる教職員の「顔が見える連携」

● 平成 26・27 年度 中新田中学校区【中新田中学校，中新田小学校，鳴瀬小学校，広原小学校，中新田高等学校】

- 目標『小・中・高等学校の学習交流や部活動交流等の連携を積極的に図り，児童生徒の発達段階に応じた的確な 指導・支援を行い，地域の自然・人からの学びを土台に，ふるさと中新田に誇りをもち，ふるさとを語る社会人を育てていく。』

- 概要 小小交流会（3小6年生の交流会），小中交流会（学習交流・部活動体験），中高交流（部活動），志教育講演会，実践事例発表会

- 成果 ①小中高連携による学びの共有 ②自分の夢から自分の志への高まり

● 平成 28 年度 宮崎中学校区【宮崎中学校，宮崎小学校，旭小学校，賀美石小学校，中新田高等学校】

- 目標『地区内の小・中学校が家庭及び地域とかかわる中で，望ましい社会性や勤労観を養い，集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えながら，よりよい生き方を進んで求めていく児童・生徒を育成する。』

- 概要(予定) 小中連携事業「夏の学校」，低学年児童交流会，職場体験

以上のように，所管する全ての中学校区においてキャリア教育を推進する優れた取組であり推薦するものである。

<宮城県>（種別：学校）宮城県黒川高等学校

推薦理由

当該校は宮城県黒川郡の中心部に位置し，工業系専門学科と普通科を併設する県内唯一の高校である。

宮城県教育委員会の「志教育推進事業」「魅力ある県立高校づくり支援事業」「クラフトマン21事業」を活用し，地元企業や近隣の学校・大学等と連携・協力を深める中でキャリア形成を図り，地域に貢献できる人材の育成に努めている。

〔主な取組〕

1 独自の進路テキストを用いた系統的な学習【H23 年度～】

学校独自に「進路テキスト」を作成し，毎週金曜日の朝学習やホームルームの時間などを使って1学年から3学年まで系統立てた進路学習を行っている。

2 就業体験（ジュニア・インターンシップ）【H17 年度～】

地元企業等の協力を得ながら2学年全員が3日間の就業体験を行っている。事前・事後の学習を充実させ，その成果を発表会をとおして互いに共有し，学び合うことで望ましい職業観・勤労観の育成に努めている。

3 企業・大学等の外部講師によるキャリアガイダンス【H22 年度～】

個々の生徒のキャリア形成を着実に進め，自身の具体的な将来像がイメージできるようにするために，年次進行に応じて計画的に企業や大学等から講師を招いてガイダンスを実施している。また，11月には「地域企業・黒川高校カンファレンス」を実施し，企業等の関係者に授業・実習を公開し意見交換の場を設けることにより，卒業後を見据えたキャリア教育の一助としている。

4 「リフレクションノート」の活用【H24 年度～】

普通科では，独自に「リフレクションノート」を作成し，目標を明確にして計画的に学習に取り組むとともに，日々の学習の振り返りや日常生活での気付きを記録し自己理解を深めている。これを「総合的な学習の時間」と関連付けることにより，表現力や発信力，自ら課題を発見し主体的に問題解決に当たる能力等を育成している。

5 課題研究やボランティア活動等における地域や大学等と連携した取組【H20 年度～】

地域や大学・企業との協働による地域インフラの長寿化・維持管理についての課題研究や小・中学生対象のものづくり体験教室，特別支援学校との支援器具の製作を通じた交流，高齢者施設でのボランティア活動など，地域とかかわり地域の一員として社会に貢献することで自己肯定感・有用感の醸成を図っている。

推薦理由

鹿角市では、「子どもが輝く学校教育の推進『学び』『こころ』『ふるさと』そして未来へ!」を基本理念として、鹿角市学校教育振興基本計画（平成 23 年度～平成 32 年度）の中で、ふるさと教育を基盤としたキャリア教育の充実を重点施策の一つに掲げてきた。平成 25 年度から実施している「ふるさと・キャリア教育推進事業」では、職場体験の受け入れ先や講師等の情報をデータベース化し、児童生徒の体験希望をコーディネートする他、キャリアノートを全児童生徒に配付し、キャリア教育の推進を図ってきた。また、平成 13 年度から実施している「ふるさと生き生きネットワーク事業」は、各校で行われている特色ある活動を支援するもので、近年はキャリア教育の視点を取り入れた活動の充実が図られている。これらの取組が高い評価を得て、平成 27 年度には、十和田中学校の「十和田魅力アッププロジェクト」がキャリア教育優良校として文部科学大臣表彰を、八幡平中学校の「八幡平ボランティアガイド」がパナソニック教育財団の「こころを育む活動」全国大賞をそれぞれ受賞した。

【ふるさと・キャリア教育推進事業】

1 目的

職場体験や地元企業人による講演等により、勤労観や労働環境、社会・経済の仕組み等について理解し、児童生徒の社会人・職業人としての自立を促す機会を充実させる。

2 ガイドライン

小・中・高 1 2 年間のキャリア発達を促すための学習プログラムとして、育成することが期待される具体的な能力や態度を示す。

3 関係機関との連携：鹿角市ふるさと・キャリア教育推進連携協議会（H25 設立）

学校代表者、高等学校の担当者、市役所の関係する各課、ハローワークや商工会等と会議を年 1 回実施

4 夢探究プロジェクト「夢たん」（H26 開始）※学校単位の実施に加え個人での職場体験も実施

職場体験・見学の受入登録事業所 148 社 「夢たん」を活用した児童生徒は 883 名（H27 実績）

登録事業所はデータベース化してホームページに掲載し、実施状況等をまとめた「夢たん」通信を毎月 1～2 回発行

5 「夢たん」ボランティアパワープロジェクト（H27 開始）

地域・企業が行っているイベントの手伝い等のボランティアを紹介

ボランティア依頼→各校へ募集票→ボランティア受付・実施→ふれあいボランティアパスポートの活用

H27 年度は 5 件のボランティアの依頼があり 31 名が参加

6 成果と課題

○ 企業の受入体制が整い、学校や個人の職場体験等の活動が円滑に実施できるようになった。

△ 職場体験希望が一部の企業に集中する傾向があり、受入事業所の一層の周知が必要である。

【ふるさと生き生きネットワーク事業】

1 目的

鹿角の美しい自然や人々とのふれあいを通じ、ふるさとのよさを体感し、特別活動や総合的な学習の時間等で、キャリア教育の視点を加味したふるさと学習の充実を図り、各校の特色ある教育活動を推進する。

2 事業費

1 校当たり 30 万円を上限として、活動に必要な経費を補助

3 活動内容

各小・中学校で定めたテーマに基づいたふるさと・キャリア教育を実施

〈主な活動例〉

① 自然体験活動や郷土芸能の継承活動

② 学校農園等での農作物栽培と収穫物の加工販売体験

③ 地域や企業等との連携による地域の食材を活用した商品開発と販売

④ 市内観光地でのボランティアガイドの実施

4 成果と課題

○ 様々な人々との関わりによって、表現力やコミュニケーション能力の向上が図られた。

△ 学年に応じたキャリア発達を促すために、小・中学校の連携を一層図る必要がある。

＜秋田県＞（種別：学校）五城目町立五城目第一中学校

推薦理由

＜特色ある教育活動＞

本学区は、500年の伝統を誇る五城目朝市が栄え、伝統工芸、製材、醸造業が発達し、商工業都市を形成している。学区の特色を活用し、職場体験活動や講話会等を実施するなど、「地域に根ざしたキャリア教育」を推進している。

1 職場体験学習（1年生：1日、2年生：5日）

・ 事前指導

1年生における職業を知る学習が、2年生の職場体験の事前指導になっている。履歴書を書いて各事業所に提出するなど、自分のこれまでの振り返る活動を実施している。

・ 事後指導（小学校との連携）

学んだことを整理し、小学生に発表する活動を実施している。

・ 地域、産業界との連携

成果発表会には、各事業所の方々も招待している。町の教育委員会とも連携して、地域、産業界とのつながりを深めている。

2 学校支援地域本部との連携

・ 学校支援ボランティアによる学習支援が行われている。

3 五城目町地域おこし協力隊と連携した教育活動の推進

・ 五城目町地域おこし協力隊（五城目町への移住者）の協力を得て、ふるさと五城目の地域活性化に向けた方策を構想する総合的な学習を実施している。

4 同窓会講話会の実施

・ 各分野において活躍している五城目町出身者の卒業生を招いて、年1回、同窓会講演会を実施し、高い志を育てている。

平成25年 秋田県教育長 米田 進氏

平成26年 高校野球指導者 嶋崎 久美氏

平成27年 製材業の経営者 菊地 成一氏

5 進路講話会の実施

・ 平成27年度から、適切な進路を選択できるよう、年4回実施している。今年度も秋田市内の高等学校4校の校長を招いて進路講話会を実施した。

＜秋田県＞（種別：学校）秋田県立花輪高等学校

推薦理由

当該校は、平成24年度から平成26年度まで秋田県教育委員会から「キャリア教育実践モデル校」に指定されたことを機に、それまでの取組を見直し、学校全体でキャリア教育に取り組む体制を整え、社会が求める能力を身に付けさせるために有効な手立てについて研究を進めた。

特に、従来から行っていた総合的な学習の時間のまとめ取りである「針路の日」を軸にした総合的な学習の時間の体系化、社会人講話や除雪ボランティアの実施、キャリア教育の効果を可視化した「チャレンジングリスト」の実施、そして、これらイベント型のキャリア教育に加えて、授業におけるキャリア教育の取組である「アクティブ・ラーニングの視点での授業改善」は、モデル校指定後も継続、発展したものとして進められている。これらの取組は全国的にも先進的なものとして評価されている。

1 「針路の日」を軸にした総合的な学習の時間の体系化

総合的な学習の時間を体系化し、どの時期に何をするのかを明確化した。このことにより、学校全体として取り組む共通認識が構築された。また、実践モデル校指定後もアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた探究的な取組を行うなど、進化を続けている。

2 社会人講話や除雪ボランティアの実施

実践モデル校となったことを契機に行った取組であるが、生徒の社会への考え方や自己有用感の構築に非常に有益であることから、その後継続して実践している。

3 キャリア教育の効果を可視化した「チャレンジングリスト」の実施

先進的な学校の取組に学び、本校の要素を取り入れたセルフチェックとして有用なツールである。自身を振り返ることで、「できていること」「今後できるようになるべきこと」がわかり、未来の自分を考えることができる。また、データを集計することで教師の側は、キャリア教育の各項目に対する変容を見ることができている。

4 「アクティブ・ラーニングの視点での授業改善」への組織的な取組

イベント型のキャリア教育に加えて、授業におけるキャリア教育の取組である「アクティブ・ラーニングの視点での授業改善」を、2年前から学校全体で組織的に行った。生徒により効果が見られてきているとともに、授業改善の雰囲気は校内に波及した。実践モデル校指定後も継続して実践され、更なる進化・発展を続けている。

<秋田県> (種別：学校) 秋田県立比内支援学校

推薦理由

比内支援学校は、平成27年度に秋田県教育委員会から「特別支援学校職域開拓促進事業」の推進校に指定されたことを機に、開校から40年以上に渡って築き上げてきた地域との連携による職業教育を土台とし、更なる充実を図るため、新たな職域の開拓と開拓先事業所との連携による職業教育の実践を行っている。また、高等部においては、地域の行事に参加し作業学習製品等を販売するなどして、地域を学ぶとともに、人と関わる力や責任感等の育成に努めた。これら一連の教育活動により、平成27年度高等部卒業生の一般就労希望者全員が本人の希望にかなった進路実現を果たした。

平成27年度秋田県キャリア教育実践研究協議会において、生徒自らが本実践について発表し、特別支援教育関係者のみならず、小・中・高等学校のキャリア教育推進に携わる関係者から高い評価を受けた。

以下に主な特色を示す。

1 地域の伝統工芸・地場産業を取り入れた学習活動

(1) 高等部作業学習木工班の取組

作業学習に地域の伝統工芸である「曲げわっぱ」づくりを導入し、伝統工芸士から直接技術指導を受けながら学習活動を展開した。伝統工芸の難しい作業工程に挑戦することで、自分の仕事に自信と誇りをもって取り組む生徒が増えた。これにより、地域で認められる質の高い製品づくりができるようになった。

(2) 高等部作業学習農園芸班の取組

大館市の特産品である枝豆の栽培で、JAあきた北から農薬のまき方や収穫の仕方などの技術指導を受けた。また、業者と連携し、収穫した枝豆を使ったシフォンケーキを開発するなど6次産業化に取り組んだ。

地域のバラ園から苗木を無償提供してもらい、栽培技術を学びながらバラの販売を目指して取り組んでいる。今後、バラの栽培技術を身に付けた生徒が、バラ園の担い手になることも視野に入れて指導している。

2 地域行事への参画

高等部の生活単元学習において、学年ごとにテーマを決めて地域行事に参画する中で、人と関わる力、自信をもって活動する力、責任をもって働く力を育てている。3年生が参加したハチ公よさこい祭りで演舞した「比養絆舞桜」は最優秀賞を受賞した。この学習を通し、地域の一員である意識が高まり、生徒一人一人の責任感の育成につながった。

<山形県> (種別：学校) 山形県立鶴岡中央高等学校

推薦理由

普通科と総合学科の2学科を持つ当該校は、目指す生徒像に「立志・気づき・共生」を掲げ、山形県庄内地域に根ざし、地域を支える人材を育成するために、「地域との共生」をキーワードにした特色あるキャリア教育を展開している。

【具体的な取組内容①総合学科での取組】

総合学科は家政科学系列、社会福祉系列、情報科学系列、美術・デザイン系列、国際交流系列の5系列を持ち、1年次で生徒全員にインターンシップを体験させて、職業意識を醸成したうえで専門分野の学習に取り組んでいる。キャリア教育も「産業社会と人間」(1年次)、「総合的な学習の時間」(2年次)、「課題研究」(3年次)と段階を追って進められており、総まとめとなる「課題研究」等では自ら課題を設定し、地域と密着した取組が多数行われている。(以下の取組はその一部)

1 シルクガールズプロジェクト(鶴岡シルクタウンプロジェクト・家政科学系列)

鶴岡の絹の歴史や産業を学び(シルクツアー)、鶴岡シルクを素材としたドレスを製作し、ファッションショー(シルクガールズ♥コレクション)を通して鶴岡シルクの魅力を発信し絹関連産業の振興を図っている。

2 いきいき高齢者元気アッププロジェクト(社会福祉系列)

鶴岡の名所、特産物などを入れた高齢者に馴染みやすい曲を自作、曲に合わせてできる「介護予防体操」を創作した。高齢者の集まり等で「介護予防体操」を紹介しており、DVDを配布している。老人福祉施設で、来て欲しい、DVDが欲しいという要望も頂いている。

3 観光甲子園の取組(情報科学系列)

地元商店街とのコラボ企画など地元と密着した企画の経験を活かし、鶴岡らしさをテーマに添えた観光プランを提案している。この企画は平成26年度観光甲子園で全国グランプリを獲得した。

4 のぼりプロジェクト(美術・デザイン系列)

地元商店街を象徴するのぼりをデザイン・制作し、そののぼりを各店舗で使用してもらっている。商店街のにぎわいの創出と各店の広告の一助を担っている。

【具体的な取組内容②全校での取組】

5 高大接続の新しい形を探る取組

高大接続の新しい形を探る取組として、平成21年度より隣接する慶應義塾大学先端生命科学研究所(以下「先端研」)の研究助手として、生徒が高度な研究を進められる制度を設けている。研究成果をもとに慶應義塾大学環境情報学部へAO入試で進学するなど、高大接続改革を先取りする取組を行ってきた。

6 国際交流・小中高大連携の取組

表現活動を重視する英語のスピークアウトの授業を先駆けて実施するなど先進的な取組をしてきた本校は、国際交流についても、外国人との交流を含め多くの活動を行っている。また、鶴岡を舞台に実施されている小中高大連携プロジェクトの中核校として、小学校・中学校と連携して英語の啓蒙活動を行っており、連携先生徒児童だけでなく、本校生徒のキャリア形成に繋がっている。

7 鶴岡サイエンスパークとの連携

先端研の研究成果により起業されたバイオベンチャー企業が林立する鶴岡サイエンスパークの企業経営者や技術者との交流授業等を普通科を中心に行う事で、生徒の進路意識の向上を促している。また、鶴岡サイエンスパークの開発を手がけるYAMAGATA DESIGN(株)から学校評議員を迎え、学校運営に反映させている。

8 体験型キャリアガイダンスの導入

1年次全生徒に対し(今年度から普通科生徒にも対象を拡大)、地元企業を本校に招いて体験型キャリアガイダンスを開催し、地元企業や産業に対する理解を深め、地元に貢献しようとする意識の醸成を図っている。

9 キャリア教育地域連絡協議会幹事校としての取組

平成26年度から、県教育委員会の事業である「キャリア教育地域連絡協議会」の幹事校を努め、「若者の県内定着」のため、「地域の現状と県内定着」等の講演会を関係機関と連携して開催するなど、地域の課題解決に向けた事業運営を行っている。

以上のとおり、総合学科・普通科の両方で優れた実践に取り組み、地域を支えてきた地場産業から新しいバイオベンチャー企業まで連携するなど、学校の教育活動全体を通して系統的・体系的なキャリア教育に取り組んでいる好事例と言える。

<福島県>(種別:教育委員会)いわき市教育委員会

推薦理由

いわき市教育委員会では、平成23年度末から、今後の教育行政の目指すべき基本的方向性を「いわきの復興に向けた教育メッセージ」として継続的に発表してきた。その後、平成28年2月には、本市における教育・文化・学術の振興に関する施策の基本的な方向性をまとめた「いわき市教育大綱」を発表し、教育先進都市「いわき」の実現に向け、各般の施策に取り組んでいる。

この教育大綱の理念や目標のもと、新しい時代を切り拓くために必要な力の育成に向け、キャリア教育を柱とする「いわき生徒会長サミット」や「いわき志塾」、「体験型経済教育」、「いわきっ子 チャレンジノート(中学生版)」などの事業を通して、「知・徳・体」のバランスの取れた「生きる力」を高めるための取組を展開し、いわきを支え、日本を支え、夢や未来に向かってチャレンジする人づくりを推進している。

【具体的な取組】

1 いわきグローバルアカデミー「いわき志塾」

本市においては、平成23年度から「いわき生徒会長サミット事業」を実施している。この事業では、市内中学校の生徒会長が共通のテーマについての意見交換や実践活動を通して、生徒の自主性・自立性を育むとともに、著名人を招いての講演会の開催、長崎市での生徒間交流や平和教育、海外派遣などにより、リーダーとしての資質向上を図ってきた。

平成26年度からは、生徒会長のみならず、市内中学生から参加希望者を公募し、いわきグローバルアカデミー「いわき志塾」を開設している。この「いわき志塾」では、国内外の企業のトップやプロスポーツ選手など、各分野のスペシャリストを講師として招き、年間10回程度、講義やグループでのワークショップを実施し、講師の哲学や人間力、生き方に触れるとともに、夢の実現のために何をなすべきかを学び自らの生き方を考える機会としている。

この「いわき志塾」では、講師の話をお聴きだけでなく、少人数グループで内容をまとめ、工夫を凝らして発表する活動を行うことにより、コミュニケーション能力や表現力の育成にも結びついている。

2 体験型経済教育施設（エリム）を核としたキャリア教育の推進

平成26年度から、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本といわき市教育委員会が協同で提供するプログラム（「スチューデント・シティ」と「ファイナンス・パーク」）を実施するための専用施設である「いわき市体験型経済教育施設（エリム）」において、協賛企業の協力により、施設内に再現した「街」の中で、子どもたちが社会のしくみや経済の働きについて体験学習を行っている。

(1) 体験学習の実際

各学校では、総合的な学習の時間での事前・事後学習（9時間）、当施設での体験学習（6時間）を行う。

① スチューデント・シティ（小学校5年生）

市民として、働く側と買う側の両方を体験し、売る行為と買う行為が繋がっていること、買う行為は働いて得られた収入によって成り立ち企業間も互いに支え合って成り立っていることなど、社会は仕事（働くこと）を通じて支え合っているという共存社会の姿を学ぶ。

② ファイナンス・パーク（中学校2年生）

将来への希望や目標を持ち、自己の在り方・生き方について深く考え将来なりたい自己に向かって進路計画を立てて実行しようとする態度や能力を身に付ける。また、学んだ知識を自分のものとして実際に使えるよう自ら考え、意思決定し、行動に移す場であり、子どもたちが生涯にわたって賢い生活者としての意思決定の大切さを学ぶ。

体験型経済教育施設（エリム）での学習がキャリア教育の一部として最大限に生かせるよう、平成27年度に、「いわき市小・中学校キャリア教育全体構想」を作成し、小・中学校の発達段階に応じて基礎的・汎用的能力を育成するための活動を明示した。その中で、小学校5年生、中学校2年生の児童生徒に限らず、他の学年においても系統的な指導が可能となる「わたしたちのまち」、「CAPS」、「MESE」等のプログラムも希望する学校に提供している。

(2) 教員向け研修

指導する教員の資質向上のために、体験型経済教育施設（エリム）を利用するための研修として、「総合的な学習担当研修」（全小・中）、市教育委員会で実施しているプログラムを基軸としたキャリア教育実践化のための講座として、「経済教育講座」（希望者及び教員免許状更新講習での選択者）、新任管理職及びいわき市で初めての管理職（校長・教頭）を対象とした「実務研修」において経済教育について研修を行っている。

また、今年度は、7月に「CAPS」の研修を2回行い、併せて小学校87名、中学校4名が、小学校5年生と中学校2年生をつなぐプログラムを体験した。

その他、体験型経済教育施設（エリム）を活用した体験学習については他市町村教育委員会にも紹介し、県内及び近隣市町村の児童生徒も当施設を利用して体験学習を行っている。

3 「いわきっ子 チャレンジノート（中学生版）」

キャリア教育の一環として、市内の中学生が現在抱えている将来の夢や目標、その実現のための考え方や決意を表現して、さまざまな体験活動に臨むとともに、自ら困難にチャレンジしていく意欲や態度を培うことを目的に、今年度から「いわきっ子 チャレンジノート（中学生版）」を作成、活用している。

このノートは、学年ごとに、「自己理解」、「夢や目標」、「実現のために努力すること」、「年度途中及び中間・1年間のまとめと振り返り」などから構成され、生徒の率直な考えや決意などを記入するもので、学期末や学年末などにおいて、学級担任がコメントを記入するなど、生徒の夢や目標の実現に向けた支援を行う。

なお、来年度に向けて、小学生版を作成する予定である。

このように、いわき市教育委員会では、東日本大震災の復興、そして今後の「まちづくり」に最も重要なことは「人づくり」であるとの考えのもと、いわき市子どもたち一人一人の個性や能力を磨き、それらが最大限に発揮できる「学びの場」として、これらさまざまな事業に取り組んでいる。

<福島県> (種別：学校) 柳津町立西山中学校

推薦理由

西山中学校は全校生12名。柳津町東部の山間地域に位置し、地域は近年少子高齢化が著しく進行している。西山中学校では、取り組むべき課題として、この「過疎・高齢化」という大きな問題に目を向け、「アントレプレナーシップの育成」という切り口でその課題に応えようとしている。

「過疎の要因は若者が町から出て行くこと」「若者が町から出て行くのは仕事がないから…」「仕事がなかったらつくればいい」「では、この地で起業するには…」

この課題に対し、生徒たちは、発信するに足る地域の特色や魅力を積極的に掘り起こし、その上で、地域の魅力を紹介する「旅行パンフレットづくりプロジェクト」、地元の温泉施設で提供する「温泉たまごを活用した創作料理のメニュー化プロジェクト」、地域の風習をモチーフに工芸品を創作する「みやげ物の開発プロジェクト」、10年後、20年後の美しい景観を目指した「紅葉の小径プロジェクト」など、多くの実践に取り組んでいる。

「みやげ物の開発プロジェクト」では、地域の風習をモチーフにして現代風の「ストラップ」を創作し、その製作を地域のお年寄りにも依頼した。製品のやりとりを通して、お年寄りには孤立化防止、生徒には貴重な異年齢交流の場ともなった。また降雪期には、生徒が一人暮らしの老人宅の除雪作業を行うなど、ボランティア活動の場ともなっている。これらの運営は、生徒による模擬会社「西中ほのぼの夢工房」を通して行い、町の道の駅や旅館、店舗での販売を行っている。

模擬会社「西中ほのぼの夢工房」では、さらに、地域の特産品「桐」を用いた民芸品の開発・販売にも取り組んでいる。販売にあたっては、地域の旅館・店舗に販売を委託する他、地域の祭礼等において模擬店舗を出店し、販売活動を体験した。

消えつつあった地域の風習を掘り起こし、新たな民芸品を開発、また一連の活動を通して地域のよさに気づき、地域の課題解決に真摯に向き合った生徒たち。地域に見守られる存在であった中学生が、地域に提言し、地域をも動かす存在となって活動している。

<茨城県> (種別：教育委員会) 日立市教育委員会

推薦理由

日立市教育委員会は、生涯学習課を事務局として、平成22年から日立市職業探検少年団の本部となり、経済団体、大学、職能団体、NPO法人などの関係機関の協力を得て、キャリア教育の推進に取り組んでいる。

【具体的な取組について】

○ 日立市職業探検少年団本部について

平成18年に7つの少年団で活動を開始し、その本部として日立商工会議所が事務局となり設立された。

早い段階から働くことに対する意識や職業観を育てることを目的として活動している。今年度で11年継続して取り組んでいる。

○ 本部役員について

日立商工会議所や日立市建設組合、日立理科クラブ、日立市社会福祉協議会など、様々な分野の方々で構成されている。

○ 職業探検少年団の内容について

「農業探検少年団」「林業探検少年団」「水産業探検少年団」「ものづくり探検少年団」「パソコン探検少年団」「福祉探検少年団」「科学探検少年団」「建築デザイン探検少年団」「観光探検少年団」「メディア探検少年団」「あきんど探検少年団」の11少年団があり、市内の小中学生が参加している。

それぞれの少年団が、土日や長期休業を利用して、専門の指導者のもとで活動している。普段学ぶことので

きない働くことの大切さや楽しさを体験を通して実践することができ、社会的・職業的な自立に結び付く取組である。

【ホームページ】 <http://www.cnet-hitachi.com/tanken/>

＜茨城県＞（種別：学校）白鳥学園（那珂市立瓜連小学校、那珂市立瓜連中学校）

推薦理由

那珂市では、独自の学園制度を敷いて9年間を見通した小中一貫教育を進めている。当該両校は、小学校1校、中学校1校の学区を白鳥学園と命名し「郷土を愛し、夢や希望をもち、自ら学びたくましく生き抜く児童生徒」という共通の目指す児童生徒像を設定し、主に教科指導を通して実践する「キャリア教育の充実」に努めている。

実践にあたっては、小中合同のキャリア教育の年間指導計画として、小学1年生から中学3年生までの9年間に対応した、独自の指導プラン「白鳥学園キャリア教育物語」を開発し、各教科のつながりを系統的にとらえて実践している。

さらに、地域と学校の緊密な連携体制構築に向け、学校運営協議会(白鳥学園コミュニティ・スクール)を設置し、地域教育の側面からもキャリア教育の推進に努めている。

【具体的な取組について】

1 児童生徒の社会的・職業的自立に向けた小中合同の研究の推進について

① 児童生徒の実態把握

・ 小中合同の意識調査を実施し、以下の3点を社会的・職業的自立に向けた課題とした。

ア：人間関係形成力の育成、イ：自己有用感(自己理解)の向上、ウ：地域理解の促進

② キャリア教育推進キーワードの設定

・ 児童生徒・教職員・地域三者共通のキーワードとして「つながる」を設定した。

③ 教職員の資質向上に向けた小中合同運営会議、小中合同研究推進会議の設置

2 他校種や地域との連携を含めた組織的・系統的な取組について

① 小中合同キャリア教育年間指導計画の作成

・ 地域教育を軸にした年間指導計画「白鳥学園キャリア教育物語」を作成した。

② 小中合同学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の設置

・ 学校教育に地域の声を反映させ、連携活動を推進するため、合同の学校運営協議会を設置。

③ 小中学校合同の交流授業の実施

・ キャリア教育の年間指導計画に基づいたテーマ別交流授業の実践。

・ 防災キャンプや「いのちの講演会」など、地域理解や将来設計につながる学校行事の推進。

3 児童生徒の地域に対する理解・愛着・誇りを育む取組について

① 積極的に地域教材を活用した授業づくり

・ 職場体験や見学を行い、地域の一員としての自覚や将来への地域貢献の意欲促進に努める。

・ 年間計画に地域教材の活用を位置づけ、継続的な学習を進め、地域への愛着の向上に努める。

② 地域施設への訪問学習

・ 福祉施設や幼稚園等への訪問を行い、交流活動を実施している。相手意識をもった活動の実践を通して、地域に生まれ、育つことの誇りを実感させる。

4 適切なキャリア教育推進に関する検証、改善に向けた取組について

① 小中合同研修会及び授業研究会の実施

・ 教科におけるキャリア教育の指導の在り方について、検証授業を実施している。

② 児童生徒、保護者及び地域住民を対象とした意識調査

＜茨城県＞（種別：学校）常総市立水海道西中学校

推薦理由

水海道西中学校では、「人・地域・仕事・生き方」を各学年のテーマに掲げ、キャリア教育の視点から学校独自の取組を計画的・継続的に進めながら、生徒一人一人のキャリア発達を支援している。本校の学区は、南北20km以上に及ぶ広さがあり、農業、工業、新興住宅地など、多様な生活環境が存在している。このような生活環境の中で育まれた職業観・勤労観を深化させ、自らの学習意欲を高めようとする取組に焦点をあてたキャリア教育

を推進している。

【具体的な取組について】

1 他校種や地域・産業界等との連携・協力の取組

- 中1オリエンテーションキャンプ [人間関係形成・社会形成能力]
中学校に入学して間もない時期に、協働して様々な活動をする中で、働いていくための基礎となるコミュニケーションスキルや他者の個性を理解する力を育てている。
- 小中交流会 [課題対応能力]
生徒が主体となって小学生の体験入学を計画する取組である。手形アートの制作や人文字作りなど、小学生との協働作業を中学生が企画・運営することで、実行力を育てている。
- 職場体験学習 [キャリアプランニング能力]
50の事業所から興味関心を持った職業を選び、3日間にわたって体験学習を行っている。実施に当たっては、3ヶ月前から事前学習を重ね、体験後はまとめを保護者向けに発表するなどの事後学習を行っている。

2 独自の組織的・系統的な取組

- 朝コミ(朝のコミュニケーションタイム)の実施 [人間関係形成・社会形成能力の育成]
生徒の思考力や表現力を向上させると同時に、さまざまな考えを受け入れながら自分の考えや価値観を深化させる力を育てることを目的とした取組である。三人一組で行い、「何のために働くのか。」などのテーマについて意見交換を行っている。生徒会朝コミ委員会がテーマを設定し、水曜日朝の会前に実施している。
- 海西版「知の技法」の活用 [課題対応能力の育成]
学び方や学び方のコツ・学ぶ楽しさを教員が手づくりで集約したものである。授業や集会時においても活用し、生徒の学習意欲向上につなげている。
- Thousand Prize 基礎学力テスト [自己理解・自己管理能力の育成]
全ての生徒が見通しをもって意欲的に取り組めるよう、簡単で基礎的な問題を各教科毎に設定し、「やればできる」を全生徒に味わわせることをねらいとした取組である。
- 学力向上カウンセリング [課題対応能力の育成]
学期末における評価・評定を基に、各教科の担当教員と学習に関する個別面談を行う場を設定している。年3回実施し、長期休業中や次学期に計画的に自らの課題を克服しようとする態度や意欲を養うことをねらいとしている。
- 集団行動コンクール [人間関係形成・社会形成能力の育成]
集団で一つの演技を作り上げる活動を通して、集団の一員としての自覚を高め、相手を尊重する態度を育むことをねらいとした取組である。

<茨城県> (種別：学校) 茨城高等学校・中学校

推薦理由

茨城高等学校・中学校は建学の精神「報恩感謝」に基づき、「社会報恩に厚い真のリーダーの育成」を教育目標とし、職業教育講演会や職場訪問等を実施しキャリア教育を推進している。また六年一貫の私立学校として、中学1年から高校2年までその成長段階に応じたキャリア教育を実践し、職業観の育成に努めている。

【具体的な取組について】

1 多くの専門性の高い職業に触れ、そのやりがいを知る中学1年および2年の取組

- ① 弁護士・医師・画家・表具師などの専門的な職業の方に、その仕事内容を説明していただき、困難さとやりがいを理解するための学年単位の講演会の実施
- ② 遠足および林間学校時に地域の職業に触れる取組

2 様々な職業の中から興味関心のある職業を選択し、少人数のゼミ形式の講師との質疑の中で、自らの方向性を確認する中学3年・高校1年・高校2年の取組

- ① 20近くの講座の中から二つの講座を選択する。三年間で六つの講座を受講する。
- ② 遠足時に卒業生の勤める職場を訪問し現場で先輩の説明を受ける。

<茨城県> (種別：PTA団体等) 稲敷市立江戸崎中学校PTA

推薦理由

江戸崎中学校PTAは、キャリア教育の主な活動場面となる職場体験や職業人の話を聞く会などに適切な人材や事業所の情報提供をするなど、生徒会活動や学校行事等への協力を通して、当該校のキャリア教育の目的を具現化させるための学校と家庭、地域の連携に大きく寄与している。

【具体的な取組について】

- 職業人に話を聞く会 (第1学年)
 - ・ 講師の選定や紹介等の協力 (学年PTA)
 - ・ 当日の運営や講師等接待の協力 (学年PTA)
 - ・ 平成27年度は2月27日に実施し、93人の保護者が参加
- 職場体験学習 (第2学年)
 - ・ 職場体験を依頼する事業所の選定や紹介等の協力 (学年PTA)
 - ・ 職場体験事前打合せの指導の際に、事業所役として授業に参加
 - ・ 職場体験学習のまとめとして行う学習発表会への参加
- 進路学習会 (第3学年)
 - ・ 当日の運営や講師等接待の協力 (学年PTA)
 - ・ 7月8日に実施した進路学習会に、84人の保護者が参加
- 生徒会活動への協力
 - ・ 携帯電話校内持ち込み撲滅運動 (携帯撲滅3原則：携帯を校内で「もたず、つかわず、もちこませず」を生徒会が掲げたときには、学期末PTAの懇談会で、携帯電話等の所持について保護者の話し合いを全学級で実施)
- ボランティア活動 (江戸パンボラ)
 - ・ 江戸パンボラ (生徒主体のボランティア活動：江戸崎中パンプキンボランティアの略) に対し、PTA本部役員もボランティアとして参加
 - ・ 平成27年度は、祇園祭の片付けや花火大会会場の片付けや清掃等にPTA本部役員がボランティアとして参加
- あいさつ運動
 - ・ 生徒が登校する時刻に、各地域や昇降口前であいさつ運動を実施
 - ・ 第3学年では6月20日～24日の間、朝のあいさつ運動と学年授業参観を実施。5日間で延べ63人のPTAが参加
- PTAスクールサポーター
 - ・ 実習サポーターとして家庭科における調理実習の支援
 - ・ 図書サポーターとして生徒用図書の整備

<群馬県> (種別：学校) 富岡市立小野小学校

推薦理由

富岡市立小野小学校は、平成26年度からキャリア教育推進事業の実践校として県の研究指定を受け、キャリア教育を基盤とした「生きる力」を育成する教育活動を展開している。キャリア教育の視点で教育課程を見直し、平成27年度には、研修主題を「志をもち、自らの生き方を切り拓く児童の育成～キャリアシートの活用を通して～」とし、中間発表会を開催した。

1 キャリア教育全体計画と年間指導計画の作成・活用

(1) キャリア教育全体計画

本校は、キャリア教育全体計画作成にあたり、児童の実態を分析し、基礎的・汎用的能力と照らし合わせて、キャリア教育で身に付けさせたい5つの力を設定した。学年の重点目標と各力を身に付けるための手立てを、キャリア教育実践上の視点に基づいて整理し、全体計画を作成した。各力を5色に塗り分けてイメージ化し、全体計画やワークシート、掲示物などすべてで使用することで、児童や指導者が視覚的に捉えやすくなり、実践を推進することに役立った。

(2) 年間指導計画（教師用キャリアシート）

年間指導計画は、年度始に学年ごとに5つの力を身に付けさせる単元を構成し、「教師用キャリアシート」と名付けて活用している。教師用キャリアシートは、学習中の児童の姿を記録し、最後に児童の変容を示す学習場面を画像を用いて記録する形式を考案した。これにより、教師用キャリアシート一枚でPDCAサイクルにおける評価・改善ができています。

(3) 児童用キャリアシート

児童のワークシートは「児童用キャリアシート」と名付けて使用している。児童は初めに単元終了後の自分の姿を想像して「ゴールのイメージ」を記入する。毎時間後に振り返りをし、単元の最後に自分の成長や変容を記録する。ポイントは、児童が「自分の姿」をイメージすることで、単なる事実の振り返りにとどまらず、5つの力の達成を見える形で捉えることである。

2 キャリア教育を意識した授業づくり

本校は、児童が「自分事」として課題をとらえる動機づけと、自分の学びを振り返る「内省」の時間を設定した授業を実践しており、児童一人一人がゴールのイメージをもち、自ら課題に向かうことで主体的に授業へ取り組めるようにしている。

キャリア教育の視点を意図的に取り入れた授業を展開するため、キャリア教育で目指す児童像やキャリア発達を促す手立てなど、キャリア教育の視点を取り入れた学習指導案の形式を考え、各教科とキャリア教育との関連性を図った授業づくりを行っている。

3 地域連携

(1) キャリア教育地域推進協議会

校区内の区長代表、農業団体、商工会代表者、学校評議員等と富岡市立北中学校及び小学校関係者からなる地域推進協議会で、北中校区のキャリア教育推進状況を定期的に報告し、ご意見を伺うと共に協力を要請している。地域人材である専門家や特定の知識や技能をもっている人を講師や授業の支援者として依頼し、本物や本質に触れる豊かな体験活動ができるように実践している。

(2) 校種間連携

富岡市立北中学校との連携を深め、9年間のつながりを意識した教育活動を通して、「児童にどんな力をつけて富岡市立北中学校に進学させるか」ということを研究し、授業実践や先進校視察、外部講師による研修会など、積極的に実施している。

<群馬県>（種別：学校）富岡市立北中学校

推薦理由

富岡市立北中学校は、平成26年度からキャリア教育推進事業の実践校として、県の研究指定を受け、キャリア教育を基盤とした「生きる力」を育成する教育活動を展開している。キャリア教育の視点を取り入れて、教育課程を編成し、昨年度は西部地区全体へ向けた中間発表会を開催した。

1 組織的・系統的な取組

- (1) キャリア教育推進委員会：校長・教頭・教務主任・キャリア教育主任の4名で隔週開催し、指導計画の策定や計画推進のコーディネートを行っている。
- (2) キャリア教育学校間会議：連携校の富岡市立小野小学校と毎月開催し、「北中校区キャリア教育グランドデザイン」の作成や研究進捗状況の情報交換を行っている。
- (3) 基礎的・汎用的能力（「身に付けたい力〈6つの姿〉」）の設定：小野小学校で設定したキャリア教育で児童が身に付けていく5つの力・心を発展させ、北中生徒の実態を踏まえ、6つの高めるべき姿として設定した。特に6つめの「よりよい生き方を求め続ける姿」は、小中一貫の9年間のキャリア教育の集大成として、社会人としての自分の未来に向かう力の育成を目指している。
- (4) キャリア教育全体計画の作成：北中校区・小野小学校・北中学校の三葉をそれぞれ作成して、9年間を見通して組織的・系統的に実践している。

2 教科指導を中心としたキャリア教育の推進

- (1) 年間指導計画（教師用キャリアシート）：各教員が全学年の授業に関われるという小規模校の特性を生かし、3年間を見通した教科をつなぐキャリア教育年間指導計画（教師用キャリアシート）を作成し、教科指導を中心としたすべての教育活動を通して6つの姿の達成を目指している。

(2) 生徒用キャリアシート：ポートフォリオをアレンジした「生徒用キャリアシート」を活用することで、教師は授業の中で、生徒の目指す姿を具体的に意識した指導をしている。授業後の振り返りでは、教師と生徒が常に「今の授業が将来につながっている」ことを意識でき、そのような授業を積み重ねることで、主体性や学習意欲を高めることができている。

(3) キャリア教育に係る合い言葉の設定：全ての授業が、未来の自分の成長につながっていることを示す、教師と生徒の合い言葉「今の授業がつながる未来」を設定し、ポスターにして提示するとともに、折に触れて紹介することで、生徒のみならず教師も生徒の成長を意識して指導している。

3 職場体験学習を中核とした体験学習

二年生の職場体験学習を中核に据え、一年生の職業調べ、三年生の高校訪問を系統的に位置付け、3年間を見通した体験学習を行っている。また、それぞれの体験学習の事前学習・事後学習を充実させ、単なる事前準備や体験発表にとどまらず、自らの生き方を見つめさせる工夫を行っている。

(1) 職業調べ(1年)：校区内事業所や個人への職業インタビューを通して、コミュニケーション能力、表現力を育て、職業観の醸成を行う。

(2) 職場体験学習(2年)：校区内事業所や農家等での3日間の職場体験学習を中核に、ホテルマンによるマネージャー講座、校区内大企業新入社員による職業講座、後輩や地域住民に向けた職場体験発表会を通して、働くことの意義や役割の理解を通して自己の生き方を考えさせる。

(3) 高校訪問(3年)：進路決定のため、オープンスクールや学校開放日等での高校訪問の計画作成と訪問を通して、将来への展望と社会人としての生き方の覚悟を持たせる。

4 地域連携

(1) キャリア教育地域推進協議会：校区内の区長代表、農業団体、商工会代表者、学校評議員等と北中学校区内の富岡市立小野小学校及び北中学校関係者からなる地域推進協議会で、北中校区のキャリア教育推進状況を定期的に報告し、ご意見を伺うと共に協力を要請している。

(2) 校種間連携：富岡市立小野小学校との連携を深め、9年間のつながりを意識した教育活動を通して、授業実践や先進校視察、外部講師による研修会など、積極的に実施している。また、卒業後の高校1年生から、自校の様子を直接説明してもらうことを通して、高校への理解を深めるとともに、卒業後も自校や地域に貢献する意欲を高める。

(3) 職業調べ・職場体験学習：職業調べや職場体験学習は、全て校区内の事業所や農家等に依頼し、地域で活躍する人材の素晴らしさを実感させるとともに働くことの意義を考えさせる。

(4) 地域行事や小学校行事への参加：地域の体育祭等では、係員として共に行事を創り上げ、学習の成果を還元している。また、小野小学校の焼きいも集会などには先輩として焼き方の指導に赴いたり、地域の獅子舞で小学生を指導するなど、伝統芸能の伝承にも力を入れている。

<埼玉県> (種別：学校) ときがわ町立萩ヶ丘小学校

推薦理由

埼玉県比企郡ときがわ町立萩ヶ丘小学校では、同じ比企地区内の東松山市にある大内製作所の企業理念「5S(整理・整頓・清掃・清潔・習慣) + 1K(改善活動)」の考えを学校教育に生かしたキャリア教育を推進している。

大内製作所の大内一郎氏の企業理念である「5S(整理・整頓・清掃・清潔・習慣) + 1K(改善活動)」を中心に指導していただきながら、以下の内容に取り組んでいる。

1 【児童一人一人の自立】

「自分のことは自分で行う」「自分たちの使う場所は自分たちできれいにする」という基本的内容、5Sを掲げることで児童とともにもう一度見直した。整理・整頓・清掃などが自分のためだけでなく「次に使う人のため」であることも意識させて取り組んでいる。

2 【大内氏による講話朝会】

児童への啓発として、5Sに関する講話朝会を実施した。整理・整頓の意味や清掃・清潔・習慣の大切さ、難しさを教えていただいた。

3 【児童一人一人の職業的自立】

望ましい職業観を「深い職業観・多様な職業観」ととらえ、今まで見えなかった職業を「見える化」する授

業、社会科を中心として行う。その際、企業で使われている特性要因図の活用を指導していただき、教育用に作り替えた。

4 【教職員研修】

児童の意識を変えるためには、まず職員が5S+1Kへの意識を率先して持つことが大切である。そのために大内氏からの指導を校内研修とし、学校現場にはない視点を連携により得る機会を多く設けている。今年度からの取組であるが、現在までに、職員室の机の引き出し・掲示物・一輪車置き場・竹馬置き場・ビート板置き場・プール清掃用モップ置き場・トイレのスリッパ・黒板消しクリーナー置き場・学校図書館・教材室・校歴展示・地域教材展示・音楽準備室・職員室の収納空間などの5S+1Kを行った。

5 【5S+1Kを地域との連携・協力で行う】

地域の方に協力していただき5S看板を作成し、昇降口に掲示した。また、地域で行う資源回収・奉仕作業時に協力を要請し、教職員と地域・保護者による「体育倉庫清掃」を行った。

大内氏の話から、児童の意識が変わり、計画的・継続的に「5S+1K」を意識して、進んで清掃活動に取り組んだり、誰もが使いやすいようにするにはどうしたらよいかを考えたりして、行動する児童の姿が見られるようになった。また、学校と保護者・地域の連携も深まっている。

以上のように、企業・学校・家庭が連携して取り組み、キャリア教育を積極的に推進していることから推薦する。

<千葉県> (種別：学校) 千葉県立一宮商業高等学校

推薦理由

学校の重点目標に「多様なニーズに対応したきめ細かい進路指導の充実」を掲げ、キャリア教育を体系的・計画的に推進している。

1 インターンシップの充実

平成16年度より現在までの13年間にわたり、2年次に全員参加のインターンシップを実施し、生徒が適切な職業観・労働観を身につけることができるよう、以下の取組を行っている。

<1年次>インターンシップの事前指導として、3学期に2年生の体験談を聞くことで、意識付けを行うとともに、進路指導ガイダンスにより将来の職業選択について考える意識を醸成している。

<2年次>2学年生徒全員を対象としたインターンシップ

- ① 進路ガイダンス
- ② 履歴書作成指導
- ③ 接遇マナー (インターンシップ実習時対策)
- ④ インターンシップ事前指導
- ⑤ 求人票の見方指導 (3年次事前指導として)
- ⑥ エントリーシート記入指導
- ⑦ 面接対策DVD視聴
- ⑧ 進路模擬面接
- ⑨ インターンシップ発表会 (2学年・1学年は代表者が発表)

学校周辺の企業等約90社からの協力を得ている。第2学年160名は、約70社の受け入れ先に原則3日訪問し、働くということを実体験している。

<3年次>

進路未決定者ゼロを目標に、多様なニーズに対応した細かい進路指導の充実を実践。毎月進路説明会・進学相談会を開催するとともに、個別の進路相談や面接指導を行うなどして、きめ細かな指導を行っている。

2 地域貢献活動

地元一宮町にある唯一の高等学校として、地域に貢献するために多くの交流活動を実施している。

① 一宮町地域活性化提案会

高校生の視点から一宮町の活性化を地域に発信。

高校生ビジネスグランプリに参加。

地域貢献という視点からのビジネスプラン作成に取り組んだ。

② 一宮小学校登校支援ボランティア

毎月5日間小学生の登校支援を10年以上続けている。

③ 一宮小学校わくわくパソコン教室

年3回小学校で同校生徒が情報処理の授業のサポートを行う。

④ 九十九里トライアスロン

事前の清掃ボランティアと競技中の給水ボランティアに参加。

⑤ 春・秋開催の地元一宮町上総さずが市

ポスター作成や当日の運営にボランティアとして参加。

3 成果

平成16年度より現在までの13年間にわたり、2年次に全員参加のインターンシップを実施してきた指導の蓄積により、多くの実績をあげている。進路未決定者ゼロを目標に、きめ細かい進路指導の充実を实践した結果、平成26年度は進路未決定者ゼロ、平成27年度は公務員浪人1名のみで、未決定者はゼロである。

地元一宮町にある唯一の高等学校として、地域に貢献するために多くの交流活動を実施したことで、異年齢集団との交流を通して生徒のコミュニケーション能力等を育成し、生徒の勤労観の等の醸成に役立っている。

<千葉県> (種別：学校) 千葉県立船橋古和釜高等学校

推薦理由

平成24年度から学校の重点目標にキャリア教育を位置づけ実践してきた。平成27年度からは「地域連携アクティブスクール」として、企業や大学等、地域の教育力を活用しながら「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を行うことで、自立した社会人の育成を目指している。

1 基礎学力、学び直しの重視

1学年は、学び直しの教材を使って、中学校段階までの国数英の学び直しを行う。教科担当者2名と大学生による学習ボランティア1～2名が授業に加わることで、生徒の理解度の差をきめ細かくサポートしている。

2 実践的なキャリア教育の3本柱

① コミュニケーション能力の向上

コミュニケーション能力を育てるために、ソーシャルスキルトレーニング（良好な人間関係を習得する練習）を授業の中で行い、3年間を見通してステップアップさせる。社会に出た時に大切なスキルである、コミュニケーション能力を大学とも連携しながら教育活動全体で育成している。

② 社会形成能力の育成

組織的な進路指導・キャリア教育体制により、3年間を通したキャリア教育プログラムを提供する。計画的・継続的なホームルーム活動を通して、社会的自立を図る上で必要な能力を育成している。

③ 就業体験

就業体験を教育課程上に位置付け、第2学年全生徒201名が3日間の職場体験を行う。アクティブ部とキャリア教育コーディネーターが中心となって100を超える受入協力事業所を開拓、生徒はその中から希望する70の事業所で職場体験を行った。

3 地域力で能力開発

地域へのボランティア活動や特別支援学校への協力、福祉施設訪問、保育実習、地域と連携した防災訓練等、30以上の連携プログラムで社会理解を深めている。

4 成果

学び直しにより、学習に対する自信が芽生え、学習に意欲的に取り組むようになった。段階毎の丁寧なソーシャルスキルトレーニングにより、コミュニケーション能力や問題解決力も着実に身につけている。

地域貢献やボランティア活動、就業体験に参加することで、社会理解力が身につくとともに、7割以上の生徒が、挨拶をすること・マナーを身につけること・言葉遣いをきちんとすること・時間を守ることの重要性を強く感じており、普段の学校生活の中でそうした体験で得たことを生かそうとする姿勢が高まってきている。

<千葉県> (種別：PTA団体等) 野田市立東部中学校区学校支援地域本部

推薦理由

平成20年度、野田市全中学校区への「学校支援地域本部」の設置に伴い、野田市立東部中学校区学校支援地域本部が設置された。本部に所属する地域教育コーディネーターが、主に野田市立東部中学校と野田市立東部小

学校の教育活動の支援を行っている。

1 中学校の職場体験への支援

職場体験の事業所開拓、事業所との連絡・交渉を地域教育コーディネーターが行い、教職員の負担軽減等、中学校のキャリア教育の円滑な推進に大きく貢献した。平成27年度には野田市立東部中学校2年生73名が、6月22～24日に市内35の事業所で職場体験を行うことができた。事業所から高い評価をいただき生徒の自信につながった、また、家庭で職業についての話題を持つことができた等の成果があった。

2 小学校の職場見学への支援

職場見学の事業所との連絡、交渉を地域教育コーディネーターが行い、教職員の負担軽減等、小学校のキャリア教育の円滑な推進に大きく貢献した。平成27年度には野田市立東部小学校6年生38名が、11月11日に市内13の事業所を訪問し見学することができた。職場見学によって児童は仕事の大変さや従事する方々のやりがいについて知ることができた。また、事後学習の新聞づくりからは児童の仕事に対する意識の変容が見られる等の成果があった。

3 小中学校の稲作体験への支援

野田市立東部小学校、野田市立柳沢小学校、野田市立東部中学校合同の稲作体験を支援し、キャリア教育の推進、小中学校のキャリア教育での連携に大きく貢献した。児童生徒は田植え・稲刈り・餅つきを体験することで働くことの大変さと喜びを実感できた。また、教科（社会科）の学習と仕事を関連付けることができた等の成果があった。

4 成果

地域教育コーディネーターは、平成20年度の「学校支援地域本部」発足以前から、東部中学校、東部小学校の環境整備や、行事に対して支援していた。特に清水良雄コーディネーターは20年以上の長きにわたり、東部中学校区の学校の諸活動の支援を行っている。

東部中学校の職場体験、東部小学校の職場訪問については、事業所との連絡・調整をほとんど引き受けている。他の中学校区のコーディネーターもキャリア教育に深く関わっているが、東部中学校区のコーディネーターの貢献度は群を抜いている。東部小学校、東部中学校は小規模な学校であり、職員数も少ない。そういった中、事業所との連絡・調整を毎年コーディネーターが担当することで、学校職員の負担軽減と、毎年継続したキャリア教育を実施できている。また、地域に詳しいコーディネーターが事業所の開拓や連絡を担うことで、児童生徒や学校のニーズに合ったキャリア教育を実施している。

以上、長年にわたる野田市立東部中学校区の小中学校キャリア教育への貢献を認め、優良団体として推薦する。

<東京都>（種別：教育委員会）小平市教育委員会

推薦理由

- 管下の小・中学校のキャリア発達の段階に応じて、自己実現、自己の確立が適切に具現化されるように、平成24年度から「こだいらの小・中連携教育」において全校共通したプログラムを設定し、計画的、継続的に取り組んでいる。
- 平成21年度から、管下の中学校において5日間の職場体験を実施している。小平市における職場体験の独自資料「こだいら職場体験わくわくワークシート」を、教育委員会と中学校のキャリア教育担当教員で作成し、全校で統一した指導を実践している。
- 中学校と一部の小学校において実施している職場体験及び小学校で実施しているお店番体験において学校支援コーディネーターと学校が連携し、実践を支える運営体制を構築するとともに、児童・生徒を受け入れる地域や事業所がキャリア教育の意義について理解し、意識を啓発することに努めている。
- キャリア教育について平成24年度から研究指定校を設置し、特に小学校段階におけるキャリア教育について継続的に研究し、その研究成果を市内外に発表している。
- 平成26年度からキャリア教育担当者研修会を管下の小・中学校の教員を対象とするにとどまらず、市内の都立高校と共同開催している。都立学校を研修会の会場とし、義務教育修了後の連続した教育活動について理解することに努めている。

<東京都> (種別：学校) 杉並区立杉並第四小学校

推薦理由

「杉四カンパニー」

新宿から電車で7分、阿波おどりで有名な高円寺の商店街に隣接する杉並第四小学校では、平成24年度より模擬会社を設立して商品を開発・販売する「杉四カンパニー」という学習を進めている。小学校4年生を対象に「総合的な学習の時間」で行われている。杉四小では、3年生で地域の方とともに町をめぐり、オリジナルのカルタづくりをする「高円寺カルタ」を行い、4年生で「杉四カンパニー」5年生で「米づくり」6年生で「僕の夢私の夢」で将来を考えたり、ミニ職場体験を行ったりして、地域・高円寺を大事にしながら学習を組んでいる。

「杉四カンパニー」ではその当初は外部事業者の指導も受けながら、市場調査や分析を行い商品開発をしてきた。今年度より外部事業者の手を離れ、担当がいまままでの流れを確認しながら進めている。

- ① 杉四カンパニーの立ち上げ(事業の概要を聞く・地域の方の話を聞く)
- ② デザイン開発(各班ごとに)
- ③ 商品評価会(7月 学校公開にて) 地域や保護者へのプレゼンテーション
- ④ 商品決定(デザインの確認) 社長・副社長の決定(9月)
- ⑤ 事業計画・役割分担(10月)
- ⑥ 販売価格・販売個数の決定(10月)
- ⑦ 資金調達(10月)
- ⑧ 販売準備・販促準備(11月)
- ⑨ 商品の包装、販売準備(12月～1月)
- ⑩ 事前・予約販売(1月)
- ⑪ 販売活動(1月・学校公開) 地域の方の協力で商店街等で販売。
- ⑫ 決算・振り返り(売上金と借入金の精算)
- ⑬ 活動の振り返り・まとめ
- ⑭ 利益の使い道(昨年度はユニセフ・南相馬・緑の基金に寄附)
- ⑮ 報告会準備・報告会

学校支援本部や地域の方々の協力のもとに学習が展開できていること、児童が、体験を通して「実社会でモノを開発し販売する」ことを学べるのが大きな特色である。また、継続して行うことで「4年生になると杉四カンパニー」という形が定着していることも大きい。

<東京都> (種別：学校) 杉並区立桃井第三小学校

推薦理由

総合的な学習の時間の中に、キャリア教育を位置付け、学年の発達の段階に応じた内容を設定し、系統的に取り組んでいる。特に、第4学年では、起業家教育を実践している。児童が模擬会社を設立し、てぬぐいの商品企画から販売活動までを体験する教育に取り組んでいる。

各学年の取組は、以下の通りである。

【第3学年】

『大好き！西荻！』

- 商店街のマップ作りをする。
- 商店街にインタビューをし、お礼の手紙やお店を紹介するチラシを作る。

【第4学年】

『西荻「桃三郎店」を出店しよう！』

- 駅前市場調査をする。
- 保護者・先生方から出資金を募る。
- 商品(手ぬぐい)を開発し、地域の方々に試作品の品評をしてもらい、デザインを決定する。
- 駅前市場で商品を販売する。

【第5学年】

『商店で体験学習をしよう！』

- 商店の工夫をインタビューする。
- 商店の宣伝チラシをつくり、街頭で配布する。
- 宣伝チラシを作ったお店で職業体験（午前中）をする。
- 体験から学んだことをまとめて、発表する。

【第6学年】

『職業 EXPO を開こう！』

- 将来自分になってみたい職業に就いている方々に来ていただき、話を伺う。
（パティシエ、アナウンサー、プロサッカー選手、プロ野球選手、翻訳家、獣医歯科医、子供園園長、芸能プロダクション社長 等々）

『地域の人に感謝しよう！』

- 商店や施設を訪問し、ポスター作りの取材をする。
- 感謝の気持ちを込めてポスターを作成する。
- ポスターをお店や施設に掲示してもらう。

<東京都>（種別：学校）東京都立青井高等学校

推薦理由

本校は生徒の進路希望が多岐にわたる普通科高校で、家庭的、経済的課題等を抱え厳しい学習環境に置かれている生徒が少なからずおり、それが中途退学者および進路未定卒業者等へとつながっているという現状があった。そうした事態を打開するために3年間を見通したキャリア教育を学習支援とともに導入し、学校改革の柱として実践している。生徒が学習に対し前向きに取り組む姿勢が顕著となり、希望進路の実現率は平成26年3月の75%から、28年3月の88.1%へと躍進した。進路カードに生徒一人一人の進路活動の軌跡を記録し、3年間の個別面談に活用するとともに、以下の3点を特徴としている。

1 キャリア教育：「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム」

普通科高校における職業教育の一環として将来の社会人・職業人を育成するという目標を掲げ、「都立高校生の社会的・職業的自立支援プログラム」による、NPO 等外部団体と連携したリアルな体験授業を中心としたキャリア教育を行っている。1学年では東京都の「人間と社会」と連動した取組を実践し、本校におけるキャリア教育の基本的姿勢を身に付けさせ、2学年、3学年の指導へと展開している。

2 学習支援：「都立学校土曜日の教育支援体制等構築事業」

東京都教育委員会の支援を受け、家庭学習の習慣を身に付けさせ、学力の定着と進路意識の向上を図るためNPOと教員とのコラボレーションによる講座を勉強部活動「まなぶ」として、年間20回実施している。補習のみならず発展的な学習も視野に入れた学力の定着を図っており、のべ参加人数は平成26年度427名、27年度1181名と増加している。学習カルテを作成し、個々の生徒へのきめ細かな学習支援を行うとともに、多様な人材と関わる環境があることで、キャリア教育支援にもなっている。

3 中退防止、進路未定者対策：ユースソーシャルワーカーの対応

校内で委員会を組織するとともに、都のユースソーシャルワーカーに週3回常駐してもらい、特に発達障害のある生徒など特別な支援を必要とする生徒を中心に都と相互に連携した対応を行っている。学校生活になじめない生徒や進路活動に悩んだり、意欲的に取り組めない生徒に対して、3学年のキャリアの時間を活用したり、保護者との三者、四者面談を行うなど、ハローワークや職業能力開発センターなど外部機関とも連携しながら、中退防止、進路未定者対策に学校全体で取り組んでいる。

<東京都>（種別：学校）東京都立赤羽商業高等学校

推薦理由

スローガン『チャレンジ赤商』のもと、生徒の夢や希望進路の実現に向け、次のような様々な特色ある取組を組織的、計画的に推進している。

- 1 東京都教育委員会「規範意識向上推進モデル校」（平成26・27年度）として挨拶や身だしなみの指導等の充実を図り、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に取り組んだ。
- 2 東京都教育委員会「国際ロータリーとのインターンシップ事業実施校」（平成20年度～）として2年生全員

によるインターンシップを実施し、勤労観や職業観の育成に取り組んだ。

- 3 NIE推進協議会「NIE実践指定校」（平成28年度）として各教科で新聞を活用した授業等を行い、学習意欲や読解力の向上、一般常識の定着に取り組んだ。
- 4 総合的な学習の時間や特別活動、部活動において、以下のような特色あるキャリア教育に取り組んだ。
 - ハローワーク王子や北区産業振興課と連携し、進路講演会（7月）、スーツ着こなし講座（2月）、社会労務士講演会（2月）等を実施した。
 - 国立科学スポーツセンターと連携し、生徒会や部活動等の生徒が「JOCスポーツ祭り」に運営スタッフとして参加した（10月）。
 - 北区教育委員会と連携し、生徒会生徒が北区指定無形民俗文化財「道観山稲荷講初午祭」に参加した（2月）。
 - 赤羽消防署西が丘出張所と連携し、生徒会生徒や2・3年生有志が地域防災活動に参加した（8月・10月）。
 - 東京都中部学校経営支援センターと連携し、2・3年生有志が特別支援教育理解啓発推進事業「中部フェスタ」に運営スタッフとして参加した（10月）。
 - 北区健康生きがい課と連携し、保健委員会生徒が「北区みんなで楽しむ食育フェア」に運営スタッフとして参加した（1月）。
- 5 この他、全教職員による企業訪問を実施し、卒業生の状況を把握するとともに新たな進路先を開拓する等、組織的な指導体制の構築に取り組んだ。

<東京都>（種別：学校）学校法人上野塾 東京実業高等学校

推薦理由

本校は大正11年の創立以来、実業高校として職業教育の充実に重点をおいて生徒の指導を行っている。また、H23年度より校内にキャリア推進委員会を設置し、その後、キャリアセンターとして全科・全コース一体となって組織的・系統的に様々なキャリア教育に取り組んでいる。

1 インターンシップの実施

ものづくりの街でもある大田区の中小製造業を中心に、H23年度より2年生希望者を対象とした3日間から5日間のインターンシップを、夏休み期間中に実施している。インターンシップの実施に当たっては、大田区工業連合会や東京蒲田ロータリークラブなどと連携し、大田区を中心に活動する地域社会人によるキャリア教育支援組織「キャリア教育推進協議会21」などの協力を得て、生徒たちの社会的・職業的自立に向け、希望する業種や職業での事業所と連携を図っている。社会人としてのマナーなどを学ぶ事前研修を経てインターンシップを体験した生徒たちは、この貴重な経験を進路選択に繋げている。

2 インターンシップ・フォローアッププログラムの実施

インターンシップ終了後、受入企業関係者を招待したインターンシップ報告会を実施し、更に追指導としてインターンシップ・フォローアッププログラムを実施した。「高校生のための未来講座『働くとは？』」と題したこのプログラムでは、前項でも述べた「キャリア教育推進協議会21」の社会人に加え、高大連携の一環として「大正大学地域構想研究所」の協力も得、高校生と社会人、そして大学生の三者によるインターンシップの振り返り学習を行った。このプログラムは、生徒がインターンシップで得たことや気づいたことを大学生や社会人と話し合うことでより深めることを目的としている。そして参加者全員が働くということについての考えを対等に話し合うことにより、社会人・職業人に必要な能力や態度など、それぞれに新しい発見があり充実したものとなった。

3 キャリアノートの活用など

全校体制での組織的・系統的なキャリア教育を推進するため、本校独自で作成した「キャリアノート」をホームルームで活用し、生徒たちに入学後早い段階から社会を見つめ進路について考える機会を作るとともに、学年ごとにキャリア通信「フェニックス」を発行し、生徒ともに保護者への情報提供を図っている。

<東京都>（種別：学校）学校法人十文字学園 十文字中学・高等学校

推薦理由

十文字中学・高等学校は、創立者十文字ことが女子理科教育が必要であると考え、以来建学の精神である「自彊不息」をもとに、理数系教育やキャリア教育に特に力を入れてきた。

1 新キャリアプログラムの充実

これまで中学1年生から高校2年生まで学年ごとにキャリア教育を行ってきたが、平成28年度からは全学年希望者を対象に新しいキャリアプログラムを開始した。(下記サイト参照) 大学、研究機関、民間企業(テレビ会社等)の協力を得て、体験型、参加型の様々なプログラムを実施している。

2 参加型プログラムの充実：テレビ番組作りなどの体験を進路選択に生かす

テレビ会社のディレクターに直々に報道番組の作成方法を説明いただき、通行人にインタビューする番組を作成した。巣鴨商店街でのインタビューでは、地域の商店街組合の協力も得て、インタビューを行った。このようにして作成した報道番組は参加生徒にDVDを配布するだけでなく、文化祭で上映した。番組制作に携わった生徒の中には、将来マスコミ分野で働くことを希望しているという感想を持つ者も出てきて、進路の選択に生かされている。

3 理数系キャリアプログラムの充実

大学や研究機関の協力のもと、理化学研究所等各施設を訪問し、講義を受講する機会を拡充している。また、解剖実験や各種実験等参加型のプログラムも多く実施して、実際に深海魚に触れるものや、自転車発電等の体験型プログラムも近年行ってきた。この結果、理数系の分野に興味を持つ生徒数が増えてきており、科学技術振興機構が実施するグローバル・サイエンス・キャンプ(東北大学)に応募し、参加している生徒も出て来た。

4 幼稚園教諭及び保育士希望者に対するプログラムの充実

将来、幼稚園教諭や保育士を希望する生徒を対象に、本校系列大学や地域の幼稚園の協力を得て、実習を行っている。まず、子ども達との遊び、給食、帰宅準備に実際に従事し、その後、系列大学の学科長から講義を受けるプログラムである。このプログラムを通じて、子どもとコミュニケーションをとることの難しさや喜び等、様々なことを学んでいる。高校3年生の中には、系列大学の幼児教育学科を志望し、実習で会った子どもとの再会を楽しみにしている者もいる。

このように、本校は生徒の興味を常に把握したうえで、教職員全員でキャリアプログラムを企画・実施している。さらに来年度からは、生徒のキャリアプランニングを支援するため、卒業生や保護者によるメンター制度の導入を検討しており、各分野でご活躍されている方に講演をいただく予定である。

【ホームページ】<http://js.jumonji-u.ac.jp/articles/-/1339>

<東京都> (種別：学校) 東京都立鹿本学園

推薦理由

【取組の概要】

都立鹿本学園は、平成26年に開校した肢体不自由教育部門(小・中・高)と知的障害教育部門(小・中)の2部門5学部を有する特別支援学校

開校以来キャリア教育の推進を学校経営計画に一貫して位置付け、平成28年度は、「キャリア発達の視点を重視した学習活動の展開」をテーマに、児童・生徒のキャリア発達に関わる能力を伸長

【具体的取組】

○ 将来設計能力の伸長

平成28年度、私立大学と連携して、肢体不自由教育部門高等部の高等学校に準ずる教育課程で学ぶ生徒が大学訪問をし、見学や障害のある学生と交流

(取組の成果)

- ・ 障害に配慮されたキャンパス環境を体験し、大学進学意欲が向上
- ・ 学生から将来の人生設計等を聞き、大学で学ぶ意義が明確化

※ 大学は、障害のある高校生のニーズを把握

○ 意思決定能力の伸長

平成26年度から、肢体不自由教育部門高等部の高等学校に準ずる教育課程で学ぶ生徒により「弁論大会」を秋季に実施

平成27年度は、7人の生徒が、保護者、学校運営連絡協議会委員等、約100人に対し、プレゼンテーションソフトを用い「将来の夢」をテーマに弁論

(取組の成果)

- ・ 生徒は、講評や聴衆の感想により、様々な捉え方があることを理解

- ・ 多様な考えの中から、自らの意思で物事を判断することの重要性を体感

○ 人間関係形成能力の伸長

肢体不自由教育部門高等部と知的障害教育部門中学部の生徒が、共同で作業学習として「カフェ」を運営（取組の成果）

- ・ 様々な生徒との共同作業により、他者を意識して行動する意識が醸成

<神奈川県>（種別：学校）藤沢市立湘洋中学校

推薦理由

社会の現実を視野に入れたキャリア教育の必要性から、外部機関との積極的な連携を通して学校独自のキャリア教育のかたちを築き、長期的な視野をもって、生き方や進路に関する現実的な探索と、それぞれが幸せな人生を歩めるような指導を組織的・系統的に行っている。

NPO へのインタビュー活動や修学旅行での民泊を通して、地域や社会の力を借りて、生き方を考えるキャリア教育に取り組んでいる。

- ・ 生徒が、自分たちの住んでいる地域（1日に往復可能な地域、大学生になれば通学できる地域）で社会貢献している人たちに取材し、その人の生き方から、これから生きていくうえでプラスになる何かを得、また相手から得るだけでなく、中学生でもできる地域貢献方法を提案した。
- ・ 修学旅行時に民家に宿泊することにより、自然の中での半自給自足的生活を体験し、他人とのコミュニケーションを通して自分作りをする機会としている。体験を伴った知識があることで、価値観の幅を広げ、進路選択の際の選択肢を増やした。また、その民泊後のまとめを文化祭で発表し、お世話になった方々を招待し、コミュニケーションを続けている。

これらのことを通して、人間関係活用能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力をのばせるように組織的・系統的に指導を行っている。

<神奈川県>（種別：学校）神奈川県立大和東高等学校

推薦理由

本県では、これからの社会を担う自立した社会人を育成するため、積極的に社会参加するための能力と態度を育成する実践的な教育をキャリア教育の一環として教育課程上に位置付け、平成 23 年度からすべての県立高校及び中等教育学校において取組を進めている。

大和東高等学校は、普通科の高等学校における生徒の主体的な進路選択と進路実現のためのキャリア教育を積極的に実践している。その際、自校の取組の成果を検証するために、社会的・職業的自立に必要な「基礎的・汎用的能力」の育成に係るアンケートを独自に実施し、生徒の意識の変容について定点観測をし、取組の改善につなげている。

また、生徒が3年間活用できるよう、生徒の実態を踏まえ、100頁を超える冊子「今のわたしが10年後のわたしをつくる～今、わかって欲しいこと～」を作成し、さらなるキャリア教育の充実・推進に取り組んでいる。

<新潟県>（種別：教育委員会）田上町教育委員会

推薦理由

田上町教育委員会では、幼・小・中をつなぎ、一貫した理念と指導実践等により「めざす子ども像」に迫る教育を構想。キャリア教育を柱とし12か年かけて「志をもって意欲的に学び、自律と思いやりの心をもつ、たくましい子ども」へと着実に育っていくよう、「田上の12か年教育」を構想し、町づくりの柱の一つとしている。

1 取組の概要

(1) ジョブチャレンジ

新潟県のキャリア教育推進事業の一つに組み込まれている「夢発見、ジョブチャレンジ」活動として、町では、親子ボランティア活動（親子でピカピカ）、夏祭りの設営、竹林整備等を行った。夏祭りでの中学生の活躍には、地元の関係者から多くの賞賛の声があり、参加した中学生も満足感・達成感を感じるとともに地域の一員としての認識を深めることができた。

(2) 職場体験学習

田上町を中心とした企業や事業所などで、3日間の職場体験を実施。職場体験学習を充実させるため、レ

ディネステストや事前学習を行って活動意欲を高め、活動後の振り返りや活動発表会により職業観・勤労観を高めた。

また、町商工会が認定している「頑張る田上人」からそれぞれの歩んできた道のりや体験等を生徒が聴く機会を設けた。地域で頑張っている人の話を聞くことで、生徒にとっては、将来(職業選択や仕事全般)について考えるよい機会となるとともに大きな刺激となっていた。

(3) 親子のきずなを深める取組

田上町PTA連絡協議会・教育委員会が連携し、「ノーテレビ・ノーゲームデー」を年3回実施。この貴重な時間を利用して親子のきずなを深めるとともに、子どもの将来を考える時間を創り出すことができた。また保護者向けの啓発リーフレットを作成。子どもの自己有用感を醸成するにはどのようにすればよいか等を啓発することができた。

2 キャリア教育を支える「田上町キャリア教育推進協議会」

「田上の子は田上で育てる」を具体化し、町ぐるみで子どもを育てていくために、町教育委員会、町商工関係者、農業関係者、PTA、学校関係者等で構成する協議会を設置。職場見学や職場体験の開拓や支援、地域全体でのキャリア教育推進のための仕組みづくりを行っている。

3 キャリア教育を支える施策の実施

(1) キャリア教育の全体計画・年間指導計画の作成

小中学校のキャリア教育の全体計画・年間指導計画の作成を指導し、進むべき方向を明確に示した。

(2) キャリア教育の広報用パンフレットの作成・配布

町で取り組んでいるキャリア教育の周知徹底を図るとともに、町民の理解や協力が得られるように、「田上の12か年教育」を分かりやすく解説したパンフレットを作成し、広報に努めた。

このような取組を重ね、着実なキャリア教育の推進に努めていることから、田上町教育委員会をキャリア教育優良教育委員会として推薦する。

<新潟県> (種別：学校) 新潟県立小千谷西高等学校

推薦理由

同校は、地域が必要とする人材育成の観点から、地元業界団体及び地元自治体と連携するとともに、学校設定科目「キャリア実習」を設置し継続的な企業での実習を実践している。

このことにより、生徒の地元企業への興味関心を高め、卒業後の地元就職及び進学後のUターンの意識付けを効果的に行うとともに、人口減少に伴う地元企業の人材不足解消に貢献している。

【具体的な取組】

◎ 学校設定科目「キャリア実習」

- ・ キャリア実習は火曜日の午後2校時を充て、そのうち年間15回は地元企業に出向き、実践的な体験学習を展開する。
- ・ 受入企業は、15回分の学習メニューを学校と調整しながら作成し、作業の安全確保の学習、体験に始まり、製品の製作、包装、梱包、出荷等、計画性のある指導計画を策定している。

◎ 受入企業先の確保

- ・ 平成28年度の実習受入企業は22社に上る。多くの企業の協力は、学校が地元自治体に働きかけることにより、地元産業界、商工会議所との連携が図られた結果であり、地域が求める人材の育成に向け、学校と地域が連携した組織的な活動に結びついたものである。

◎ 「おぢやしごと未来塾」の開催

- ・ 小千谷市、小千谷市教育委員会、小千谷西高校が主催して「おぢやしごと未来塾」として、地元の中学生を迎えたイベントを開催している。「キャリア実習」成果をはじめ、地元企業の概要の紹介ブースを設置し、中学生と高校生の交流や中学生の地元企業の理解など、地域全体のキャリア教育を推進する上で大きな役割を果たしている。

<富山県> (種別：学校) 氷見市立朝日丘小学校

推薦理由

1 「魚のまち氷見」に生きる子供たちが、漁業に携わる人々の生き方に学ぶとともに、ふるさとの魅力を理解し、誇りに思う教育の実践 —地元企業等との連携—

社会科や総合的な時間の学習で、漁業組合やみりん干し工場、かまぼこ工場等と連携し、漁港や工場において氷見の水産業について学んでいる。現地の取材では、世界に誇る氷見の定置網漁法をはじめ、氷見で獲れる魚に関すること、漁師の仕事や働きがい等について直に話を聞く。水産業に携わる人々の生き方に学ぶ中で、仕事への関心を高め、憧れる自己イメージを膨らませている。また、魚を生かした特産物や地元の産業、魚食文化等についても体験を通して広く理解している。

氷見市が海の幸に恵まれ、氷見ならではの産業や生活、文化が育まれてきたことを実感することによって、ふるさと氷見の魅力を理解し、誇りを育むことにつなげている。

2 氷見の将来を担う子供たちが市の公共施設を活用して郷土理解や公民的資質を育む教育の実践 —市教育委員会と連携した「1/2成人式」の取組—

毎年満10歳(成人の2分の1)を迎える小学4年生を対象に、市立博物館や図書館、漁業交流館等の公共施設を学習の場として、子供たちに社会性や社会的自立を育むための学習を行っている。施設の方々の話を聞いて郷土のことを学んだり、図書カードの発行申請や受領を行ったりすることにより、規範意識や公共ルールを体得し、10歳としての自覚や公民的資質、高学年への新たな意欲を高め、将来氷見市の一員として自立して生きていこうとする気持ちを育んでいる。

3 縦割り班による地域の美化活動(勤労・奉仕活動)で地域を愛し、地域に貢献する心を育てる教育の実践 —自治会や地域諸団体との連携—

校区で行われる祭りの翌日等に、自分たちの地域を美しくする清掃活動を約20年間継続している。地域の人々や縦割り班の仲間と力を合わせて取り組む中で、勤労・奉仕の心や協力の精神を養うとともに、地域の環境や伝統行事を守り伝えることの大切さを学んでいる。子供たちは、朝日丘小学校の伝統行事に誇りをもって取り組んでおり、地域に貢献しようとする心を育んでいる。

<富山県> (種別：学校) 富山市立大泉中学校

推薦理由

キャリア発達を踏まえ、「ライフスキル教育」を実践して10年目になる。現在は総合的な学習の時間に、年間1年生35時間、2・3年生は各20時間の合計75時間を教育課程に位置付けて実践している。

「ライフスキル教育」(プログラム)の目指すものは、以下のとおりである。

- ① 家庭、学校、地域が連携して、健やかな成長を支援する。
- ② 自律心、正しい判断力、責任感、そして他者との共生という前向きな態度を身に付けられるよう支援する。
- ③ 家庭、学校、友人関係、地域社会の一員として責任ある行動がとれるように支援する。
- ④ 協力して他の人のために何かをすることによって、よき市民として貢献できる機会を提供する。
- ⑤ 一人一人の違いを大切に、自分も他の人も大切にすることを奨励する。

これらは、キャリア教育の定義でもある「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」の『基盤となる能力や態度』を育てることと一致している。

1年生では、4月の宿泊学習にライフスキル教育から仲間と協力して達成感や成就感を体験できるゲームを取り入れたり、プログラム「上手に話を聞く」スキルを学んだりして、コミュニケーション能力や他者の多様な個性を理解し、互いに認め合う人間関係を築く能力を高めている。

2年生では、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の準備段階で挨拶の仕方や話の聞き方のロールプレイを行い、話を聞くことの効果や聞かないことが話し手の自信に与える影響等を学び、挨拶や話を聞くスキルを高めている。

3年生では、プログラム「目標達成に向かえ」で、目標設定のステップを練習したり、困難に立ち向かうために「谷底から頂上へ」の考え方を学び直したりして、計画実行能力を高めている。

このように、各学年がその発達段階に応じたプログラムを実践し、キャリア発達の基盤となる能力や態度の育成に努めている。

<富山県> (種別：学校) 富山県立高岡南高等学校

推薦理由

普通科校に於ける10年間に及ぶキャリア教育の実践

「キャリアデザイン・プロジェクトS」による高等教育機関、地域企業との連携した教育活動

- H26より文部科学省「土曜授業モデル校」の指定を受け、キャリア教育の一部を土曜日に実施し、授業を保護者や地域の方にも公開
- キャリアデザインゼミナール(1年)地元企業や同窓生、保護者を講師に依頼し職業に関するゼミ形式の講座を実施
- キャリア講演会、パネルディスカッションの実施
- 大学連携講座(2年)大学教授等に講師を依頼し、大学の模擬授業を受ける。グループ課題を設定し、大学と連携して探究活動の実施
- キャリアプランニング(3年)自らの進路につながる個人テーマを設定し、課題研究に取り組み、論文としてまとめ発表の実施
- 職場体験実習の実施(100%)
 - ・ H28年度1年全員が地元企業訪問実施(県立高校キャリア教育推進事業モデル校)
 - ・ 保育体験学習(一日)
- 戸出中学3年生を対象とした学習会において、1年生が学習アシスタントとして参加
- 東日本大震災において被災した、岩手県立大槌高校生との交流活動を継続的に実施

これらの教育活動から、働く事の意味、学問の意義に気づくことにより、生徒の主体的な学びの意欲を高め、高い志と目標をもって将来の在り方や生き方について考えさせ、生徒の潜在能力を引き出す教育活動を行っている。

また、多様な職業人との出会いや新しい学問に触れる体験を重視し、社会に役立つリーダーの育成を目指した教育活動に取り組んでいる。

<石川県> (種別：学校) 石川県立明和特別支援学校

推薦理由

石川県立明和特別支援学校は平成22年度に知的障害と肢体不自由に対応する特別支援学校として開校した。知的障害教育部門高等部に産業技術コースを開設し、職業教育の充実に努めている。産業技術コースでは、ビルクリーニングとフードデザインの2グループ編制で、週16時間の作業学習を実施している。職場実習は、1年次は1週間、2年次は1～2週間、3年次は1～4週間にわたり前期・後期の2回実施している。また、3年次には就職先が決定するまで随時実施している。学校の重点目標にキャリア教育の推進を掲げ、生徒の積極性を高めると共に、作業製品の品質の向上と外部機関と連携しての新製品の開発、製品の販売に継続的に取り組んでいる。

【校内での取組】

1 「めいわ市」での作業製品の販売と「めいわカフェ」の実施

生徒による校内外での販売会を定期的実施(校内販売会5回、校外販売会5回)して、作業製品の製作と販売活動を関連を持たせて取り組んでいくことで、就労意欲の向上につなげている。また、「めいわカフェ」(年4回)の開催も定期的実施し、接客の基本姿勢の習得と共に、対人関係やコミュニケーションスキルの向上につなげる場としている。さらに、各作業班の生徒のリーダーが集まっての「めいわ市リーダー会議」をめいわ市の前後に開催し、目標設定や係分担、振り返りを行うなど生徒が主体的に活動する場としている。

2 特別支援学校技能検定(清掃部門・接客部門)の実施

県内の知的障害特別支援学校では、生徒の就労への意欲や技能の向上を目指して作業能力技能検定に取り組んでいる。本校は技能検定の取組の主管校として、指導マニュアル及び評価票の作成や技能検定認定大会の開催を主導し、生徒の職業能力の育成に取り組んでいる。

【外部との連携の取組】

1 新商品の積極的な開発

「めいわ市」による販売活動でのアンケート等からニーズを把握し、外部講師の助言のもと新商品の開発に積極的に取り組んでいる（平成27年度は32品の新商品を開発）。平成28年度には、近隣のケーキ店のパティシエから助言を受け、ケーキの新商品を開発した。また、文部科学省委託事業「インクルーシブ教育システム構築モデル地域（交流及び共同学習）」の取組を契機に近隣の高等学校との連携につながり、高等学校生徒と協力して農作物の栽培・収穫を行い、ジャムの新商品の開発と販売を行うなど、外部との積極的な連携のもとに、職業教育の充実に努めている。

2 ハローワークとの連携による雇用促進セミナーの開催

ハローワークの協力により障害者雇用未達成企業等の関係者を集めた雇用促進セミナーを本校で開催し、障害者を雇用している企業関係者による講話の他、学校概要説明や授業参観を行い、特別支援学校生徒の理解啓発と就労促進を図っている。

以上のように、本校は組織的・計画的に児童生徒一人一人の将来の自立と社会参加に向けキャリア教育に係る様々な取組を積極的に実施し、県内特別支援学校におけるキャリア教育の先進校として大きく貢献している。

これらのことから、当該校をキャリア教育優良校として推薦する。

<福井県>（種別：学校）高浜町立内浦小中学校

推薦理由

小中併設校である当校は、キャリア教育推進に向けて「地域や働くことに関わる学習を通して、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高め、将来の生き方を考える（希望を育む教育）」、キャリアプランニング能力の育成に重点を置いて活動を実践している。

地元高浜町は豊かな観光資源に恵まれ、観光が重要な産業であり、当校では、まちづくり事業の一環として組織された「高浜まちづくりネットワーク」と連携し、児童生徒が旅行ツアー「ドコイコ！ナニシヨ！ミニツアー」の企画・運営を行うキャリア学習を、小学3年生から中学3年生まで、総合的な学習の時間を中心にした年間25～30時間程度実施している。

平成27年度は、「親子の絆を深めよう おいでよ化石発掘へ」と題し、内浦地域で採れる化石の発掘をメインにした親子対象のツアーを企画・運営した。町内だけでなく、他の市町へも募集をかけ、定員を上回る応募があり、地域からの興味関心も高い。

児童生徒は、事前に旅行代理店から接客の仕方を学び、当日はツアーガイドとして1日同行した。目的地である名所や昼食で出される食材の紹介等を、各学年で担当するなど、児童生徒全員が20名限定のツアー客の接客を主体的に行っている。参加者からは、お礼の手紙をたくさんいただき好評であった。

小中学校7年間の継続した取組により地元産業への理解が深まり、組子指物など地元の伝統産業の技の伝承に携わりたいと考える児童生徒も現れている。

自分たちの創り上げる企画が地域に必要とされ求められていることやツアーの企画や運営を大人とともに実施することで、自分の地域の一員としての役割を認識し、自己有用感を感じている児童生徒の姿が多く見られる。地域行事やボランティア活動への参加率が向上するなどの成果も上げている。

以上のことから、当校を推薦する。

<福井県>（種別：学校）福井県立武生商業高等学校

推薦理由

福井県に2校ある単独商業高校の一つであり、生徒の殆どは丹南地区(地元)の生徒である。就職先も多くの生徒が丹南地区の企業へ就職している。この現状を踏まえ、地域と密着した教育を展開し、県内の高校に先駆けて、インターンシップや公開授業に取り組んできた。また、今年度で26回目を迎える武商デパートや地元企業の関係者を招致しての地域産業未来教室（外部講師授業）など、地域に開かれた学校という特色を持つ。

武商デパートでは「良い商品を安く提供する。心のこもった接客。」を目標に指導しており、「環境に優しい経営」という付加価値をつけた経営を展開している。第12回(平成14年)からはエコバッグの配布、第13回(平成15年)からエコ石けんの配布、第18回(平成20年)から第20回(平成22年)までは地元新聞社が主催する「クリーン・ザ・シー」キャンペーンに参加、第19回(平成21年)では地元私鉄会社と連携しシャトルバスの運行、県の「地球温暖化問題自主企画事業」に参加するなど、企業経営を取り巻く変化を的確に把握し、デパート実習を通して組織的、系統的にキャリア教育に取り組んだ。

地域との交流に関しては、武商デパートの支店という形で、第14回(平成16年)から越前市の蔵の辻で、第15回(平成17年)には県庁1階で営業を行っている。蔵の辻支店は現在も継続しているが、第25回(平成27年)は県庁から福井駅前に支店を移し、広く県民に認知される取組をしている。さらに第17回(平成19年)からは独立系CVS(コンビニエンスストア)を展開している地元企業から講師派遣を含むケースメソッド教育を行っている。

地元社会福祉法人とのオリジナルTシャツとタオル、地元和菓子屋とオリジナル酒まんじゅう等の商品を開発し、第21回(平成23年)には大手CVS、大手製パン会社とのコラボレーションによるオリジナルパン開発に取り組んだ。地元企業、地産地消にこだわり福井県産の素材を用いた商品開発により、地元への理解・愛着・誇りを育む教育を行った。

武生商業高校は、地域に根ざした教育活動を展開し、地域連携や交流を積極的に進める事で、地域を担う人材の育成を目指すキャリア教育を実践しているため推薦いたします。

<福井県> (種別：学校) 福井県立嶺北特別支援学校

推薦理由

知的障害の児童生徒を対象とした特別支援学校で、小学部、中学部、高等部、訪問学級がある。12ヶ年の一貫した教育を通して、自立できる児童生徒の育成を目指している。

昭和54年度の開校以来、他校に先駆けて、「キャリア教育」に関するテーマに継続して取り組み、進路に応じた学習系統表を作成した。一人一人の障害特性や発達段階に応じた、小学部から高等部を見通したキャリア教育を実践している。

また、高等部では、就業につながる学習を重視しており、校内で週14時間の作業学習の他、生徒の適性に応じて、年2回2～3週間の現場実習を実施。学校ジョブコーチによるジョブマッチングを重視し、一人一人の適性に応じた進路先を開拓している。

高等部の作業学習では、サポーター企業(現在42企業、嶺北特別支援学校関係14企業)と連携し、受託作業を実施している他、外部専門家による技術指導を定期的を受け、焼き菓子の製造・地域での展示販売に取り組んでいる。

また、福井県立坂井高等学校の食農科学科と交流学習を実施し、梨や栗などの食材の提供により、それらを材料とした商品開発にも取り組んでいる。

学校独自の取組として、企業や地域とのつながりだけでなく縦のつながりを生かして、実習先や就職先を開拓している。卒業生保護者が構成する「親の会(780名)」とともに、就職先を定期訪問し、卒業生の状況を確認することにより実習先や就職先の開拓に貢献しており、卒業生の就職先は約100企業に広がっている。

このように、嶺北特別支援学校は、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、全教職員が一丸となってキャリア教育の実践に取り組んでいるため推薦します。

<福井県> (種別：PTA団体等) キャリア教育推進協議会

推薦理由

平成16年11月より小浜商工会議所地域づくり委員会を中心として、キャリア教育に関する取組をスタートさせ、平成27年4月には、行政、企業、PTA、教育関係者らによってキャリア教育の一体的な推進を図るべくキャリア教育推進協議会を設立した。

平成18年度から継続して、小学生の職場見学、高校生のインターンシップの実施に向けた学校と企業を結ぶコーディネーター役を担っている。平成28年度からは、中学生の職場体験への支援を始め、キャリア教育の充実に寄与している。

企業経営者による講演やディスカッションを行う「ふるさと仕事塾」では、小学6年生では身近な職業について、中学2年生では仕事に携わる中での苦労や喜びについて、高校3年生では地元企業の紹介など、年代毎に系統性をもった取組を継続しており、平成22年度以降は市内全ての小中学校で実施している(小学校12校、中学校2校)。経営者等による講話だけではなく企業見学も実施することで、働くことに対する理解をさらに深めてきた。

平成20年度から27年度までの8年間に、小学生2,000人、中学生1,920人、高校生420人が受講している。中学2年生対象の「ふるさと仕事塾」では、職場体験の前に企業経営者から話を聞くことで具体的なイメージを持って職場体験に臨むことができたなど、学校からも好評を得ている。

平成28年度には新規事業として、小学校と高校生を対象の「ふるさとしごと体験バスツアー」を市内23の企業や団体が協力して実施し、市内企業および団体の存在や業務内容の認識を深めるとともに、働くことに対する意識付けを図っている。

受講した生徒が地元企業へ就職したり、またUターン就職したりするなどの事例も見られ、地元の人口増や産業の活力維持に成果を上げている。

以上のことから、当団体を推薦する。

<長野県> (種別：教育委員会) 千曲市教育委員会

推薦理由

千曲市教育委員会は、『学校・家庭・地域をつなげるキャリア教育の推進』を目標に掲げ、「キャリア教育推進委員会」を中心として、協力校による公開授業、講演会、実践事例集の編集・発行、コーディネーターの学校訪問等を行うことで、各校の「年間指導計画」に基づくキャリア教育が充実するよう推進している。

1 事業概要

(1) 「千曲市キャリア教育推進委員会」平成28年度構成委員【24名】

会長(中学校長：「千曲市雇用促進連絡協議会」委員を兼ねる)・副会長(小学校教頭)・市内13校担当教諭・市教育委員会5名・総合教育センター(実務)4名

(2) 委員会

① 第1回(5月)

- ・ 各校推進計画の発表と協議・各校の課題と要望・講演 等
(平成28年度：5月24日(火)実施 【講師】金沢工業大学白木みどり教授)

② 第2回(2月)

- ・ 各校の実践事例発表と情報交換・次年度への課題と要望・講演 等

(3) 研究協力校による授業公開

10月27日(木)千曲市立更級小学校5年『私たちがつくり上げる縄文まつり』

2 学校支援

(1) 学校訪問による助言や職員研修支援(平成27年度実績)

- ① 学校訪問(5・10月)市内全13校(のべ34回)
- ② 職員研修 5校(7回)

(2) 情報提供支援

- ① 「年間指導計画集」(5月)「小・中学校実践事例集」(2月)編集・発行
- ② 通信「キャリアかわらばん」の作成・発行

(3) 産学官連携支援

「千曲市雇用促進連絡協議会」への参加と情報交換

(4) 職場見学・職場体験支援

- ① 事前・事後学習と当日の支援
- ② 「職場体験のための打ち合わせ会」の実施(年2回)
- ③ 協力事業所の開拓及び登録推進、PRステッカー配付

以上のように千曲市教育委員会は、各校のキャリア教育が意図的、計画的に推進されることを主導しており、またニーズに寄り添った学校支援に向けて、職場体験の事業所開拓や通信による産学のねらいの共有に努めていることから、推薦に値するものとする。

<長野県> (種別：学校) 長野県箕輪進修高等学校

推薦理由

箕輪進修高校は大正13年の創立。平成20年度多部制単位制課程に転換し、普通科(I部・II部・III部)工業科(I部)を設置。平成26年度から文部科学省「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育」の研究開発に取り組み、インクルーシブ教育、自立支援活動を含むキャリア教育に力を入れている。

1 1年次「自己理解」と「社会参画」

- (1) 対人関係ゲームで、自己と他者について多様性を理解 (4月)

(2) SST を実施し、協働のためのコミュニケーション能力向上 (随時)

(3) 福祉施設実習を実施し、社会参画・相互関係を学ぶ (11月)

2 2年次 進路について考える

暫定的な未来のシミュレーションとして、全生徒によるインターンシップを学習の中心にすえる。受け入れ事業所は、進路指導係との関係のみでなく、産業教育振興会や PTA との連携で紹介いただくなど、地域と密着したキャリア教育が特色になっている。

(1) 受入事業所の決定 (4月～5月)

(2) 生徒のインターンシップ先決定 (6月～7月)

(3) インターンシップ実施と報告書 (ppt.)の作成 (8月)

(4) 事業所を招待し、箕輪町文化センターで「報告会」実施 (9月)

3 3年次 ライフ・キャリアにつながる課題研究

普通科「課題ゼミ」・HP 作成・新聞を作ろう・木工を楽しむ等
工業科「課題研究」・CAD シェアハウス設計・金属探知機の製作等
・PDCA サイクルにより課題解決能力が育つように取り組んでいる。

【P】研究内容の決定【D】調査・研究及び製作【C】プレゼン【A】改善点を加えレポート作成

同校は、多様な学びを提供する学校として、「ライフ・キャリア」を意識したキャリア教育を展開している。PTA・同窓会・産業教育振興会・町振興協力会からの支援を有効に活用しながら、課程の改編を契機にキャリア教育を教育活動の柱にすえている。新しい枠組みを取り入れた学校づくりの参考になる実践であり、推薦に値すると考える。

<長野県> (種別：PTA 団体等) 伊那市立富県小学校 PTA

推薦理由

伊那市立富県小学校 PTA は、11月の参観日に合わせて教養部主催の PTA 講演会を行っている。「親の仕事を見たり体験したりすることができれば、将来の夢につながったり、仕事に興味をもったりすることができ、キャリア教育につながるのではないかと」の発案から、平成 27 年度「親子で学ぼうかい～お父さんお母さんのかっこよく働く姿をみよう～」を実施した。

1 概要

(1) 体育館を会場に1時間30分で実施

(2) 以下の3チームを編成し、実演を交えた発表を行う。

① 看護師、薬剤師による「医療チーム」

看護師が患者役の校長を診察。途中心音を聴く体験も行う。薬剤師は、小学校で学んだ「九九」が役立っていることなどを伝える。

② 建築業、電気整備士による「建築チーム」

「子どもたちの宿題をつくるための書斎を作ってほしい」との校長の依頼を受けて、体育館のステージ上に壁を立て屋根をかけ、電気を通して部屋をつくる。小さい頃からこの仕事に就くことが夢だったこと、理科の学習で電気に興味をもったことなどを伝える。

③ 美容師による「美容チーム」

ヘアアレンジメントやメイク、和装の養護教諭への帯締めの実演。髪を切る専門のはさみを持たせてもらうなどの体験も行う。

(3) 3チーム以外の職種の保護者や当日参加できない保護者についても、働いている姿の写真を集めてスライドを作成し、映写する。

2 子どもの感想 (抜粋)

○ 私の将来の夢は、「親子で学ぼうかい」で紹介された仕事とは違うけど、仕事全てに誇りをもって、私もこのように人の役に立つような仕事をしたいです。

○ 一人ひとりみんな楽しそうにやっていたけど仕事に対する目的や考えがあつてすごいと思つたし、いいと思つたし、ぼくもそういう大人になりたいです。

伊那市教育委員会が平成 26 年度に本表彰を受けるなど、伊那市はキャリア教育に熱心な土地柄である。今回の取組は、そうした地域全体の思いが PTA 講演会という具体的な形で結実したものであり、単に仕事の紹介の

みならず、働く事への思いや、今の学びと将来とのつながりについても大切にされていることから、重要な実践として推薦に値するものとする。

PTA の取組は、県教育委員会としても、今後広めていきたいと考えており、今後も支援していきたいと考えている。

<岐阜県> (種別：学校) 大垣市立中川小学校

推薦理由

1 取組の概要

中川小学校では、1月の最終日曜日に行われる「中川小フェスティバル」の中で、4～6年生を対象に、職業体験を行っている。学校とPTA（父親委員会）が主催して、平成23年から続いている。今年度も開催する。保護者の職業をもとにした13のブースが用意され、児童は自分で選択したブースへ行き、1時間の職業体験をする。講師は、PTAの父親委員や母親委員の方々である。父親委員等の職業によって、毎年開催される業種は変わる。

2 取組の具体

裁判官のブースでは模擬裁判を体験する。自動車修理工のブースではタイヤ交換を体験し、消防士のブースでは消防・消火訓練を体験する。同時に、児童たちは講師の父親委員から、職業人としての誇りや、やりがいについて熱のこもった話を聞いている。

この活動のねらいは、主に次の2点である。

- ・ 身近な職業人と交流して実際に職業体験をしたり話を聞いたりすることを通して、児童に自らの夢をもたせ、将来地域に根付いて活躍する人材を育てること。
- ・ 社会人・職業人としての生きがいをもつことの素晴らしさを感じさせること。

このねらいのもとに事前に何度も打合せや準備をするなど、学校とPTAが綿密に連携を図り、一体となって取り組んでいる。PTA全体でこの取組を支持・支援しており、中川小の特色ある活動として位置付けている。

3 取組の効果

この職業体験は、総合的な学習の時間に位置付けられ、事前には職業についての調査、事後には学んだことの交流を行い、児童の勤労観・職業観を計画的、継続的に養っている。小学生が夢を大きくもち、夢の実現に向けて努力することの価値や、仕事のやりがいや楽しさ、苦労等を実感することにつながり、充実した取組となっている。

<岐阜県> (種別：学校) 中津川市立坂本中学校

推薦理由

1 取組の概要

中津川市立坂本中学校では、3年前から「夢が育つ学校」を合い言葉に、生徒、学校、保護者が協力して、基礎的・汎用的能力を育む指導を推進している。平成28年度は、学校経営の重点に「自らの夢を掲げ、選択できる生徒」を掲げ、「考え、選択し、行動する」生徒の具現をめざしたキャリア教育が推進されている。様々な行事や活動を「夢ノート」、「夢プロジェクト」と関連付けて教育効果を上げている。

2 取組の具体

(1) 「夢ノート」

夢ノートのねらいは、夢の実現に向けて、日々の生活で自ら目標を立て、実践し、振り返り、明日につなげていく自己理解・自己管理能力を育成することである。このノートを通して、夢を語り合う中で仲間によさに学んだり、自分なりの効果的な時間の使い方を工夫したりして、夢を育む努力をしている。そのために、小学校との連携、朝の会や帰りの会での交流、「夢貯金」の蓄積によって意欲向上を図っている。また、「夢ノート」は生徒、保護者、教師の3者が連携し改善を続けている。

(2) 「夢プロジェクト」

夢や目標の実現に向けて努力を積み重ね、実際に夢の実現を果たした外部講師を招き、講演を聞く活動を行っている。講演会に向けて、講師の生き方について書籍等を通して調べる活動を位置付け、夢や目標を実現に向けて努力する大切さを学ぶ機会としている。

(3) 総合的な学習の時間を活用したキャリア教育

生徒一人一人が基礎的・汎用的な力を身に付け、自己実現に向けて努力する態度を育てるために、各学年でプログラムを作成して実践している。第1学年では、自分の進路について希望をもち、関心を高め自己理解や自己伸長に努める生徒を育成するために、身近な職業調べや進路講話を設定している。第2学年では、自己の特性や適性に気付き、進路情報を学習することによって進路の希望や計画をより一層明確にし、進路実現に向かって努力する生徒を育成するために、職場体験学習を行っている。第3学年では、自己理解を深め適切な進路選択をし、将来の生活を切り拓き、自己実現できる能力を培うために、高校説明会、体験入学、進路相談や、宮城・東京への宿泊研修を通じて将来の生き方を考え、体験を位置付けている。

3 取組の効果

総合的な学習の時間で、職業調べ、進路講話、職業体験へと体験的な活動を発達の段階に応じて系統的な指導を行ったことで、生徒一人一人に自分の生き方を見つめ、実現に向かって努力することの大切さを考えさせることができた。「夢ノート」を活用し、全校体制で自己理解能力の育成に取り組むことができている素晴らしい実践である。

<岐阜県> (種別：学校) 岐阜県立山県高等学校

推薦理由

当該校は、地元に着した高等学校として、「地域の将来を担う人材の育成」を目指している。各学年の目標を、1年「進路意識を高める」、2年「進路目標の具体化」、3年「進路目標の実現」として学年ごとに継続的な取組を実施している。

1 インターンシップ (3年生全員が6月に実施)

平成6年度から地元の企業や福祉施設及び保育園の協力を得て、23年間継続してインターンシップを実施している。初年度は3年生OAコース(2クラス)のみが2日間実施していたが、翌平成7年度から3年生全クラス(6クラス)が1日間の実施に変更。平成13年度には実施を3日間に伸ばし、それ以来、3年生全員3日間、本年度23回目の実施となった。実施目標を「地元企業・施設での就業体験を通して地域を知り、望ましい職業観・勤労観の育成を図る」としている。

【平成28年度の実施状況】

- (1) 研修生徒数 3年生全員 134人 (普通科普通65人、普通科ビジネスコース69人)
- (2) 実施期間 平成28年6月1日(水)～6月3日(金)の3日間
- (3) 研修先 51事業所(施設8、消防1、製造25、販売6、保育11)
- (4) 研修内容 勤労体験・挨拶・言葉遣い・コミュニケーション・時間厳守・報告・記録 など
- (5) 巡回指導 51事業所を14グループに分け、本校職員2人組で巡回
- (6) 研修記録 研修のしおりの「1日の振り返り」「研修後のアンケート」
- (7) 評価 生徒事後アンケート、事業所事後アンケート、「研修のしおり」の記録 など
- (8) 事前指導 研修先調べ、マナー指導、挨拶状などの指導

2 学年別進路ガイダンス

1年進路ガイダンスは、インタビュー形式による職業研究で、25～30の分野から各自が2～3分野を選択し、疑問点を質問したり、外部講師から今後の学校生活における心構えやアドバイスをいただいたりしている。2年進路ガイダンスは、20～30の分野に分かれ模擬授業形式で実施している。3年進路ガイダンスは、就職希望者と進学希望者に分かれ、志望動機の確認などを外部講師による模擬面接形式で実施している。

3 進路体験学習 (1年生全員が2月に実施)

1年生が岐阜県内の上級学校(4年制大学、短期大学、専門学校)12～13校に分かれ、終日、施設見学や模擬授業等の体験を実施している。

4 先輩と語る会 (3年生全員に向けて6月に実施)

卒業生(就職者6人、進学者6人)が、3年生の就職希望者、進学希望者に対し、それぞれ別会場に分かれ、現状や心構えを語り、在校生が進路決定の参考にする機会としている。

5 その他

- ・ 進路講話 (1, 2年生全員に合同で実施)

- ・ 山縣市企業見学会（8月、希望者）
 - ・ 地域ボランティア活動（地域清掃 200人、地元の祭り手伝い・参加、吹奏楽部依頼演奏 など）
 - ・ 保育園・小学校へのボランティア活動（絵本の読み聞かせ、手作り玩具作成、遊び など）
 - ・ 老人福祉施設訪問活動（福祉・介護実習、協働制作、合唱、抹茶接待、遊び など）
 - ・ 高大連携、高特連携（介護員養成研修、情報・福祉模擬講義受講、職業訓練共同学習 など）
- ※ 来年度入学生から、学校設定科目「企業実習」（デュアルシステム）8単位を予定している。

＜岐阜県＞（種別：PTA団体等）徹明子ども会育成会

推薦理由

1 取組の概要

徹明小学校は、明治6年の開校以来、地域に愛され守られ支えられながら、教育活動を展開してきている。自治会連合会をはじめ、公民館、体育振興会、青少年育成市民会議等の各種団体が主催する地域行事も、児童の健全育成に大いに寄与している。児童の子ども会への加入率は100%で、保護者による育成会活動も熱心である。地域行事への協力のみならず、4年生以上を対象とした「インリーダー研修」をはじめ、子ども会行事も少なくない。特に、今年度で6回目を数える「税金クイズ大会」は、本校のキャリア教育充実の一端を担っている。

2 取組の具体

今年度は、7月18日（海の日）に「てつめい Diary 第2弾 ～キッズニア in 徹明～」を開催し、「職業体験教室」を実施した。当日は、岐阜北法人会女性部会による「税の学習」（DVDアニメ視聴）に続いて、小学校や公民館に設けた8か所12種類の職業体験ブースを、縦割り異学年の8つの「ふれあいグループ」ごとに、それぞれ4つの職種を体験した。

＜職業体験ブース＞

- A 低学年：歯科医「歯型の要領で指の型取り」（学校歯科医）
高学年：銀行員「札勘（お札の勘定の仕方）等」（校区に本店がある銀行）
- B 寿司職人「かっぱ・玉子・軍艦巻き」（校区の寿司店）
- C 自衛隊「集団行動・ロープワーク」岐阜地方協力本部（校区にある募集案内所）
- D コーヒーバリスタ「カフェオレや抹茶オーレづくり」（コーヒー店）
- E 低学年：カメラマン「写真館での記念撮影」（校区の写真事務所）
高学年：アナウンサー「アナウンサーの仕事や研修」（ケーブルテレビ）
- F 和菓子職人「枝豆饅頭づくり」（和菓子店）
- G 内科医「聴診器診察や検体検査」（校区の医院）
外科医「内視鏡を使ったバーチャル手術等」大学病院医師（保護者）
- H 警察官「指紋採取」岐阜中警察署鑑識係
警察犬訓練士「警察犬訓練の様子と臭気選別活動」羽島警察犬訓練所

3 取組の効果

全校児童の90%以上が参加した。子どもたちは、1クール40分間の職業体験を行う度に“100 徹円”（模擬紙幣）の給料を受け取り、4回の体験で得た給料で納税と買い物（駄菓子の購入）、さらには収支決算まで行う体験ができた。キャリア教育の充実に資する素晴らしい場となっている。設置された「職業体験ブース」は、いずれも徹明地域に縁のある方々の協力によるものであり、徹明小学校の地域に根ざした「ふるさと学習」という面からも、大変有意義で貴重な機会となっている。

【ホームページ】<http://cms.gifu-gif.ed.jp/tetsumei-e/modules/wordpress/index.php?p=1261>

＜静岡県＞（種別：学校）焼津市立大井川西小学校

推薦理由

大井川西小学校は、街道カーニバルにおいて子どもが主体となり商品の仕入れから販売までを行う子ども門前市を開催することを通して、商いの仕組みを経験させるキャリア教育を16年間にわたり実施している。

平成13年に東海道400年祭が実施されたことをきっかけに、地区を横断する田沼街道にちなみ、街道カーニバルを開催した。街道カーニバルは、地元の商工会が中心となり、自治会長や学校長が参加する実行委員会によ

って運営されている。大井川西小学校では、街道カーニバルを6年生の総合的な学習として位置付け、体験的な学習として取り組んでいる。街道カーニバルにおける本校の活動は、交通安全を呼び掛ける交通安全殿様道中と商いの仕組みを知る子ども門前市である。

殿様道中は、商工会の援助により子どもが江戸時代の衣装を手作りすることと田沼街道について学ぶことで、6年生の歴史学習に役立っている。

子ども門前市は、街道カーニバル実施日に商品の販売を来場者に対して行う。子どもがお金のやりとりによるお店屋さんごっこに終わらないように次のような学習活動を展開している。

- 1 商店訪問 子ども門前市への参加商店を訪問し、商売の仕組みや販売している商品、販売方法を学習する。
- 2 事前準備 子どもが主体となり、販売品目の設定、仕入れ伝票の作成、看板づくり、店頭 POP の作成を行う。魅力ある店名を考えたり、商品の説明を POP に作ったりする活動を商工会の会員と相談しながら行う。
- 3 リハーサル 商工会により本物の金銭を使って、販売体験のリハーサルを行う。金額の間違えの無いように、真剣な態度での活動を商工会より指導される。
- 4 子どもの門前市 朝から門前市の準備をする児童と殿様道中に参加した後に門前市に参加する児童はいるが、販売体験は全員が行う。金銭のやりとりや商品の受け渡し、呼び込み等を体験する。後日商工会から、売り上げから仕入れ金額を引いた利益を子どもに還元される。

本物の商品を使い販売する活動は、学校だけではできない活動である。商工会自治会と連携による子ども門前市の実施により、大井川西小学校のキャリア教育は、大きな成果を上げている。

<静岡県> (種別：学校) 静岡県立韮山高等学校

推薦理由

県立韮山高等学校では、平成16年度から「生涯にわたる自己実現と社会に貢献する人材育成」を目標とした「進学校における組織的なキャリア教育」を実施している。インターンシップを重要な柱として位置付けるとともに、「職業レクチャー」、「大学レクチャー」などの行事と関連付け、入学から卒業までの3年間で組織的なキャリア教育を実践している。将来の職業につながる大学の学部・学科選択に重点を置いて指導しており、近年は大学においても優秀な成績を収めているとの報告が多い。

1年生の8月に希望者を対象に「インターンシップ」を実施し(90人程度参加)、インターンシップを実施しない生徒については、将来希望する職業人へのインタビューを行う「ジョブインタビュー」を実施している。9月の学年集会で「インターンシップ」、「ジョブインタビュー」の発表会を実施することによって、様々な体験を共有するなどの工夫を行い、1年生の秋に行われる文理選択・科目選択に活かしている。

「職業レクチャー」では、生徒(1年生)それぞれが、各界で活躍する講師(卒業生)15人の中から希望する2人の講話を聴くことによって、先輩の生き方を通して、仕事の内容・自己実現・社会貢献などの職業観を育んでいる。PTAが卒業生招聘を含めてバックアップしてくれているのも特色である。

「大学レクチャー」では、生徒(2年生)それぞれが、10人以上の大学の先生方の講義の中から希望する2つの講義を受け、さらに、「先輩と語る会」では、先輩大学生の受験体験や大学生活を聴くことによって、大学・学部学科選択の一助としている。

これらの取組は、目的の明確化、事前・事後指導の充実によって「高校生の進路に向けた視野を広げる」効果的な学習になるとともに、「地域の方々と連携して何かに取り組む」という機会にもなっており、先駆的な取組である。

静岡県の進学校におけるキャリア教育を牽引する実践となっている。

<静岡県> (種別：PTA団体等) 島田市商工会青年部

推薦理由

ジュニアエコノミーカレッジのプログラムを、島田市独自にアレンジして、島田市内の子どもたちに「起業体験学習」を実施している。

平成25年度より実施し、平成25年度16人、平成26年度22人、平成27年度36人の参加があった。

具体的な取組としては、1チーム5人で「会社の設立」「商品開発」「資金の運営管理、および来客対応の方法(接遇)」「商品の販売」「決算報告書の作成」「納税の義務と役割」といった一連の流れを、商工会に所属してい

る、本物の会計士や銀行員などからアドバイスをもらいながら体験的に学んでいくものである。

特筆すべきは、

- ① これまで小学生を対象とした事業だったが、本年度より中学生にも募集をし、異年齢集団でチームを構成した。
- ② 実際にチームで考えた商品を開発・製作するとともに、地域の祭りで販売を行った。
- ③ チームのメンバーで起業する際に起こる様々な問題について、問題を解決したりプロのスタッフに相談したりする時間を確保するために、「寺子屋」と題して市内のお寺に場所を提供してもらい、一泊二日の宿泊体験を設定した。
- ④ 市長に協力をしていただき、実際の収入から計算した税金を市長に手渡す機会を設定した。そして、市長に対して、税金を手渡す際に「税金でサッカー場を作ってほしい」など、税金の使い道について、それぞれの子どもの思いを伝え、それに対して、市長からコメントをもらえるようにした。

以上4点のオリジナルの取組を行ったことである。

子どもたちが、起業体験を通して、性別、年齢の異なる5人の仲間と協働して問題を解決していく力や、自分たちで企画、製作、販売までを行えたという達成感や自信からくる自己有用感及び働くことや学ぶことへの意欲の向上などを培うことが期待できる。また、地域が主体となっていく体験活動などの拡充は、「地域ぐるみで子どもを育てる」という視点からも重要である。

以上のことから、子どもたちのキャリア教育の推進に非常に有効な団体であると考え、推薦する。

<愛知県> (種別：教育委員会) 豊橋市教育委員会

推薦理由

豊橋市教育委員会は、キャリア教育を「生涯にわたって自分の生き方を考え、自己実現に向けて努力できる人間の育成」ととらえ、「生き方教育」として推進している。さらに「小中一貫したキャリア教育の推進」を市の教育施策の3本柱の一つと位置付け、様々な機関と連携したり、核となる活動を推進したりしてキャリア教育に取り組んでいる。

○ 小中9か年の系統的な取組と市民啓発～豊橋こどもキャリアプログラム～

豊橋市のキャリア教育のねらいを明確にし、小中9か年の発達段階に応じた教育活動を系統的にまとめ、平成24年6月に「豊橋こどもキャリアプログラム」として市の広報誌に掲載して市民への啓発を図った。子どものキャリア発達のための地域や家庭、学校の関わり方を明示するとともに、豊橋市教育委員会所管の「生き方教育推進委員会」において、「豊橋こどもキャリアプログラム」を推進している。

○ 教員研修とカリキュラムの作成

毎年、「キャリア教育講座」を開設し、教員の研修機会を設けている。また、平成26年度の教務主任研修会において、基礎的・汎用的能力の育成のためのモデルカリキュラムを提示し、現在全校で独自のカリキュラムを作成して実施している。

○ 小学校の活動「いきいき体験活動」

市内全小学校3年生が実施する「いきいき体験活動」の内容に、平成20年7月に開館した市の教育文化施設である「こども未来館『ここにこ』」の模擬職業体験活動を位置づけ、小学校段階での職業観育成に努めている。豊橋市教育委員会と「こども未来館」が連携を図りながら、体験内容の改善に努めている。

○ 中学校の活動「ビジネスパーク（職業講話）」

平成20年度より、豊橋市教育委員会と市の商工会議所が連携し、市内の中学校に地域の職業人を派遣し、中学生に職業講話をしている。子どもたちは様々な職業観や生き方に触れるとともに、地域を見つめ直す機会となる。また、生徒はビジネスパークを通して、職場体験活動に向けて意欲を高めている。一方、講師を務める職業人の方々は、地域で子どもたちを育てていこうという意識を高め、職場体験活動に対して協力的である。

○ 今後の取組

平成28年度より、市内の全中学校2年生を対象に「職業レディネス・テスト」を実施している。職場体験活動の事前事後指導に職業レディネス・テストを活用することにより、職業への関心を高め、活動を充実させることをねらっている。また、平成27年度より市内の1中学校と2小学校に、小中9か年を見通したキャリア教育の研究を委嘱し、平成29年度に研究成果を発表する。

<愛知県> (種別：学校) 東浦町立片葩小学校

推薦理由

片葩小学校では、「すべての授業を道徳性のあるものにする」ということを学校経営の重点努力目標の一つに掲げている。その目標を達成するために「コミュニケーション能力を高め、他者との関わりの中でキャリア発達を続ける子どもの育成」をキャリア教育のテーマに設定した。将来の社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度の育成に向け、学ぶこと・働くこと・生きることの尊さを実感し、学ぶ意欲を向上させ、他者への積極的関心を高めることをねらいとして、キャリア教育を推進している。

1 キャリアカレンダーの作成

各学年において、キャリアカレンダーを作成した。キャリア能力を獲得させるために、年間を通した各学年の指導計画と、地域連携・外部講師との連携が一覧で分かるようなものである。年間を見通すことで、4つの能力をまんべんなく獲得できるかを確認するとともに、各学年間の系統性についても確認した。

2 「語り継ぐ力を高める」ための伝え合い講座の実施

フリーアナウンサーの吉田先生を講師に招き、4,5,6年生に2回ずつ、合計6回の「話し方講座」を開催した。「語り継ぐ場」を効果的に行うために様々なスキルを児童は身につけることができた。

3 「地域に学ぶ場」の設定

地域の講師を招き、地域で働く方の生の声を聞いたり体験活動をしたりすることを通して、地域の教育力を生かした教育を展開した。例：2年生「地域を知る」3年生「昔の生活」4年生「地域の産業」などで講師を招いた。

4 「語り継ぐ場」の実施

上学年が下学年に、学んだことを語り継ぐ場として4回実施した。上学年は伝えることを通して、下学年は先輩の話聞くことで、「学ぶこと」「伝えること」「つながること」などの大切さについて、様々な視点から学ぶ機会を得ることができた。

5 保護者や地域への啓発活動

学校だよりを活用し、保護者や地域の方へ啓発することができた。

<愛知県> (種別：学校) 高浜市立高浜中学校

推薦理由

高浜中学校では、高浜を愛し、地域の中で自立・協働できる大人になるための基礎を育てることを目指し、キャリア教育を学校の教育活動の軸にして取組を行っている。本校では、総合的な学習の時間でキャリア教育を行っているが、年間指導計画をつくる際、各教科や道徳、特別活動などにおいて「キャリア教育の価値をもった断片」をつなぐように考えている。この指導計画にもとづいた実践により、生徒自身がキャリアを積んだことを自覚し、自信をもって目標に向かうことができるようにするのが最終的な目標である。

中学校を卒業後も生徒は次々と困難な課題に出会うだろう。その時、課題に立ち向かい、解決に向かって努力できる人間であってほしいと考える。そのために入学時から学校生活全般を通して、生徒自身が力を蓄え、キャリアを積み重ねていると実感できるように、活動の工夫・働きかけの工夫をして実践を行ってきた。また、取組の内容についても、具体的な進路や職業選択に関わるものに限らず、「生き方」や「選択」の視点となる考え方を培う活動、地域で活躍している身近な大人について知る活動等、年度ごとに工夫しながら実践を継続している。

【具体的な取組】

1 「自分の生き方を考え、目標をもとう」

1年生のキャリア教育では、「自分を知る」ことを一つの大きな目標にしている。本校では、「キャリア＝身についた力」ととらえ、身についた力の生かし方、生かす道を考えることを初めに取り組む。自分を知り、友達を知り、自分のキャリアを考えながら、生き方の目標を思い描く。年間の行事や職業についての学習とともに、身近な人の生き方から学んだり、後輩となる小学校6年生に自分の身につけたキャリアを発表する機会を設定する。

2 「なりたい自分(将来の姿)を描こう」

2年生のキャリア教育の目標として、本校では、キャリアを積み、働く意義を考え、表現すると設定されている。2年生の大きな取組である職場体験学習を中心に、事前・事後の学びを通して生徒に「何のために

働くのか」という問いに対する自分なりの答えを見つけ出ししていく姿を期待する。また、ここで考えた「働く意義」は、中学校卒業後の進路を考えるために大切になってくる。さらに、自ら考え、意志決定していく力を育てるために、スキー合宿を「立志」の行事ととらえ、生徒が自分の将来を思い描き、卒業後の進路を考え、生き方を考えさせるように実践した。

3 「なりたい自分に向かって踏み出そう」

本校のキャリア教育の目標の一つは「自分を知る」ことである。卒業後の進路選択はもちろん、その後の人生において困難な課題に出会ったときにその課題に立ち向かう自信をもってほしいと考える。3年生では、「自他を知る」「自分の成長を実感する」ための活動を設定する。これまでの取組を踏まえ、自分の身につけたキャリアを振り返り、高浜市の市政についての提言を考える活動を設定する。身近な地域と地域を支えている人々に関心を寄せ、自分の考えを発信し、さらなる自分の成長を実感する機会とする。

<三重県> (種別：学校) 四日市市立西笹川中学校

推薦理由

当該中学校は、全校生徒238名の学校で、ブラジルやペルー等の外国につながる生徒が全校生徒の約30%（その多くは日本語指導が必要）を占めている。めざす生徒像を「自立+共生」とし、全教育活動をとおして、豊かな人生を歩む生徒の育成をめざしている。

当該中学校の取組の最も大きな特徴は、多文化共生についての学習や活動をとおして、外国につながる生徒が自身のキャリア形成について考えるとともに、全ての生徒が多文化共生社会の中で、将来に希望を持ち、目標実現に向けて意欲的に学習に取り組むことをめざしていることにあり、キャリア教育については、以下の5つを大切にしている。

- ・ 自分の個性や興味関心に基づき、よりよい進路を選択し、計画的に取り組む態度を育てる。
- ・ 集団活動において、役割を自覚し協力して活動する取組を充実する。
- ・ 様々な職業の社会的役割や意義を理解させ、自分の生き方を考える態度や姿勢を育てる。
- ・ 他者とのかかわりの中で、自分の長所等に気づき、受け入れることができる態度や姿勢を育てる。
- ・ 課題意識を持って自主的に学習する態度や姿勢を育てる。

1 学校におけるキャリア教育

(1) 学校教育ビジョンの策定

「西笹川中学校づくりビジョン」の重点目標「確かな学力と社会への参画力の育成」の中で「個に応じた学習とキャリア教育の推進」を掲げ、生徒自らの生き方について考えを深めたり、自尊感情や自己肯定感を高めたりできるよう取組を推進している。

(2) 基礎学力の定着と個に応じた指導

基礎学力の定着を図るため、「基礎学習タイム」を設定したり、マイノート（自主学習ノート）を導入したりすることで、学習の習慣化につなげている。

また、JSLカリキュラムに基づいた研究を平成24年度から継続しており、平成28年度も、大阪教育大学臼井准教授を招聘し、外国につながる生徒だけでなく、全ての生徒にわかりやすい発問や教材提示の在り方について研究を行っている。

(3) 外国につながる生徒の進路保障

外国につながる生徒については、高校進学を見据え、学習言語としての日本語が習得できるよう、放課後に日本語の学習および授業の補充の機会を設定している。進路選択を控えた3年生に対しては、学年担当と国際担当が連携し、将来の進路に不安を感じさせないような生徒の支援を行っている。

(4) 社会的基盤を作る取組

「挨拶」や「時間を守ること」等、社会生活を送るうえで必要な能力や態度を普段の学校生活の中で身に付けられるよう、学校全体で取り組んでいる。

また、場に応じた話し方や他者への対応の在り方等についても教科活動だけでなく、普段の学校生活の中で意識させるなど、人間関係形成・社会形成能力を育成している。

(5) 職場体験

1年生で将来の夢について考えたり、職業について調べたりしたうえで、2年生で職場体験を実施している。体験後は体験をとおして感じたことや考えたこと等をポスターセッションで発表している。ポスターセ

ッションには、1年生も参加し、1年後の職場体験への素地を作っている。

(6) 修学旅行と関連したキャリア教育

修学旅行を多文化共生の視点で捉え、キャリア形成の場として実施している。

2年生では事前学習として「移民の歴史」を学習し、3年生の修学旅行ではJICA横浜を訪れている。修学旅行後は、事後学習として「私のファミリー・ヒストリー」を作成し、自己を見つめ、将来どう生きていくかを考えさせている。

2 地域等と連携したキャリア教育

(1) 笹川ふれあいまつり

当該中学校の多文化共生サークルや総合文化部に所属する生徒が中心となって笹川ふれあいまつり、夏まつり、防災セミナーなどの地域行事に積極的に参加している。今年度の春まつりでは、ボランティア活動をしたり、夏まつりでは自らブースを出店したりした。また、多文化共生サークルの生徒が、同地区の多文化共生サロンのジュニアサポーター養成講座に参加し、定期的に地域に出向いて交流を深めている。交流した活動内容については、校内の一室を使ってその様子を掲示したり、全校集会において報告したりしている。

(2) キャリア教育パネルディスカッション

「夢の実現のために必要なことはなに？～先輩の話から学ぼう～」をテーマにして、同校の卒業生であり、笹川地区に在住の社会人、大学・専門学生、高校生から話を聞いたり、意見交換をしたりしている。身近な先輩から話をきくことで、自分自身と重ね合わせ、将来を考える機会となっている。

(3) 上級学校見学ツアー

三重県教育委員会等と連携して、外国につながる生徒等を対象とした上級学校見学ツアーを行っている。平成27年度は、同地域にある小学校及び高等学校の児童生徒とともに、四日市大学の見学を行い、生徒の高校卒業後の進路選択の視野を広げるきっかけとなった。

<三重県> (種別：学校) 三重県立伊賀白鳳高等学校

推薦理由

当該高等学校は、農業（生物資源科、フードシステム科）、工業（機械科、電子機械科、工芸デザイン科）、商業（経営科）、福祉（ヒューマンサービス科）の7学科13コースを有する県内唯一の総合専門高等学校であり、地域に根ざし、地元で活躍できる生徒の育成をめざしている。

学校設定科目「産業技術基礎」と「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」をキャリア教育の中核となる時間として位置付け、3年間をととした系統的なキャリア教育を推進し、生徒の興味・関心や適性に応じた進路が実現できるようにしている。

また、専門高校であることの強みを生かし、実習や課題研究等、専門教科において地域との連携や学科間連携を行っている。

1 系統的なキャリア教育

全ての生徒が1年次前期に「産業技術基礎」を履修し、7学科13コースの体験をとおして、各コースに関連のある産業や職業についての理解を深めるとともに、自分自身の興味・関心や適性をふまえたコース選択ができるようになっている。

2年次には、全員が「キャリアデザインⅠ」を履修し、進路講話やインターンシップをとおして職業を理解し、勤労観・職業観を身に付ける学習を行っている。

インターンシップでは、事前に事業所を訪問し、打合せだけでなく働く意義や仕事をするうえで心がけることの聞き取りを行うなど、働く覚悟とイメージを持ってインターンシップに臨んでいる。

3年次には、全員が「キャリアデザインⅡ」を履修し、自己理解をふまえた進路希望の実現を目指すとともに、外部講師による受講をとおして卒業後に必要となる知識や技術・能力、将来起こりうるリスクに対応できるスキルについて学習している。

2 学科間連携と地域貢献の取組

全学科が連携して運営している「白鳳C a f e」は今年で5年目を迎え、生徒の実習作品の展示や生産物の販売、地域の人を対象にした体験教室等を行っている。

また、生物資源科とヒューマンサービス科が連携し、実習で育てた花や寄せ植えを独居老人宅や保育園へ持参して交流したり、生物資源科の生徒が作った食品加工品のラベルを工芸デザイン科の生徒がデザインして商

品化したりするなど、学科間の連携を積極的に行っている。これらの取組により、生徒は、自身の所属コースのみならず、他の分野にも視野を広げることができ、様々な分野の知識や技術、人によって産業が成り立っていることへの理解を深めている。

さらに、地域の小中学校や特別支援学校の教材の修理や制作を行う「鉄人イレブン」（機械科・電子機械科）をはじめとした地域と連携した取組をとおして、地域に貢献できる喜びを体感させ、主体的・積極的に地域の人々と関わりながら、「力と志を持った職業人・地域に貢献できる社会人」の育成に向けて、実践を続けている。

<三重県>（種別：学校）三重県立特別支援学校玉城わかば学園

推薦理由

当校は、知的障がいのある児童生徒を対象として平成6年に創立された特別支援学校である。教育目標として、「よく学び、よく遊び、いきいきと生活しよう」「すすんで社会に参加できる人になろう」を掲げており、発達段階に応じた学部目標に基づき、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を展開している。

また、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成し、児童生徒の多様な障がいの状況や発達段階に基づき、将来の社会生活を見据えた指導・支援を行っている。地域の小中学校から入学する児童生徒についても、これまで受けてきた支援を継続して実施するために支援情報の引継ぎを丁寧に行っている。

1 職業コースの設置

生徒の障がいの状況や卒業後の進路の多様化に対応し、将来を見据えた支援の充実を図るため、高等部に普通コースに加え、職業コースを設置している（平成24年度導入）。職業コースでは、企業等の関係機関と連携し、一般企業への就労に向けて必要となる基本的な姿勢や体力・粘り強さ等を身につけ、自立と社会参画できる生徒の育成をめざしている。

2 技能検定等の活用

三重県教育委員会が主催する技能講習会・検定を積極的に活用している。特に、清掃技能検定では上級取得者を輩出し、卒業後の就職につながった例もある。

また、生徒の達成感や自己肯定感等を高めるため、授業や技能検定の成果を発表する場にも積極的に参加している。特に、アビリンピックみえ（県障害者技能競技大会）では、参加した生徒が入賞を果たした。

他にも、農業普及指導員を招いて農業に関する技能講習を実施し、農業分野での就労をめざした基礎技術の習得にも取り組んでいる。

3 「企業フォーラム」の実施

当校が主催している「企業フォーラム」は、障がい者雇用を検討する企業や団体等と学校との情報交換をする大切な機会であり、学校に企業等の採用担当者を招き、生徒の様子を見てもらうことにより、就労へとつなげる役割を果たしている。県内7校（分校2校を含む）で同様の取組がなされているが、当校はその先駆けである。

4 地域社会とのつながる取組

テーブルマナーをはじめ、社会生活を送るうえで必要となるマナーやルール等を習得するための講習会を設けている。

また、最寄りのJR駅周辺の清掃活動を定期的実施し、平成28年7月にJR伊勢市駅長から感謝状を授与されるなど、地域との関係づくりにも積極的に取り組んでいる。これらのことは、生徒の社会参画への意欲を醸成し、卒業後の地域生活への円滑な移行につながる取組である。

<滋賀県>（種別：教育委員会）草津市教育委員会

推薦理由

- ・ 草津市中学生チャレンジウィーク事業推進協議会は、域内6校の事業担当者と、市教育委員会事務局の担当者で構成され、域内の学校の活動が一定のレベルでの活動になるように、推進協議会が中心となって、細かな情報交換を行ったり、職場体験中の安全指導を徹底したりしている。
- ・ 域内の全ての中学校において、事前事後指導を含め、充実した内容で5日間の職場体験を実施している。具体的には、事前指導においては、マナー講座や職業講話、企業訪問を実施し、事後指導では、お礼状や事後レポートの作成、事後訪問、報告会などを実施している。
- ・ 県キャリアノートを活用した授業を実践するなどして、キャリア教育の充実に向けて取り組んでいる。

- ・ キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成の一環として、小学6年生と中学校生徒会がテレビ会議システムを利用した遠隔授業で交流し、進学への不安を軽減したり、中学校へあこがれを持ったりする機会を設けるなど、進路学習のサポートを行っている。また、平成27年度からは、小学生から中学1年生を対象に、様々な職業を紹介し実際に仕事を体験する「しごとチャレンジフェスタ」を主催する県の担当課（商工観光労働部労働雇用政策課）と連携し、発達段階に応じた職業教育と将来のものづくり人材の育成に繋げている。
- ・ 小中学校のキャリア教育を連携して取り組めるようにするため、駅付近の小学校において職場体験学習を取り入れている。駅前商店街での体験学習を通して、働く意義の理解だけでなく、商店街の活性化を考えさせる機会にしている。
- ・ 草津市教育委員会が選定した講師を市内各小中学校に招聘する「夢・未来を抱くスペシャル授業 in 草津」を実施し、キャリア教育を推進している。講師にはオリンピックメダリスト、歴史学者、映画監督、副知事、大学教授、落語家など幅広い業種にわたって紹介しており、各学校がキャリア教育を充実するために計画的に招聘できるようにしている。

<滋賀県>（種別：学校）滋賀県立水口高等学校

推薦理由

地域の中核普通科高校として、国際文化コースや体育コースを設置し、特色ある教育活動を展開するなかで、生徒の多様な進路希望を実現するため、キャリア教育に力を入れており、平成23年度より「普通科におけるキャリア教育推進事業」「確かな自己実現支援事業」などの取組を行ってきた。また、平成26年度より「県立高等学校キャリア形成支援事業」の指定を受け、「生徒の社会人基礎力育成と意思決定能力の向上を図る」ことを目標として、1学年では「進路探求のスタート」として自己理解を深める、2学年では「進路探求を深める」として将来設計を確かなものにしていく、3学年では「進路決定に向けて」として自己の価値観を大切にしながら進路決定に結びつけるという、段階を踏んだ指導計画のもと取組を行っている。

主な取組

・ 地域人講座

約60人の地元経済人に来校していただき、1年生の生徒4、5名と地元経済人とでグループをつくり、「働くことで得られること」について話し合うワークショップ形式の学習を行う。地域の方との意見交換を通して、働くことの意義や大切さを理解することを目的に実施。

・ インターンシップ

2年生の希望者を対象に、基本的に5日間で実施。うち2日は大学や専門学校で進学の意味を学び、その後の3日間は実際に企業で就労体験をするという、進学を希望する生徒が多い普通科高校において参加しやすいインターンシップの形態で実施。生徒が、「高等学校卒業後、進学し、その進学先を卒業したときに自らも職業に就くのだ」という、自らのキャリアについて見通す機会を持つことを目的に実施。その結果、昨年度は就職希望以外の生徒も含めた第2学年の約4分の1の57名の生徒がインターンシップに参加した。また、そのための準備として、1年次では職業レディネステストや地域人講座などの取組を通して、自己理解を深めながら社会と自らの関わりを大切にすることを意識を持たせ、2年次では大学企業見学や分野別進路説明会・進路講演会などを通して、自分の興味・関心・適性などを見出し、自分の将来設計を確かなものにする取組を行っている。

<京都府>（種別：学校）京都府立大江高等学校

推薦理由

京都府立大江高等学校は、由良川流域にまたがる京都府中丹地域（旧京都府加佐郡大江町、丹波・丹後地域の中間地点）にある普通科総合選択制とビジネス科学科を持つ全校生徒300名余の小規模高校である。全校生徒の約3割が地元へ就職することもあり、普通科総合選択制の学校設定科目とビジネス科学科の商業系学校設定科目を中心に地域の研究や地域との連携を進め、教育を通して地域への愛着を育み、地域活性化に貢献してきている。

特に平成27年度からは府立高校特色化事業「京都フロンティア校」の取組として、「探究型学習による地方創生教育」をテーマに様々な特色ある教育実践を展開し、地域の中で活躍できる人材の育成に努めてきた。さらに「法やルールに関する教育」研究指定も受け、主権者教育の立場から地元地域の暮らしや課題を見つめることで、社会への参画意識の高揚に努めてきている。平成28年度は引き続き「京都フロンティア校（地方創生教育推進校）」として「丹洲（丹波・丹後）地方創生推進」をテーマに、また「法やルールに関する教育」研究指定校とし

て、さらに地域との連携や社会の成員としての自覚を深める取組を進めている。

具体的取組は以下のとおりである。

【地域連携と学校間連携】

1 TANTAN 見本市の運営

生徒・教員による実行委員会を立ち上げ、丹波・丹後地域の府立高校専門学科や支援学校と連携して各校の生産物や製品を販売するとともに、地元企業や団体と連携して農産物や特産品等の委託販売を企画運営することで、地域内の連携と活性化を図り、ビジネスマインドを育成している。今年度で4回目を迎え、ビジネス科学科については授業の一環として取り組んでいる。

2 インターネットショッピングモール「くるせる」の運営

生徒が社長等を務めるインターネットショッピングモールであり、ビジネス科学科の授業の一環として取り組んでいる。丹波・丹後地域の企業や団体約 80 社との提携業務や商品の広報・販売を生徒たちが担っている。今年度は地元企業の商品パッケージデザインも手がけ、活性化に貢献している。

3 「ブラみやづ日帰りツアー」の催行

生徒・教員による実行委員会を立ち上げ、京都府北部地域の魅力を地域外の方々に伝えるべく企画し、催行した。地元旅行業者の指導を受けながら、全国的に見ても貴重な「京都丹後鉄道」の活用及び大江町と宮津市を繋ぐ宮津街道をテーマとしたプログラムを生徒が企画・運営した。生徒が自分たちで視察・調査することで地元の魅力を発見し、地域住民のみならず参加者との交流の機会を持つことができたことで、大きな達成感に繋げることができた。

4 地元地域活性化のための各種広報活動

ビジネス科学科の授業の一環として、また情報デザイン部の活動の一環として地域の祭りやイベント、福知山市職員募集のポスター・チラシの制作、中丹西保健所と連携したDVD映像作品制作等、地域活動に幅広く貢献した。

【地域創生と歴史・文化】

5 地域の人的・物的資源を有効活用した地方創生案の提言

普通科社会文化領域の学校設定科目「アクティブB2」で、地元成美大学（現福知山公立大学）地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」への応募作品に取り組んだ。平成27年度は前述のTANTAN見本市をテーマにした地域活性化策を応募し、全国102策の中から佳作（最優秀賞1、優秀賞1、佳作4）に選ばれた。この作品をもとに福知山市夜久野町まちづくり協議会、福知山市民憲章大会においても実践発表を行い、地域の住民との交流を深めた。今年度も同コンテストの応募に向けて取り組んでいる。

6 「法やルールに関する教育」と連動した地域改善策の提言

平成27年度は選挙権年齢引き下げを目前に控え、「法やルールに関する教育」研究指定のもと主権者教育を推進した。普通科社会文化領域学校設定科目「アクティブB1・B2」において、地方創生教育の観点から、特に地元福知山市政（行政）について研究を深めた。福知山市議会の傍聴、市議会議員との懇談会等を通じて福知山市が抱える課題について見識を深め、冊子としてまとめた。さらに今年度5月には「高校生フレッシュ議会」に高校生議員として参加し、地域改善に向けた質問や提言を行った。

7 地元につながる歴史・文化の調査・研究

普通科社会文化領域「アクティブB2」において、地元大江町の歴史や文化について、地元の方の話を聞いたり、歴史的スポットを訪れることで、大江町に対する認識や愛着を深めた。また、研究した内容を冊子にまとめた。

【地域貢献と学力向上】

8 英語観光ガイドブックレットの作成

普通科学校設定科目「実用英語」において、課題学習として実際に地元観光スポットを訪れ、その魅力について高校生が目線で英語ガイドブックレットを作成した。自分たちが学ぶ学校がある地域の魅力を再発見するとともに、英語を活用して表現することへの意欲を高めた。また、ガイドブックレットは近隣の施設に配布した。

【環境】

9 地域環境の調査・研究

普通科自然科学領域学校設定科目「アクティブA1」において、フィールドワークとして大江山を源流と

する地元河川「宮川（一部五十鈴川と呼ばれる）」の環境調査を行い、地元地域環境への関心を高めた。今年度はさらに調査を行い、生物図鑑を作成する予定である。

【福祉】

10 福祉施設との交流

普通科科目「介護福祉基礎」において福知山市社会福祉協議会と連携し、近隣の老人介護施設での催しに参加し、交流を深めた。

【その他】

11 生徒会を中心としたキャリア教育企画やボランティア活動

京都市立大連携研究協議会主催の「まるっトーク in 大江」を開催し、大江高校生・大学生・地域住民（大江町まちづくり協議会に依頼）が町の魅力や将来について語り合った。また、地元地域の行事のボランティアスタッフや募金活動等に参加するなど、地域を盛り上げ、住民との交流を深めた。

12 弓道教室の開催

京都府北部地域で唯一弓道部を設置している高校として、福知山市弓道協会の協力を得ながら、地域住民の健康促進を図ることと交流を深めることを目的に弓道教室を行った。

以上のように、京都府立大江高等学校は、地元の人的・物的資源を活かして、またアクティブラーニングの要素を取り入れた教育活動を通して、生徒の地域への愛着を育むとともに、地域に生きる一員としての自覚を育成することに取り組んでいる。地域との連携を基軸とした特色ある取組は、キャリア教育プログラムとして高く評価でき、全国の高等学校の模範となるものであり、文部科学大臣表彰の候補校として推薦する。

【ホームページ】 http://www.kyoto-be.ne.jp/ooe-hs/cms/?page_id=313

<兵庫県>（種別：学校）姫路市立四郷中学校

推薦理由

「小中一貫教育のシステムで進めるキャリアノートの活用」

四郷中学校ブロック（四郷中学校・四郷小学校）では、社会的自立に向けたキャリア形成の視点を機軸として小中一貫教育でめざす子供像を「夢を持ち続け、自己実現を図れる子ども」としている。中学校キャリア教育目標の、「自分で考え行動し、あきらめずに粘り強くやり抜く生徒の育成」に迫るため、職場体験「トライやる・ウィーク」や「キャリアノート」を活用した取組を中心に推進している。

小中一貫教育

姫路市は全35中学校ブロックで小中一貫教育を推進し、四郷中ブロックにおいては、保幼小中の交流を大切にしている。また、地域とのつながりも強く、「保幼小中合同運動会・体育大会」や「農園プロジェクト」、「No!メディアウィーク」などの取組を実施している。

職場体験

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」をキャリア教育の中心とし、中学1年時から職業について考える機会を設定している。また、各教科・領域を「キャリアノート」で関連づけ、職場体験から得た学びを一過性のものとせず、事後の生活に活かす工夫をしている。

キャリアノート

四郷中学校ブロックは兵庫県教育委員会から「キャリアノート活用に関する研究事業」の指定を受け、県版キャリアノートをもとに独自の四郷版キャリアノートを作成し、小学校段階からキャリアファイルにファイリングすることにより9年間の育ちと学びの足跡としている。

上記のように四郷中学校の取組は他校の範となっており、キャリア教育の充実に寄与するところは大きい。

【ホームページ】 <http://www.himeji-hyg.ed.jp/shigo-j/>

<兵庫県>（種別：学校）兵庫県立上郡高等学校

推薦理由

本校は、キャリア教育を、社会人基礎力（考える力・行動する力・協働する力）を育成する目的で展開しており、学校の教育活動全体における体系化を意識しながら、「総合的な学習の時間」において、「社会人基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」として、プログラム化して取り組んでいる。

本校では、「キャリア」の解釈を、広義に捉え、将来様々な集団に所属し、複数の立場で社会生活を力強く営ん

でいくための知識とスキルを身に付けるための学習と位置付けている。取組をとおして、職業人としてのキャリアデザインや地域人・市民としてのキャリアデザインを構築するためのスキルの醸成を図っている。

I 取組の内容

1 自己理解・他者理解

コミュニケーション能力の育成を目的として、良好な人間関係を構築するための自己表現を知り、実践するためのスキルを身に付けるため、アサーショントレーニングを活動のメインとして、自己理解・他者理解のためのプログラムを展開している。

2 職業人としてのキャリア教育

豊富な体験活動により、職業や社会についての理解を深め、将来職業人として自己実現するための力を身に付けている。

1 学年…ボランティア体験や職業人インタビューなどにより、キャリアアンカーやジョブマッチングについて学ぶ。

2 学年…マナー学習、企業研究などの事前学習の後、授業中 1 週間のインターンシップでフィールドワークを実施し、事後学習として、成果報告会を実施し自己の体験学習の振り返りと体験の共有を図るとともに、プレゼンテーション能力も育成する。

3 学年…セクションに分かれ、「地域貢献・活性化」に関する課題を発見し、その解決方法について研究を進め、その成果を発表会でプレゼンテーションを行うことにより、課題発見解決能力を育成する。

3 地域人・市民としてのキャリア教育

シチズンシップ教育として、公職選挙法改正に伴い、主権者教育や税と社会保険の学習に取り組んでいる。

4 課題発見解決能力の育成

社会人として求められる能力の一つである課題発見解決能力の育成をめざし、行政機関等（町役場・商工会等）と協働しながら、地域貢献と活性化を目的にした「上郡町活性化プロジェクト」を展開している。

II 取組の効果

1 転退学者数の減少

取組を始めるまでの本校の転退学者は約 20%にも及んでいたが、その数は減少している。（現 3 年生の転退学者数は 9 月 1 日現在で 5%）

2 キャリア意識の向上

本校では、取組の成果を測る指標として、総合質問用紙 i チェックを用いており、「キャリアデザイン」「成功体験」「規範意識」「社会参画」などの項目で数値の上昇が見られた。

取組によって、生徒が学校生活でしっかりと自己の姿を見つめ、新たな自分を発見し、十分な自己有用感を持ち、将来の自己実現に向けた前向きな姿勢の学びが身に付いている。

【ホームページ】 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~kamigori-hs/>

<兵庫県>（種別：学校）兵庫県立阪神昆陽特別支援学校

推薦理由

1 本校の現状と課題

生徒の課題は障害だけではなく家庭環境にもあり、自己肯定感の低さが目立つ。そこで、まず生徒が教職員から大切にされていると実感させるとともに将来に対する夢や希望を持たせることが必要である。

その上で生徒一人一人に具体的な目標を設定させ、日々の教育活動をその目標達成につながるキャリア教育を実践し生徒の自己効力感や自己有用感を育む。

2 3年間を見通したキャリア教育

学校経営の重点の中に「キャリア教育・就労支援」として位置づけ、1年時から卒業時には「働く人になる」ことをスローガンに、日々の教育活動全体をキャリア教育の視点を持って実践している。

(1) 地域連携による体験学習を取り入れた「教科指導」

就労に向けて 3つのコースに分かれて学んでいるが、いずれも地域と連携した体験学習に取り組んでいる。

- ① 流通サービス：近隣の高齢者施設や障害者施設、公民館における清掃実習
- ② 食品加工・農園芸：生産、加工物の小学校や老人ホームにおける販売実習
- ③ 福祉・介護：近隣の保育園や高齢者施設の交流会への参加

(2) 企業、事業所と連携した「職業体験実習」

約 80 箇所の企業、事業所の協力の下、全校生徒 144 人が 3 年間を通して 1 人あたり合計 40 日間の実習（校内 5 日、校外 35 日）を行っている。それぞれの実習の前後には事前指導約 10 時間、事後指導約 5 時間を実施している。

(3) 離職防止につながる「交流及び共同学習」

同敷地内の高等学校との「交流及び共同学習」を推進している。日々の活動を重ねる中で、様々な人との人間関係形成力を育んでいる。これが、卒業後、職場での人間関係を円滑にし、ひいては離職を防ぐことにつながっている。

(4) 生活自立をめざす「宿泊学習」

1 年：宿泊体験学習（1 泊 2 日 企業見学）

2 年：修学旅行（3 泊 4 日 民泊、就労体験、企業見学）

3 年：生活自立学習（2 泊 3 日 学校の近隣の賃貸住宅での生活体験）

3 社会自立のための生徒指導

- ・ ルールやマナーを遵守する意識を育む。
- ・ 良好な人間関係を築く力を育む。

4 グローバル化に対応した教育

タイ王国キングスカレッジとの交流事業

<奈良県>（種別：学校）奈良県立磯城野高等学校

推薦理由

模擬株式会社直売所「しきの 彩（いろどり）」を設立し、「起業家精神」を養うなどキャリア教育に熱心に取り組んでいる。

また、専門高校（農業系・家庭系）としての特性を生かして、地元自治体との交流を積極的に行い、地域の活性化に貢献している。

1 模擬株式会社直売所「しきの 彩」の設立

平成 26 年に模擬株式会社直売所「しきの 彩」を設立し、生産・商品化・販売という実際の流れを学んだり、責任とリスクを伴った利益追求の体験をしたりすることで、「起業家精神」を養うとともに、主体的に課題を見つけ、それを解決していく力の育成を目指している。

【主な活動内容】

- ① オリジナル商品の提供
- ② 学校成果物の販売
- ③ 販売促進活動の展開

2 地元自治体（田原本町）との交流

農業系、家庭系の各学科の特性を生かし、地元の幼稚園児や小学生を招いての体験的な取組を実施したり、自治体の様々な取組への参加を積極的に行うなど、自治体との連携や交流を通して、地域の活性化に貢献している。

平成 28 年 3 月、田原本町と包括連携協定を結んでいる。

【主な活動内容】

- ① 幼稚園・小学校との交流（野菜の教室・ふれあい動物教室・幼稚園訪問等）
- ② 田原本町との交流
 - ・ 清掃活動へのボランティア参加
 - ・ 通学路周辺の清掃活動
 - ・ 選挙啓発活動（啓発グッズの配布）
 - ・ 交通安全マスコット配布
 - ・ 学校周辺住民への感謝の訪問（メッセージカードと鉢植えの配布） 等

以上の理由から、今後、県内の高校におけるキャリア教育の指導的な役割を果たすことが期待できる。

<鳥取県> (種別：PTA団体等) 鳥取市立江山中学校PTA

推薦理由

鳥取市教育委員会および鳥取市立江山中学校がキャリア教育の一環として行っている職場体験を円滑に推進するため、PTAは受入先の確保を17年にわたり協力し、キャリア教育推進体制の整備に積極的に関わってきた。

平成11年鳥取市教育委員会が取組を始めた”地域で学ぶ職場体験活動(「ワクワクとっとり」)”を実施するにあたり、PTA役員と体験活動を行う中学校2年生の保護者を中心に校区内をまわり、職場体験の受入先の事業所確保を学校と協力して行った。

その後も職場の受入先の継続と新規開拓に向け、「ワクワク江山推進協議会」(構成員：PTAより会長1名、副会長2名、第1学年及び次年度第2学年の学年委員(※1)6名、学校から校長1名、学年担当2名、計12名)を実施前年度2月に設置し、PTAの取組として引き継がれ伝統となっている。

これに先立ち、学校では生徒へ希望職種(事業所)希望調査を実施し、その後、推進協議会では調査結果をもとに前年度受入れ事業所から次年度受入先を選定する。この時、受入れ人数が1事業所当たり1～2名となるよう調整をし、希望先がない場合には新規開拓を検討する。

3月中を目安にPTAの9名が分担して前年度受入の約20の事業所へ足を運び、趣旨説明と継続受入のお願いをしている。中学2年の約20名の生徒が出来るだけ希望に添った事業所で職場体験できるよう、新規事業所開拓にも自発的に取り組んでいる。校区は周囲を田畑で囲まれており、域内の事業所数が限られているため、校区外への事業所開拓にPTAが積極的に取り組んでいる。結果、第1希望あるいは第2希望の職種(事業所)に決定できており、意欲をもってスタートを切ることができるよう環境を整えている。

本校は小規模校(平成28年度全校生徒67名)で、生徒数が年々減少している。おとなしい生徒が多い傾向があり、この活動が、一人一人が自立し、意欲的に取組む職場体験となるよう、1事業所には少人数の受入れをお願いしている。このことにより、生徒へのきめ細やかな指導をしていただくことが出来、生徒の積極性や自発性を引き出す取組へとつながっている。

※1 江山中学校PTAでは、入学時に3年間の委員を決定することになっている

<島根県> (種別：教育委員会) 江津市教育委員会

推薦理由

江津市教育委員会は、平成25年度～27年度に島根県教育委員会の実施する「地域でつなぐキャリア教育モデル事業(社会や地域への貢献意欲をもって意欲的に学び、社会的・職業的に自立できる児童生徒の育成をめざす事業)」に取り組んだ。高等学校長を会長に小・中・高等学校、PTA、地域企業、公民館、NPO法人「てごねっと石見」、江津市教育委員会の代表等による地区連携推進連絡会を立ち上げた。「ありがとう江津～ふるさとをしあわせにする人づくり～」をスローガンに掲げ、小・中・高等学校と地域の連携を図り、「ふるさと教育」「キャリア教育」を融合させた「江津市ふるさと・キャリア教育」の推進及び啓発に取り組んだ。平成28年度以降は江津市教育委員会が主体となり、継続した取組を進めている。

1 理念

江津の「ひと・もの・こと」を活かした学習活動をとおして、ふるさとへの愛着と誇りを育むとともに、今の学びと未来の生活のつながりを常に意識して、子どもたちの自立をめざす教育

2 4つのワーキングチームの取組

(1) 「学ぶ」ワーキングチームの取組

～学習に関わる活動を通して、学び続けようとする意欲を育む～

- ・ わくわくイングリッシュ
- ・ よこそ先輩!講演会

(2) 「伝えあう」ワーキングチームの取組

～地域の魅力を伝えあう活動を通して、地域・社会をより良くしようとする意欲を育む～

- ・ 小学生のものづくり

(3) 「働く」ワーキングチームの取組

～働くことについて体験的理解を深めながら、地域・社会に貢献しようとする意欲・態度を育む～

- ・ 小中高一斉キャリア教育月間
- ・ 働くことに関するワールドカフェ
- ・ 地域と自分の未来をデザイン!中高生夏合宿

(4) 「めざす」ワーキングチームの取組

～本事業の成果と課題を明らかにし、今後の「江津市ふるさと・キャリア教育」の展望を示す～

- ・ 江津市ふるさと・キャリア教育の普及、啓発 ・ 江津市キャリア教育講演会
- ・ 意識調査等による事業効果の検証 ・ 今後めざすべき方向性の提案

以上のように、江津市教育委員会の取組は、組織的にキャリア教育推進に取り組んだ優れた実践であることから推薦する。

【ホームページ】 <http://www.city.gotsu.lg.jp/124.html>

<岡山県> (種別：学校) 岡山県立岡山南高等学校

推薦理由

当該校は、創立 114 年の歴史と伝統をもち、商業学科（3 科）と家庭学科（2 科）を併設する専門高校である。学校のキャリア教育重点目標に「地域社会のリーダーとなる人材の育成」を掲げ、生徒は地域理解をしつつ、その魅力を生徒の視点で情報発信している。

○ 企業と共同した新商品の開発に関する取組

平成 26 年度から、岡山県の地場産業である学生服メーカーと連携して「産学連携実学体験プロジェクト (M P S)」を実践している。1 年目は「10 年後の将来を見据えた次世代体操服」の商品企画を行い、平成 27 年度は赤磐市の中学校から「平成 28 年度入学生が着用する新しい体操服のデザイン」を依頼され、企業と連携して販売を目的とし商品化するというプロジェクトに取り組んだ。今年度は、岡山市内中学校の女子制服の商品化を目指している。岡山県の地場産業を通じた郷土理解とキャリア形成における職業観、勤労観、問題解決能力を育成することができている。

○ 学科の特色を生かした地域貢献の取組

該当校では、専門学科で学んだ知識・技能を活かした地域貢献活動を積極的に行っている。商業学科では、岡山県産野菜（黄ニラ、パクチー）を使った商品開発や、バレーボール女子プレミアリーグ（岡山シーガルズ）の公式土産品を開発している。国際経済科では、タブレット端末を活用した英語による岡山の代表的な観光名所である後樂園のボランティアガイドを行い、学科での学びを活かして海外の観光客に岡山の素晴らしさを P R した。情報処理科では、学校近隣の商店のポスターを作成し、地域活性化の一端を担っている。生活創造科では公民館で小学生対象の料理教室を開催し、服飾デザイン科では地元小学校に出向き、家庭科の授業においてミシン実習の指導を行い、家庭科の魅力発信に繋がった。

全校（5 学科）での取組を通して幅広い年齢層の方との異世代交流により、コミュニケーション能力が伸長すると同時に、自らの立場や能力を客観視する能力も芽生えた。愛着の湧いた地域に対して、貢献できることを自発的に考え、地域を支えるリーダーになりたいという強い使命感をもつようになった。その結果、当該校では高い県内就職率を誇り、高校卒業後は地域産業を支える人材として活躍している。このように、地域と積極的に関わることで、地域の魅力を発見しつつ、高校生自身もキャリアを身に付け、自らの進路実現に資する取組は、専門高校として地域に根ざしたキャリア教育のモデルとして先進的なものと考え、ここに推薦する。

<岡山県> (種別：学校) 岡山県立矢掛高等学校

推薦理由

当該校は平成 16 年度に矢掛高校と矢掛商業高校が再編整備され、新たなスタートを切った。平成 22 年度から総合類型に学校設定教科として「やかげ学」を開設した。この教科は、地域での活動体験を通して、達成感や充実感を持たせると同時に、自己の進路を模索する活動に結びつけることをねらいとしている。

○ 「職場実習」のためのきめ細やかな事前事後指導

職場実習の事前指導として、講義を町の職員から受け、地域や勤労についての理解を深めるための事前学習を行っている。また、事後指導の一環として、3 年 9 月から活動の振り返りを行い、12 月に体験先の職員や地域住民、中学生を招き、活動成果発表会を行っている。

細やかな指導を通じて、職場実習は自己の進路を模索する貴重な機会となり、職場実習での保育園や小学校訪問をきっかけに、責任感ややりがいを感じて、保育士や学校事務職員を目指すなど、将来の進路に直結した結果をあげている。

○ 学校設定教科「やかげ学」における地域理解と地域貢献の実践

「やかげ学」の学習を通して、生徒は郷土を知り、その伝統や文化に対する理解を深めている。「かかわり」「つながり」の重要性を理解し、地域に支えられる受け身の姿勢にとどまることなく、地域を支える戦力として何ができるかを考え行動に移し、社会に積極的に寄与する姿勢を育んでいる。校外の幅広い年齢層の方々と異世代交流とその報告会を行うことにより、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力も伸長している。また、活動を通して規範意識の向上とともに自分に自信を持つことができたことが、学ぶことの楽しさやモチベーションアップにつながっている。「やかげ学」の学習がきっかけで、将来の目標が明確となり、大学進学等自分自身の進路実現に向けて意欲が向上し、国公立大学への進学者数も年々増加している。

このように、地域に積極的に進出することで、地域が活性化するとともに高校生自身もキャリア意識を身に付け、自らの進路実現に資する取組は、普通科高校として地域に根ざしたキャリア教育のモデルとして先進的な取組と考え、ここに推薦する。

<岡山県> (種別：学校) 岡山県立倉敷琴浦高等支援学校

推薦理由

企業・地域団体等との協働した商品改良・技能向上等の取組

○ 「地域型実習」

当該校は、卒業後、就労による社会自立をめざす高等部単独の特別支援学校として平成 22 年度に開校した。家政、流通サービス、清掃サービスの 3 つの専門教科を中心とした校内での専門的な実習とともに、「実社会からの学び」を重視することを目的として、毎週 1 回、登校から下校までの時間を倉敷児島地区の企業等（スーパーマーケット、老人保健施設、児島産業振興センター等）で実際の就労体験を通じた「地域型実習」を当該校の特色ある教育課程として取り組んできた。

○ 「Made in Kojima O・MA・MO・RI PROJECT」

平成 26 年度より、児島地域の主要産業の繊維産業の拠点となる倉敷市児島産業振興センターや地域の企業と連携して、児島の歴史や産業を活かした畳の縁やジーンズを使った「お守り」を製作し、企業や神社に納品するなど、観光の活性化等に貢献する活動を継続して行ってきた。

こうした地元企業と連携した「実社会からの学び」を通して、生徒達は、自己肯定感を高め、学ぶことの楽しさ、人の役に立つ喜び、社会に貢献する喜び、働く喜びを高めながら、就労による社会自立を実現してきた。平成 27 年度の卒業生の一般企業等への就労率は 100% であり、これまでの職場定着率も高い状況を保っている。

このように、地域と積極的に協働することで、地域が活性化するとともに、自らの進路実現に資する取組は、特別支援学校として地域に根ざしたキャリア教育のモデルとして先進的な取組と考え、ここに推薦する。

<広島県> (種別：学校) 福山市立川口小学校

推薦理由

1 はじめに

福山市は、2016 年（平成 28 年）7 月 1 日、市制施行 100 周年を迎えた。2015 年度（平成 27 年度）福山市立川口小学校 6 年生児童は、市制施行 100 周年を盛り上げようとする人や、福山には良い所があると思う人を増やすために、総合的な学習の時間で「福山市制 100 周年応援プロジェクト」と題し、市制施行 100 周年を応援する取組を福山市や地元企業と企画し、活動してきた。また、5 年生の総合的な学習の時間には、地元の方と連携を図り、特産の「くわい」について学習している。これらの取組において、児童は、福山への愛着や誇りを育み、自己肯定感を高めながら、積極的に学習に取り組み、成果を上げている。

2 ねらい

川口小学校では、キャリア教育の目標を「基礎学力をもとに、自ら学び、自ら考えて行動する力を育成すること」とし、主体的に生きていく力を育てる取組を行っている。

また、中学校区では、目指す子ども像を「知・徳・体の調和がとれ、郷土と自校を愛する子を育成すること」とし、小中 9 年間を見通した教育活動を展開している。

総合的な学習の時間においては、「ふるさと」「こころ」のテーマで地域の人と触れ合い、生き方に学ぶ活動を仕組むことで、自分のことや他人に関心をもち、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てたり、自分の目標に向かい、努力する意欲や態度を育てたりするなど、キャリア教育の視点を踏まえ、ねらいの達成に向けた実践を重ねている。

3 具体的な取組

(1) 校内で福山の良さを広げるウォークラリーの実施

「福山と言えば何？」というアンケートを6年生保護者、4・5年生児童、地域の人など100人に取り、分析したところ、福山城や市花のバラ、特産のくわいなどが多くの人から挙げられた一方、それ以外に知られていることは、少なかった。

この結果をもとに、福山市都市ブランド戦略のキャッチコピーにちなんで、「何もないとは言わせない福山プロジェクト」と題し、福山の良さを調べ、クイズと解説を作成した。それを使い、クイズをしながら学校をまわる校内ウォークラリーを実施し、校内の児童の福山に対する興味を高め、福山の良さをより深く知る活動を行った。

「自分たちが福山について知らないことが多い」という課題に対して、「校内ウォークラリーを実施する」という解決方法を自ら見つけだし、福山への理解、愛着を深める取組となった。

(2) 福山市役所ふくやま魅力発信課との連携

児童が「何もないとは言わせない」というキャッチコピーのもと福山の魅力を高める取組をしているのがふくやま魅力発信課だということを調べ、同課の職員をゲストティーチャーとして招き、福山を「何もないとは言わせない」ための取組について聞き取りを行った。そこで、「福山の魅力を知って自分たちで多くの人に伝えてほしい。」「市制施行100周年を盛り上げるのを手伝ってほしい。」と協力の要請をされたことで、児童が一人の市民としてできることを考えるきっかけになった。

(3) 福山市制施行100周年記念パンづくり

市制施行100周年を記念するパンを作り、販売することを通して、市制施行100周年のPRをするとともに、「子どもががんばっているなら一緒に盛り上げよう！」と協力してくれる人を増やそうと考えた。また、パンの中に福山らしさを盛り込むことで、福山の良さをPRすることができるのではないかと考えた。

活動には、地元の企業に協力してもらいたいと考え、児童の身近なパン屋さんである川口町の「藤井製パン」に協力していただき、3つのチームで100周年記念パンを作り、今後商品としてイベント等で販売していくことにした。

取組にあたり、「P（パン）－1グランプリ」と題して、3つのチームの保護者の方に向けて、自分たちが考えた市制施行100周年を盛り上げるためのパンについてプレゼンをし、実際に作ったパンを食べてもらい、保護者の方に評価してもらうことを通して、販売に向けてさらに工夫すべき点を考える会を催した。

これらの活動を通して、働くことの大切さに気付くとともに、相手の立場に立って自分がどう行動したらよいか、考える力を育成することができた。

○ 各チームのパンについて（児童がプレゼンした内容）

A バラドーナツ（バラの形をしたドーナツ）・・・子どもをターゲットとしたパン。

バラの形にねじり、イチゴチョコをトッピングしている。

B 福山ワゴン（ピザパン）・・・大人をターゲットとしたパン。

福山市が撮影の舞台となった民放ドラマにちなみ、車の形に似せている。

C 福山たっぷりパン（あんパン）・・・お年寄りをターゲットにしたパン。

形を福山市章のこうもりに似せ、郷土料理うずみをイメージして様々な食材を中に隠して作り、柔らかく食べやすいように工夫した。

(※) A・B・Cのパンを通じての特徴として、ふくやまブランド農産物の「ふくやまSUN」の野菜・果物を出来る限り活用した。

(4) 福山市制施行100周年PRフラッシュモブ

注目を集め、話題性のあるイベントとしてフラッシュモブを行いたいと児童が提案し、イベントでフラッシュモブを行い、100周年をPRしようと企画した。

ゲストティーチャーとして、ダンスのインストラクターである木村真弓さんを招いて、福山で行われたフラッシュモブの動画を見て分析し、フラッシュモブをどのように作っていけばよいのかを考えた。また、実際に音楽に合わせてダンスをし、短いフラッシュモブを体験した。

EXILEの「ki mi ni mu chu」という曲に合わせて、福山らしさが表現できるようなダンスを考案した。ダンスの中には、「くわい」「芦田川」「バラ」「備後餅」...などをイメージした動きを取り入れている。サビの部分は、簡単な動きにし、見ている人に一緒に踊ってもらえるようにしている。

この活動を通して、自分のことや他者に関心を持ち、自ら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。

4 成果

川口小学校の取組は、本市の「福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる」教育を推進する取組であり、キャリア教育の視点でも、児童の自ら考えて行動する力を育成するものである。

児童へのアンケート調査に見られる変容（実施時2015年6月→2016年2月）は、次のとおりである。

- 学習への意欲
 - ・ 学習を最後までやり遂げてうれしかったことがある。82%→91%
 - ・ 将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強している。80%→90%
 - ・ わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。75%→90%
- 課題設定力
 - ・ 解決しようとする課題についてやってみたいと思っている。77%→89%
- 情報収集力
 - ・ 課題を解決するために資料を集めたり取材をしたりしている。53%→76%
- 表現力
 - ・ 友だちと話し合うなど自分の考えを深めたり広げたりしている。72%→87%
- 生活活用力
 - ・ 考えたり提案したりしたことについて実際に取り組んでいる。63%→81%

今後も、小中9年間を見通した教育活動の展開の中で、キャリア教育の充実を図るとともに、福山市や地元企業等と連携し、地元への理解・愛着・誇りを育む教育活動の推進に向けた取組を継続していく。

<広島県>（種別：学校）安芸太田町立筒賀中学校

推薦理由

本町では、『安芸太田町教育 21・もみじプラン』に基づき、学校教育、家庭教育、社会教育の充実と融合を図り、『地球・世界的規模の視野を持ち、世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす』教育の実現と次代を担う人材育成に取り組んでいる。

筒賀中学校は、本町のまちづくり及び教育基本方針を踏まえ、『学びを生き方につなぐ教育』に取り組み、地域・社会に貢献できる自立した生徒の育成を図っている。生徒数 10 名の県内でも有数の小規模校であるが、地域連携・学校間連携・異年齢交流を活発に行い、地域からの評価も高い。特に、町の社会福祉協議会等の関係機関と連携・協力して、保小中高連携による幼児期から青年中期までの系統性のあるキャリア教育に取り組んでいる。

筒賀中学校では、全教育活動の指針を『すばらしい生き方との出会い』と『自分の可能性との出会い』として、多様な人の生き方や考えに触れ、学び深め合うことで、自らの可能性（のびしろ）を伸ばす生徒の育成を目指している。2つの出会いと『学びを生き方につなぐ教育』の実現を重点としてキャリア教育を推進している。

1 『すばらしい生き方との出会い』

（育てたい資質・能力：「共感・感動・感謝」「人間関係形成・社会形成能力」）

多様な生き方や考えに触れる取組として、地域・学校間連携による体験活動や異校種・異年齢交流、福祉施設訪問活動、先輩やプロとの対談、家族や地域住民など身近な人と仕事や地域への思いを語る会など地域に開かれた教育活動を実施している。その取組を通して、将来生きていきたい進路や自分の生き方像を確かめさせている。

2 『自分の可能性との出会い』

（育てたい資質・能力：「挑戦・向上」「自己理解・自己管理能力」）

語り合いを充実させた学び合いを生む授業づくりや個別課題に応じた指導を行っている。

声を創る活動として、自分の考えや学んだことを「他者との話し合い」や「公式な場での発表」を繰り返すことで、「多様な考えや学び」に触れ、「より深い自分の考えや学び」を創出させている。また、想定した自分の将来の進路や生き方の実現のため、日常の学習や生活の在り方や具体的な取組を自分で考え、実行させている。

3 『学びを生き方につなぐ教育』

(育てたい資質・能力：「地域・社会貢献」「課題対応能力・キャリアプランニング能力」)

地域行事等の運営にかかわる活動(ボランティアスタッフ)、過疎・人口減等の課題解決案の企画や情報発信などを実施している。地域課題を自分の将来の生き方と関連づけ、地域や社会に貢献する人材になりたいという意欲をもたせている。

筒賀中学校の「他者や地域・社会とのかかわりの中で、将来の自分の生き方(役割・価値観・人間性等)を構成していく活動」を中心とした教育は、自分の将来像をより明確にし、学ぶ意欲や地域・社会に貢献する実践態度の向上につながる取組であり、生徒一人一人のキャリア発達を促すために保育所から高等学校までの学びの連続性を図ろうとする、社会に開かれた教育課程の先進的なモデルといえる。

<広島県> (種別：学校) 広島県立三次高等学校

推薦理由

平成25年度から2年間、文部科学省の「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究」、平成27年度は、文部科学省の「キャリア教育に係る中核的な時間の在り方に関する研究」の指定を受け、3年間の研究で開発した教育プログラムをさらに改善し、指定を終えた今年度もキャリア教育の実践を継続している。研究では、高校卒業後の社会人・職業人としての生き方・在り方として、「大学の向こうにある社会」を認識し、将来の生き方・在り方を意識して計画的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成するために、キャリア教育に係る学校設定科目「巴峡Ⅰ」「巴峡Ⅱ」「巴峡Ⅲ」を各学年で1単位ずつ新設し、国際交流教育の充実及び関係機関との連携組織の構築等により、地域の経済、医療、法律、教育分野等で、グローバルな視点・知見を持った上で地域への貢献を志す生徒の学びを充実させる教育プログラムの開発を行った。

具体的には、次の3つのテーマで教育プログラム開発の研究を進めた。

1 キャリアプランニング能力の育成に係る教育プログラムの開発

- ア 近未来体験活動・ライフプラン作成活動・課題研究
- イ プレゼンテーション及びディベートの実施
- ウ キャリアノートの開発と活用
- エ 親のせなか

2 国際性を育てるための教育プログラムの開発

- ア 海外修学旅行の実施
- イ グローバルスタディにおいて、国際交流活動の充実
- ウ 海外インターンシップの実施
- エ 第2外国語の実施

3 産業界・関係機関等との連携によるグローバル人材育成システムの構築

- ア 中高大連携講座の充実
- イ 近未来発見活動における地元商工会との連携
- ウ 社会人講話

以上の取組を、学校設定科目「巴峡」(1単位)を設定し、巴峡プロジェクト委員会を中心に学校とPTA、同窓会、地元地域が連携しながら調査研究を進めてきた。

これまでの実践内容を分析し、さらに今年度は、教育課程を変更し学校設定科目「巴峡」で研究開発した内容を、「総合的な学習の時間」を含む授業や「LHR」に取り込んで実施し、より多くの学校に普及させることを目指して取組を継続している。特に、近未来発見活動(1年)・ライフプラン作成活動(2年)・課題研究(3年)においては、3年間を通して系統的に取り組めるよう改善し、「地域課題発見・解決活動」として取り組んでいる。

<山口県> (種別：学校) 周南市立勝間小学校

推薦理由

勝間小学校では、キャリア教育の取組方針を「主体的に課題を追求するとともに、郷土に誇りをもち地域に貢献する子供たちを育成する」とし、学校運営協議会と連携し、地域の行事である「ふれあい祭り」において、仕入れた野菜を販売し、利益を確認するまでの過程における商業活動の体験を通じて、働くことの意義や得られる喜びを感じ取ることのできる取組を行っている。

「野菜マーケット in ふれあい祭り」への参画実践の取組は、5年生が総合的な学習の時間において、取り扱う

野菜の旬の時期や仕入れ価格に関する情報、必要経費の算出、適切な販売価格の設定など、地域の方にグロスターチャーとして指導を受けながら、児童が主体的かつ体験を通して進められている。この取組は、体験活動を通して、生き方や働くことの素晴らしさを実感させるというキャリア教育本来のねらいから、「金銭教育」「望ましい人間関係づくり」「コミュニケーション能力の育成」等につながり、学力向上にも好影響を与えている。

年間を通したスケジュールは以下のとおりである。

① 7月の授業

自分たちが売ってみたい野菜について案を出す。

② 10月の授業

野菜マーケットで店を運営するにあたり、総務部や営業部といった役割を分担して、計画や準備に取り組む。

③ ふれあい祭り直前

入荷した野菜の仕分けや袋詰め、メッセージカードの用意等を行う。

④ ふれあい祭り当日

学校の運動場が会場となり、子供たちが協力して販売活動を行い、完売に向けて一生懸命に活動する。本物のお金を使い、お客さんに気持ちよく買い物をしてもらう気遣いも考え接客する。

⑤ 全体での振り返り

売上金から仕入れにかかった費用やお釣りを差し引き、純利益を確定する。利益をどのように使うかを話し合い、次年度に向けての課題等を出し合う。

児童が地域の方々と一緒になって、仕入れ、店舗づくり、販売精算等に取り組むことは、キャリア教育のねらいを十分達成できる優れた取組と言える。

よって、キャリア教育優良学校として推薦する。

<山口県> (種別：学校) 防府市立華西中学校

推薦理由

防府市立華西中学校では、生徒の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度として将来にわたって自ら学び続ける力「自己学習力」の育成が重要であると考え、アクティブ・ラーニングの導入と共に全ての教育活動の中で一人ひとりに視点を当てたキャリア教育に取り組んでいる。

1 学校教育目標 「一人ひとりが輝く」

2 キャリア教育全体目標「今を前向きに生き抜き、輝く未来の自分・地域・社会 をつくろうとする生徒の育成」

3 具体的な取組(特徴的なもの2点)

(1) キャリア教育アンケートの実施および全体計画の見直し

キャリア教育の視点から本校の教育活動を見直し、本校の強みや課題をより意識した実践を行っていくために、全生徒を対象に「夢・進路の実現」に関するアンケートを実施した。その結果として課題があると考えられる力の育成に重点をおいたキャリア教育推進を目指し、それまでの全体計画の見直しを行った。

全体計画の見直しにあたっては、全教職員がキャリア教育の目標や重点項目の指導について共通理解を深めるために、従来に比べて簡素な形式のものへと改善した。また「基礎的・汎用的能力」についても、教職員だけでなく生徒や保護者、地域の方々にもイメージしやすい名称を本校独自に設定し、学校・家庭・地域の緊密な連携による生徒のキャリア発達の支援体制の強化を目指した。

(2) 「ドリームフラワー」の実践

将来に対して希望や明確な目標をもって学ぼうとする生徒が少ないという現状を変えることをねらい、生徒一人ひとりに夢や将来の目標をもつことを促すとともに、夢や目標の実現のために身につけることが必要な能力やスキルを意識させる取組として「ドリームフラワー」の制作を定期的実施している。生徒のキャリア発達を見取るためのポートフォリオとして、また保護者懇談会での活用により保護者と協力して生徒のキャリア発達を促すための資料としても有意義である。

4 その他の取組

3年間を見とおした継続的なキャリア教育の推進のために、地元企業から指導者を招聘しての職業講話や職場体験、商業科高校生による接遇出前授業、地域ボランティアによる地元の産業・文化・歴史授業等、全学年

で年間を通じて継続的に取り組んでいる。

<山口県> (種別：学校) 山口県立美祢青嶺高等学校

推薦理由

本校は、美祢市内で唯一の県立高校、県内唯一の普通科と工業科が併設された単位制高校として、その特徴を活かし、積極的・効果的なキャリア教育を展開している。

また、本年度から県内の高校で初となるコミュニティ・スクールの指定を受け、地域と連携した教育活動についてキャリア教育と密接に関連付けながら工夫と充実を図っている。

1 科目等設定の工夫

- ◇ 総合的な学習の時間における「SSP (青嶺総合プラン)」の実施
自己の夢の実現をめざす生き方の探究を目的とし、問題解決のために主体的に行動する力を高める。
- ◇ 普通科における工業の学習や実習の実施
 - ・ 「工業科に学ぶ」という学習の中で、工業の実習を体験
(普通科1, 2年次全員：年1回)
 - ・ 工業の選択科目を一部に設定
(電気基礎、課題研究、情報技術基礎、自動車工学)

2 普通科及び工業科におけるインターンシップ等の実施

- ◇ 地域活性型インターンシップ (普通科)
 - ・ 普通科生徒用のインターンシップとして実施
 - ・ 秋吉台科学博物館の業務と学芸員の職務の職場を体験し、秋吉台に係る共同研究を実施
 - ・ 「Mine秋吉台ジオパーク」認定にも貢献
- ◇ 体験型インターンシップ (工業科)
 - ・ 工業科全生徒と普通科希望生徒が参加
 - ・ 地元や県内の企業に依頼して実施
- ◇ 大学見学、工場見学
 - ・ 県内外の大学や企業の見学会の実施

3 地元自治体や企業と連携した体験活動やボランティア活動の取組

各種ボランティア活動や行事への積極的な参加を通じて、生徒に社会の中での自分の役割、自分らしい生き方について考させる機会とする。

- ・ 地元企業と連携したソーラーボートの製作と大会出場
- ・ 和太鼓「青嶺太鼓」の地元イベントへの参加
- ・ 秋吉台の山焼きに伴う火道切り
- ・ 工業科の「ものづくり」を活かした小学生対象の科学教室や地元イベントへの出展
- ・ 地元福祉施設の運動会や夏祭りボランティア
- ・ 地元小学校「サマースクール」学習支援
- ・ 歳末高齢者宅清掃ボランティア 他

4 中高が連携したキャリア教育の実施

- ・ 美祢市内の中学2年生全員を高校に招き、高校の説明や授業及び工業科の実習見学などを実施 (高校生による説明や紹介)

5 コミュニティ・スクールの取組

- ・ 平成28年度から、県内高校で初となる指定
- ・ 地域とともにある高校づくりに向け、キャリア教育の視点を重視しながら、地域の教育力を活用した教育活動、地域貢献活動を推進

<徳島県> (種別：学校) 鳴門市撫養小学校

推薦理由

平成27年度

文部科学省「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」における取組の中で、本県で推進した「キャリア教育

パイロット校事業」の研究指定校

平成28年度

文部科学省「小・中学校等における起業体験推進事業」における研究指定校

身近な人々とコミュニケーションを図り、学び合う中で自己肯定感を持ち夢や希望の実現に向かって意欲を持って努力し続ける児童の育成を目標に掲げ、6年間を見通したキャリア教育全体計画のもと、キャリア教育推進委員会を組織的・系統的なキャリア教育を実践している。

具体的な取組

1 全校で取り組む「3L活動」

みんなを笑顔でつなげる取組である3L活動『Love(豊かな心), Lead(自主性), Learn(確かな学力)』では、毎朝行う挨拶運動や清掃活動で規範意識を高めるとともに、行事や集会などで児童の自主的・自発的な発想や行動を重視した活動を行っている。

2 第6学年「大好き撫養ドリームプラン」

6年生のキャリア教育の中心的な取組として、校区内にある大道商店街や鳴門市役所、鳴門商工会議所と連携し、商店街の調査等から学んだことを通して児童が独自の商品を企画・開発し、大道商店街「百円商店街」で出店・販売体験を実施した。

3 第6学年「職場見学・体験活動」

地域の多様な職業モデル・人生モデルとの出会いや体験活動を通して将来の自己の生き方について考えられるように、鳴門わかめの茎取り体験、介護・福祉施設での職場見学・交流体験、工業技術センターでのLED製品の製作体験などに取り組んだ。

4 発達段階に応じたキャリア教育

(1) 第1学年 幼稚園との交流

人と繋がる喜びや大切さに気付き、主体的に関わる

(2) 第2学年「おみせたんけん」

地域のよさや地場産業を知り、郷土愛を持つ

(3) 第3学年「まちのすてきさがし」

働く喜びや苦勞・工夫、感謝の大切さを体得する

(4) 第4学年「あったかほっとプロジェクト」

自他の個性・適性に気付き、自信を持ち生活改善に取り組む

(5) 第5学年「究極の6年生をめざして」

幼小連携や地域学習に取り組み、自分なりの夢や目標を持つ

成果

取組の成果としては、地域を理解することで地域を大切に思う気持ちや態度を醸成することができたとともに、場に合ったあいさつやコミュニケーション力の向上につなげることができた。また商店街で働く方々との交流により、将来、地域の発展に貢献したいという気持ちを高めることができたとともに、商店街での出店・販売体験を通して、何事にもチャレンジすることの大切さを学ぶことができた。

平成28年度においては、これまでの課題である児童の思考力・表現力・判断力等の向上を目指す指導方法の研究に向けて、教職員のスキルアップ研修など、学校全体で取組を推進する体制の充実を挙げている。

また、校区内の中学校や高校と連携し、地域の活性化に向けて起業体験活動を行う予定であり、今後の発展が期待できる当該校をキャリア教育優良表彰校として推薦する。

<徳島県> (種別：学校) 美馬市立江原中学校

推薦理由

平成27年度

文部科学省「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」における取組の中で、本県で推進した「キャリア教育パイロット校事業」の研究指定校

相手の気持ちや状況に配慮し互いに認め合う中で、積極的に人間関係を築こうとする態度を養うとともに、自

らのよさや個性を知り、互いに高め合う中で、多様な生き方にふれ、働くことの意義を理解し、自己の生き方を考えさせることを研究テーマとし、全教育活動における3年間を見通したキャリア教育を推進した。

具体的な取組

1 【人間関係形成・社会形成能力】の育成

積極的に人間関係を構築し、コミュニケーション力を身に付けさせるために、各教科においてアクティブ・ラーニングを実践するとともに、教職員研修や職業人・社会人による「講演・出前授業」の充実を図った。

2 【自己理解・自己管理能力】の育成

よさや個性を伸ばし、自己を律する努力の大切さを学ばせるために、研究授業の実施や生徒のよさを生かす指導方法の工夫改善に取り組んだ。

生徒のアンケート等をポートフォリオとして綴り、生徒自身が自己の成長や変容を気付くことができるよう取り組んだ。

3 【課題対応能力】の育成

主体的に課題解決を図り、成功や失敗から学び自己決定できる力を育成するために、キャリア・カウンセリングの実施や自己の目標達成度が可視化できる振り返りシートを作成した。

4 【キャリアプランニング能力】の育成

働くことの意義を理解し、自己の生き方を考える取組として、職業人インタビューや職場体験学習を実施するとともに、3年生から1、2年生に対する進路メッセージの発信を行い、異学年交流を実施した。

成果

取組の成果としては、学年の枠を越えた取組や行事等を通して、生徒は人間関係の幅を広げるとともに、多様な体験学習の成功体験から自分自身の成長を実感することができた。

また、地域と関わる中で、多様な仕事や生き方について理解を深め、将来の夢や生き方について考えることもできた。

さらに教職員研修を充実し、キャリア教育の視点に立った授業づくりの推進やキャリア・カウンセリング力の向上を図った。

平成28年度においては、校区内の小学校と連携し、児童生徒・教職員間の交流を推進するとともに、ポートフォリオとしての「私の成長ノート」の作成などを行う予定である。当該校では、校内にキャリア教育推進委員会を組織し、取組の検証・改善を図っている。教科等におけるキャリア教育も推進しており、今後の発展性も期待できる当該校をキャリア教育優良表彰校として推薦する。

<香川県> (種別：学校) 香川県立石田高等学校

推薦理由

当該校は、「誠実・明朗・英知」の校訓のもと、「全人教育を重視し、人格の向上を図る」、「将来の郷土を担う人材を育成する」ことを教育方針に掲げ、農業科、家庭科を擁する専門高校として地域に根差した学校づくりを推進している。

1 就職内定率6年連続100%達成

卒業生の半数以上の生徒が就職を希望し、その約9割が県内企業に就職している。平成22年度から6年連続で就職内定率100%を実現し、地域の産業を支える専門技術者や地域に貢献する人材の育成に努めている。

〈過去6年間合計〉卒業生数：703名、就職者数：386名、平均就職率：54.9%

2 インターンシップ・デュアルシステムによる職業理解

県内企業21社に対し農業科の生徒がインターンシップ等を通じた体験学習を実施している。また、京都にある造園会社4社にもデュアルシステムによる企業体験をすることで、職業理解を深める機会となり就職にもつながっている。家庭科でも保育所・幼稚園での保育実習や介護老人福祉施設での介護実習を行い体験的な学習を進めている。

3 社会人講師招聘による専門科目の興味・関心の高揚

農業科では、バイオテクノロジー、土木工事、フラワーアレンジメント、小麦の栽培法等に関する専門家を招聘し、授業や実習を通して専門科目の興味・関心を高めている。家庭科では、介護や調理のプロを招聘し、介護実習、調理実習を行いより専門性の高い授業を行っている。

4 高大連携・地元養鶏農家の理解

平成28年度県教育委員会の指定（「かがわの高校アクションプラン」県立高校11校）を受け、地元大学が開発した捕獲装置を用いて、鶏の外部寄生虫ワクモの発生を抑える研究を通し、大学による出前授業、県内外の養鶏農家や大学研究室の視察をするなど、大学との連携を図り養鶏農家の実態をより深く学習し、将来、農業自営者として地域の活性化を目指している。

5 各種資格・検定取得の推進

日本農業技術検定や全国高等学校家庭科被服製作技術検定、測量士補などの、各種資格・検定を積極的に取得させるため、課外等個別指導を充実させ、合格率の向上と専門知識や技能の向上を図っている。

6 新規学卒者のための支援

平成26年度から、新規学卒者（卒業して1年以内）について、在校当時の担任教員や就職指導の担当者等が就職先を訪問し、状況把握を行うとともに悩みの相談を受けるなど、職場定着に向けたサポートを行い、早期離職防止を図っている。

<香川県>（種別：学校）香川県立坂出工業高等学校

推薦理由

当該校は、ものづくりや資格取得を通して、基礎的・基本的な知識や技術を習得させ、また、インターンシップなどを通して望ましい職業観・勤労観を身に付けさせ、地域の産業を担うスペシャリストの育成を行うとともに、地域との交流や貢献活動を行い、信頼される工業高校を目指している。

1 就職内定率6年連続100%達成

卒業生の約3分の2の生徒が就職を希望し、その約9割が県内企業に就職している。平成22年度から6年連続で就職内定率100%を実現し、離職者も少ないと地元企業から期待され、求人数が増加している。

2 インターンシップ・工場見学の実施

生徒全員に対し、2年生または3年生のいずれかでインターンシップを実施しており、職業観・勤労観の育成に努めている。また、各科がそれぞれ地元企業の工場見学を行い、地域社会の形成者としての資質を養い、県内の企業等が求める職業人としての育成に努めるとともに、地域に貢献する人材の育成に努めている。

3 社会人講師の招聘

優れた知識・技術・経験を持つ社会人等を講師に招き、講義を受けることにより、卒業後、企業等で即戦力となる技術や技能を身に付けさせるとともに、勤労観・職業観を育てている。また、技能検定の受検希望者に対しては、企業の方などから技術指導を受けている。

4 地域交流・地域貢献

夏季休業中に親子ものづくり教室や中学生の体験入学を実施するほか、地元のイベントに参加し、ものづくりの楽しさを体験してもらっている。また、近隣住民との合同防災訓練、市内清掃美化活動、保育所との交流など、地域交流・地域貢献の取組を行っている。

5 資格取得へのチャレンジ

坂出市から資格取得費用の支援などもあり、多くの生徒が各種資格取得にチャレンジし、合格者を多数出している。化学工学科では、難関と言われている公害防止管理者試験にも毎年数名が合格しており、新聞に取り上げられたこともある。

6 各種コンテストへの参加

マイコンカーラリー、ロボットアメリカンフットボール、ゼロハンカー、ものづくりコンテストなど各種大会に参加し、全国大会出場などの成果を上げている。また、香川県が力を入れている希少糖に関する研究を発表する「希少糖甲子園」にも参加し準優勝に輝いた。

7 新規学卒者のための支援

平成26年度から、新規学卒者（卒業して1年以内）について、在校当時の担任教員や就職指導の担当者等が就職先を訪問し、状況把握を行うとともに悩みの相談を受けるなど、職場定着に向けたサポートを行い、早期離職防止を図っている。

＜愛媛県＞（種別：学校）松山市立東雲小学校

推薦理由

東雲小学校は、平成23年度から小中連携推進事業の研究指定を受け、低・中・高学年の発達段階に応じて身に付けさせたい能力や態度を明確にし、キャリア教育を中心とした系統的な学習を推進している。特に、総合的な学習の時間を中心に、しのめタイムと名付けられた学習で「夢や希望を持ち、自分らしさを大切にしていながら合う子ども」の育成に努めている。地域・家庭・学校の連携を図り、子どもたちの豊かな体験を大切にしたい取組を行っている。

○ 総合的な学習の時間の取組

第4学年では、「松山市のよさを伝えよう」というテーマの基、松山城のガイドボランティア活動を平成15年度から継続して行っている。地域のボランティアガイドからガイド方法を学び、実際に観光客にガイド活動を行っている。活動の様子は松山市のホームページにも紹介されている。

第5学年では、「こちら東雲放送局」という活動を行っている。これは、自分たちの発信したいテーマごとに約3分程度の番組を制作し、学年全番組を視聴した後、一人一人が更に深めたいテーマに沿って研究する活動である。番組制作に当たり、NHK松山放送局の協力を得て、職場体験や職場見学を行い、具体的なアドバイスを受ける等している。

第6学年では、「夢きらきらプロジェクト」という活動を行っている。自分の将来像を具体的に考えていく活動である。そのために、多様な職業分野で働く10名以上の講師から話を聞いたり、校区の中学生との交流会を行ったりしながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる態度や能力を育成している。

＜愛媛県＞（種別：学校）愛媛県立松山商業高等学校

推薦理由

愛媛県立松山商業高等学校は、長期にわたり、学科の特性や生徒の発達段階に応じたキャリア教育を実践している。商業科の愛媛県幹事校として、地域に根ざしたキャリア教育に係る体験活動を実施し、生徒の職業人としての資質・能力を育み、地方創生を担う人材の育成に努めている。

○ 地域との連携

販売等の現場実習を地元の商店街で行い観光地の経済を学ぶほか、地元の企業や商店と提携し、地元商店街のイベントに参加・協力するなど、地域と連携してキャリア教育に取り組み、コミュニケーション能力や望ましい勤労観・職業観の育成を図っている。

○ 職場見学、企業説明会の実施

商業科、流通経済科、情報ビジネス科では、2年次に全員が職場見学を実施しており、将来の職業について体験する機会を設けることで雇用のミスマッチの解消に努めるなど、生徒のキャリア形成の支援を行っている。

○ 充実したインターンシップの実施

流通経済科では、2年生全員が、年間6日間のインターンシップを実施するなど、望ましい勤労観・職業観の育成を図るための取組を行っている。

○ ビジネスマナー講座の実施

2・3年生を対象として、社会人としての心構えや、営業の心構え等に関する講座を実施し、販売活動の知識などを身に付けさせるとともに、望ましい職業観・勤労観の育成に努めている。

○ キャリア教育に係る情報発信

キャリア教育に係る取組を、随時ホームページに掲載するなど、情報発信に努めている。

【ホームページ】<http://matsuyama-ch.esnet.ed.jp/cms/>

＜愛媛県＞（種別：学校）愛媛県立宇和特別支援学校（知的障がい部門）

推薦理由

○ 関係機関と連携した組織的・系統的なキャリア教育の推進

管理職、各部主事、教務課、研修課、進路課による「キャリア教育推進委員会」を設置し、キャリア教育全体計画や指導計画の見直し、研修計画や授業改善、家庭及び地域・関係機関との連携の方策について検討・企画を行い、各部や関係各課の連携のもとキャリア教育に全校で組織的に取り組む体制をつくっている。

また、労働・福祉等関係機関、企業、福祉サービス事業所、保護者、教職員で構成する「キャリア教育推進連絡協議会」を年2回開催し、取組内容の検討や評価を行うとともに、連絡協議会委員以外の関係者が多数参加し、授業参観やキャリア教育、現場実習の取組について協議を行う「就労についての学習会」を実施するなど関係機関との連携を深めながらキャリア教育の充実を図っている。

○ 外部人材(キャリアガイド)を活用した「キャリアガイド教室」の実施

企業関係者や地域の商店、農業関係者等を活用し、様々な活動を通じて、身近な社会や働く人に目を向けたり、自分の役割を果たす喜びを感じたり、将来をイメージしたりする「キャリアガイド教室」を、小・中・高それぞれの発達の段階に応じた内容を計画し実施している。

小学部では、地域のパン職人の実演と体験活動、中学部では、現場実習の事前学習、高等部では窯元や縫製会社、清掃会社の専門家による実技指導など、地域や学校の特色を生かした取組を行っている。

○ 企業と連携した「キャリアトレーニング」の実施

「キャリアトレーニング」の時間を設定し、企業関係者の協力のもと、雇用情勢や産業現場のニーズに応じた作業種や指導内容の見直しに取り組むとともに、愛媛県が実施する「愛顔のえひめ特別支援学校技能検定」に向けて、各部門の企業関係者を実技指導アドバイザーとして招聘し、指導の充実を図っている。技能検定には毎回多くの生徒が挑戦し、目的意識や意欲の向上につなげている。また、検定の内容や取組を生かし、小学部の段階から、日常生活における清掃や挨拶など発達の段階に応じて将来の自立と社会参加を見据えた指導の充実を図っている。

<高知県> (種別：学校) 高知県立高知海洋高等学校

推薦理由

1 学校概要

高知海洋高等学校は、平成8年に開設された県内唯一の水産・海洋系専門高校であり、「知識・技術習得の教育実践を通して、豊かな人間性を育て、生徒自らが社会に貢献したいと思うような人材の育成をめざすこと」を教育基本方針としている。

2年次より「航海」「機関」「食品」の3つのコースに分かれ、実習船土佐海援丸をはじめ、航海や機関に関する豊富な施設等を活用し、海を多面的にとらえた活動に多く取り組むほか、全国有数の最新施設を活かして、「安全」「災害備蓄」などをキーワードとした食品開発も行っている。

近年は、生徒の現状を踏まえた「学ぶ意欲を引き出す教育活動」や「できることが実感できる教育環境づくり」にも意識的に取り組んでいる。

2 ①の観点から

(1) 学校経営構想図(船中八策)に基づいた組織的・系統的な取組

平成24年度から、キャリア教育の視点で教育活動全体を見直し、生徒の現状(強み・弱み)を把握したうえで、身に付けさせたい力を整理し、「学校経営構想図」にまとめている。さらに、目標を達成するための具体的手立てとして、「基礎学力の定着」や「時間・規則の厳守」「あいさつの励行」などの8つを柱とする実行プラン「船中八策」を作成し、生徒・教職員が目指すべき方向性や意識して取り組むべき内容について共通認識をもち、各取組を進めている。

(2) 遠洋実習・インターンシップ等の取組

○ 遠洋航海実習

2年次の航海コースと機関コースの生徒は、実習船でそれぞれ約2ヵ月間「まぐろ延縄実習」に取り組んでいる。この実習は、漁業や海洋調査等の技術はもちろん、船内での集団行動や協働意識、基本的な生活態度等、社会人として求められる資質・能力を身に付けるうえでも有効な取組となっている。

○ 地元企業でのインターンシップ

2年次の食品コースの生徒は、それぞれ2学期3日間と3学期4日間、地元の同じ企業で現場実習に取り組んでいる。同じ生徒が同じ企業で実習を2度実施することで、生徒は、1度目の反省点や課題を改善して2度目の実習に挑むことができるうえに、企業の方々に成長を評価していただくことで、大きな自信につながっている。また、実習後の自己評価を通じて、どのようなことを学び、身に付けることができたのかに気付かせるとともに、将来の自分の働く姿をイメージさせている。

○ 外部専門家による技術指導の充実

県の担い手人材育成事業、特別非常勤講師招へい事業等の各事業を活用して、企業のプロフェッショナルを招いた専門的な技術指導等にも積極的に取り組んでいる。専門技術の習得にとどまらず、講師の生き方や仕事への熱い思いなどに触れて感じたことなどを、自己の将来と関連付けて振り返らせるなどの工夫も行われ、生徒が自己の生き方を考える重要なきっかけとなっている。

3 ④の観点から

(1) 教員のきめ細かい生徒支援

教員間や生徒と教員との「対話」を重視した学校づくりを意識的に行うことで、教員によるきめ細かい指導・支援を行うことができている。平成 22 年度よりホームルーム担任を 2 人体制とし、年間 3 回の面談週間を設けるなど、進路相談や生活指導などの個別支援を充実させている。また、平成 26 年度からは、スクールカウンセラーも 1 年生全員と面談を実施することで、生徒に安心感を与え、相談しやすい学校の雰囲気醸成している。

(2) 学習習慣の定着・基礎学力の向上の取組

学習習慣の定着・基礎学力の向上の取組として、学校作成の「放課ホームノート」を活用し、夕方のホームルームの時間に義務教育内容（5 教科）の学び直しをスモールステップで行っている。また、教科指導においても、学習支援員を活用した放課後の補習だけでなく、1 年生の授業に学習支援員が T T で関わり、授業を受ける姿勢や学習習慣の確立などの初期指導を徹底している。これら、生徒に寄り添った学習指導によって、中途退学防止にも大きな成果をあげている。

(3) 専門教科における、生徒の学びを自己評価させる仕組み

専門科目「水産海洋基礎」の実習では、実習ごとに到達目標や準備物、実施内容等を記載した学校作成の「実習ノート」を使用している。以前は実習後に感想のみを記入させていたが、新たに、自分の技能レベルを振り返る自己評価や振り返りシートを追加する改善を行った。このことにより、教員は、生徒一人一人が学習内容を確実に身に付けているかどうか、適切に判断できるようになった。また、生徒は、自己評価を通して、できた喜びを実感できるようになり、学習意欲や自己効力感の向上にも繋がっている。

<福岡県> (種別：学校) 福岡県立若松商業高等学校

推薦理由

【若松商業高等学校の取組】

専門高校の特色と地域の教育力を活かしながら生徒一人一人の社会的・職業的自立を目標としたキャリア教育を実践している。社会の変化に柔軟に対応でき、職業や勤労の考え方を身に付けた実践的な職業人の育成を目指し、地元企業や商店街等と緊密に連携した体験活動を積極的に取り入れ実施しており、その活動は地域の活性化にも貢献している。このようなキャリア教育の実践は自己の在り方を考え進路選択の土台を作り、勤労観・職業観を育成しながら、自己の適性に合った進路実現を目指す取組となっている。

【キャリア教育充実に向けての具体的取組】

1 商標登録

生徒会を中心に地域に根差した商品開発を目的として「若商河童」の名称で商標登録。

2 商品開発体験

「若商河童弁当」平成 20 年度 株式会社東筑軒協力

「若商河童ミニ弁当」平成 21 年度 株式会社東筑軒協力

「若商河童せんべい」平成 22 年度 株式会社もち吉協力

平成 22 年度より「若商河童せんべい」を中心に毎年 1000 個以上の売上を目標に活動。

3 模擬店舗の出店体験や模擬会社の設立

「若商河童ブランド」を活かし地元商店街での模擬店舗経営や文化祭での全校生徒を社員とした模擬会社を運営し、地元のコミュニティ FM を利用した「若商河童ブランド」の PR や地域活動の情報発信を行うことで生徒に自立心や協調性、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、接遇やマナーなどの育成している。

4 ビジネスプランの作成

商業高校の特徴を活かし商売十訓に基づいたビジネスプランを考え、社会貢献を主とした企業体験を実施している。

＜福岡県＞（種別：PTA団体等）福岡県立東筑高等学校PTA

推薦理由

福岡県立東筑高等学校PTAは、学校、家庭、社会の積極的な協力により、学校教育の活性化に寄与することを目的に事業展開している。

その目的を達成するための事業として、文化祭や体育祭、入学式、卒業式、創立記念文化講演会など様々な学校行事への参加やそれら諸行事の支援、施設設備の援助等の活動などがある。また、PTAが主体的に企画し、学校や地域との連携を図りながら実施している取組があることが特徴的である。

その一つに「三学年保護者講演会」という取組がある。これは、福岡県立東筑高等学校のキャリア教育活動の一つとして位置づけられており、主催はPTAで生徒と保護者、家庭と学校とが連携して行う取組である。これは、生徒にとっては進路選択の幅を広げたり、将来への展望、目的達成のために必要な資質や能力について考える機会となり、保護者にとっては、進路に対する認識を深めたり、生徒とともに進路実現を図る家庭での取組について考えたりするための機会の一つとなっている。

本取組の大きな特徴は次の二点である。

① PTAが全面的に企画立案し実施する点である。

本取組は、他校にも見られるような、学校行事にPTAが協力し、それを支援するという形ではなく、PTAが主催し主導して行うことが大きな特徴である。本校PTA組織のうち三学年委員会が中心となって取り組み、実施に当たっては以下のような過程を経ている。

まず、三学年委員会内で企画内容の原案を作成する。その間、学校のPTA担当教員を通じ第三学年主任と相談しながら、内容を練り上げる。そして、原案がある程度固まった段階でキャリア教育部長（主幹教諭）に協力を依頼し、より魅力的な企画にしていく。講師選定に際しては、キャリア教育の意義を鑑み、多様な人材と出会う機会としたいというPTAの思いから、学校のキャリア教育部の豊富な人的ネットワークを活用し、外部機関や本校キャリア教育部に講師依頼している。

② 主役となるのは生徒（子ども）であり、保護者として生徒（子ども）をサポートするという理念のもとに行われている点である。

この理念は本校PTA活動の根底をなすものであり、年度当初に行われる「学年別保護者懇談会」においても、第三学年保護者に対してこの点を強く訴え、生徒にとって実り多い企画となるよう工夫して取り組むこととしている。

本取組の意義は、継続的にPTAの組織的活動として実施することにより、生徒と保護者だけでなく、学校と家庭が進路情報を共有することができていること、そして、キャリア教育をはじめ、本校教育活動へ保護者が参画することができていることである。

以上のことから、家庭、学校、地域が連携してキャリア教育活動を展開し、生徒一人一人の希望進路実現に大きな成果を上げている福岡県立東筑高等学校PTAを推薦する。

＜熊本県＞（種別：学校）氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校

推薦理由

平成19年に氷川中学校をコミュニティ・スクール（CS）に指定し、学校運営協議会を基盤にした、地域とともにある学校づくりを推進している。

氷川中学校ではCSの取組の一環として、町を舞台に、町の大人たちが直接生徒たちと向かい合いキャリアを育む教育に取り組んでいる。

1年生は、町内の農家に2日間通い農業体験に取り組んでいる。

2年生は、町の商工店に2日間通い販売体験や製造作業体験を行っている。以前は、農業・職場体験を通して、生徒の職業観を育てることに重点を置いていたが、現在はさらに、生徒の故郷を大切に思う心と自分にできることで地域に貢献しようという意識を育てることを主な目的としている。生徒は2日間の経験を通して、町の農・商工の現状を理解し、働く人の思いや苦労に気付いている。また、町の大人たちから、働く態度を褒められたり、指導を受けたりしながら物産や商品に込められた思いに気付いている。そして、農家・商工店の活性化のために自分たちに何ができるかを考え、その思いを具現化するために3年生ではバザー体験を実施している。

3年生は『チャレンジショップ』と称したバザーを2日間実施している。1・2年生時の経験を活かし、農家や商店から物産や商品を自ら仕入れて、社会科で学んだ経済の知識をもとに小売値を決めてグループごとに出店し販売している。また、美術科や総合的な学習の時間にポスターやチラシを作成し、生徒たちが事前に町内の方々にバザーのPRも行っている。バザー当日は、祭りの法被を着た生徒たちが威勢の良い掛け声でお客を自分たちの出店に導き、商品の説明をしている。農家や商店の厚意もあって安く仕入れた商品は安く販売できることもあり当日はたくさんの町の人たちがお客として来店し賑わっている。

この取組には氷川町商工観光協会からの協力もある。3か月程前から、出店場所や販売する商品開発、衛生管理、集客方法等について、教職員と生徒たちに指導をいただいている。また、バザー当日も生徒たちへの支援をいただいている。

1～3年生までのこの系統ある体験学習は、町の大人たちが生徒たちと本気で向かい合い、故郷を大切に思うところを育てるキャリア教育につながっている。

<熊本県> (種別：学校) 熊本県立翔陽高等学校

推薦理由

1 学校の特徴

創立111年目を迎える、熊本県初の総合学科高校で、普通・農業・工業・商業・家庭の5つの系列を有する。進学と就職の割合がほぼ同じで、特に県内就職率は約8割と高い。地元の大津町をはじめ、周辺地域には優良企業等が多数存在するという立地環境にある。

2 キャリア教育の取組

(1) 3年間を見据えた具体的な取組

① 1年次における班別プロジェクト

「産業社会と人間」において、自分の将来の生き方について考える学習を展開。夏季休業期間中に、1年生全員がグループ毎に行う職場訪問は、大津町を中心とした事業所に協力をいただいて実施。

② 2年次におけるインターンシップ

「総合的な学習の時間」等を活用して、2年生全員を対象とし、毎年5日間実施。大津町を中心とした約100カ所の事業所で実施。

③ 3年次におけるデュアルシステム

3年次の「総合的な学習の時間」を使い、企業で実務訓練を実施。今年度は、4つの系列の生徒30名が、大津町内の各事業所で、5月から12月の期間実施。

(2) 地域・産業界等との連携

① 教育懇話会の開催

本校では、学校評議員会に代わり教育懇話会を設置して、教育の振興発展を図っている。メンバーには、地域の代表者や学識経験者、保護者等に加え、地元の企業の代表者が参加。

② 地方創生実現のための保護者向け就職ガイダンス

昨年度初めて、熊本県県北広域本部や地元の菊池郡市の各企業と連携して、地方創生に取り組むべく保護者向けの就職ガイダンスを実施。保護者の協力を仰ぎ、人材の地方からの流出を防ぐとともに、早期離職の解消を図るのが目的。今年度は更に行政・産業界との連携を深めるとともに、他校との連携や地域の規模拡大等を図る。

③ 地域との連携

大津町主催の「地域創生プロジェクト」の一環として、特産物の「からいも(さつまいも)」を使った町興しチームに参加。町長からの依頼を受け、「からいもジャム」の製造・販売に取り組んでいる。

3 成果と課題

(1) 成果

進路目標100%を実現するとともに、公務員合格者20名という年度当初の目標を達成。生徒の進路に対する意識が向上し、また本校に対する地域からの評価は益々高まり、今年度の高校入試では、志願者が飛躍的に増加。

(2) 課題

総合学科を設置している高校が県内に4校あるが連携がまだ不十分という現状がある。キャリア教育の充

実・発展を図るために、本校が中心となって、今年度、初めて連絡協議会を実施する。

【ホームページ】 <http://www.higo.ed.jp/sh/shoyosh/>

<熊本県> (種別：学校) 熊本県立水俣高等学校

推薦理由

熊本県立水俣高等学校は、熊本県教育委員会における「県立高等学校再編整備等基本計画」の策定により、水俣高等学校と水俣工業高等学校の2校が再編・統合され、平成24年度に開校し、今年度で5年目を迎える学校である。

水俣高等学校の全日制には、普通科・商業科・機械科・電気建築システム科が設置されており、キャリア教育の視点に立ち、インターンシップや地域の未来を考える議論の場に生徒を参加させるなど、地域と連携した特色ある教育活動が展開されている。

インターンシップについては、地域の事業所や公共機関等の協力を得て、これまで専門学科を中心としたインターンシップを4日間実施していたが、本年度より地域の事業所の他、県外大学等（慶應義塾大学・東京大学等）とも連携し、普通科の生徒も参加する実践的なプログラム（大学の留学生等に対し英語でディスカッションしたり、水俣を案内するプログラム）を実施するなど、卒業までに全ての生徒にインターンシップを経験させ、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成が図られている。また、定時制の商業科においても、未就労生徒を対象にインターンシップを夏休み中に3日間実施し、望ましい勤労観・職業観の育成を図っている。

また、国（国立水俣病総合研究センター）や市（水俣市）の関係機関や市民で、水俣の未来を考える「フューチャーセッション」に水俣高等学校の生徒も参加し、10年先の水俣市で実現させたい未来を考え、それを実現するためには、今何をしなければいけないのか考え、自分の意見を述べたり、議論したりするなどさせている。さらに、市と連携し、「水俣市お仕事説明会」を学校で開催し、地域の事業所ごとのブースを生徒が巡回する形式で地域における事業所の魅力を聞くなど、地域産業の理解や働く意義や楽しさを知ることにも努めている。

このように、人や社会との関わりを多く持ち、自らの役割の価値や自分との関係を見出していく機会を設けるなど、地域への理解や愛着を深めるための教育活動を積極的に行っていることから、ここに推薦する。

<宮崎県> (種別：学校) 日向市立財光寺小学校

推薦理由

概要

財光寺小学校では、学校経営の根幹にキャリア教育を据えて、日向商工会議所（日向市キャリア教育支援センター）と連携して、外部人材（よのなか先生）を登用した「よのなか教室」を活用した取組などを展開している。

当校では、5つの力（つながる力、分かる力、創る力、やりぬく力、グローバル・グローバルと郷土愛）を身に付けさせていくことを目指し、それを達成するために様々な切り口から授業を進めている。

当校では、教職員だけではなく学校に勤務する全ての職員がキャリア教育の推進に携わっており、カリキュラムを学校の実態に即してマネジメントし直し、ストーリー性のある実践的な指導を日常的に展開している。

※ よのなか教室

産業界を中心とした地域の全ての大人（＝よのなか先生）が、キャリア教育の講師として子どもたちに「働く喜びや苦勞」などの講話を行う事業

1 学校のもつネットワークや人材を活用した実践

(1) 小高の連携

小学校高学年にとって年齢的に近い先輩である高校生との意見交換を通じて、「自分の将来」や「今やるべきこと」を深く考え、今後の学校生活の改善を図る。

(2) 学校技術員の活用

教職員だけではなく、学校内の全ての人材を活用してキャリア教育を進める。児童にとって身近な「働く人」の価値観に触れることで感謝の気持ちを持たせ、児童がこれからできることを考える機会とする。

2 外部人材のプロの技術を生かした実践

(1) 教科での活用

新聞記者や印刷会社デザイナーを講師として、プロの技術を教科指導に活用し、授業を活性化させる。

(2) 実感を大切にされた実践

清掃会社の取締役社長を講師として、プロの技術と児童のそうじの仕方を比較させ、児童の驚きや気づきを大切にしながら、学習を進めていく。

(3) 異文化との繋がり

青年海外協力隊員を講師として、総合的な学習の時間のなかでセネガルの小学校とビデオレター交換による国際理解を展開している。

3 教職員の主体性を生かした実践

(1) 教職員の社会観の醸成

夏季研修で地元企業の見学や経営者との意見交換、工房での芸術体験学習や意見交換を通して、教職員の社会観を広げている。

(2) 行事との関連強化

外部人材を活用し、「働く意味や喜び」「学生のうちにしておくこと」などを語ってもらい、児童の社会観・職業観を広げている。

(3) 外部人材の発掘

日向商工会議所主催の研修会に参加して、学習にマッチする講師を探し授業を作っている。

4 PDCA サイクルの改善の常態化

(1) 継続的評価

20項目に及ぶキャリア教育に関する評価を経年で続けており、その評価を基に学習を展開している。

(2) 新たな実践へのアプローチ

前例踏襲に陥らないよう、実施計画に基づいて、「よのなか先生」による新たな授業を展開している。

(3) 情報発信

PTA 新聞の特集記事や HP によるリアルタイムの情報発信を行い、保護者の理解を深めている。

<鹿児島県> (種別：教育委員会) 志布志市教育委員会

推薦理由

「高い志」と「慈愛の精神」, 「志」を高める教育の推進

1 本市のキャリア教育の推進について

西暦665年, この地に宮を建て仮住まいをされていた天智天皇がそこに住む志篤き里の者たちに感激され「志布志」と命名されたと言われている。志布志の地名を市の名称としていることを誇りとして, 先人たちが築いた歴史や文化を引き継ぎ, 「高い志」と「慈愛の精神」に満ちた「志のあふれるまちづくり」と「志を高める教育」を推進している。

本市では, 「志を高める教育」の一つとして, キャリア教育を市教育振興基本計画や市教育施策体系に位置付け, 組織的・統計的に取り組んでいる。特に, 市内全小学校における職場見学や全中学校における5日間の職場体験学習の実施, 教育委員会主催の体験活動や研修事業の充実を図っている。

また, 小学校1校, 中学校1校をキャリア教育モデル校(県指定研究協力校)として指定し, モデル校の先進的な取組を市内全校に広げようとする取組も行っている。

2 主な取組について

(1) 市商工会, ロータリークラブと連携したキャリアスタートウィーク実行委員会の開催(中学校管理職, キャリア教育担当教諭対象)

(2) ハローワーク及び市湾岸商工課と連携した中学生のキャリア教育推進及び新規学校卒業予定者等の就職促進

(3) 子ほめ条例の制定

(4) 学力向上事業及び「体験の風をおこそう! 志布志市の青少年育成」事業の開催(市内在住の子ども対象)

ア 土曜学習教室事業

イ 夏休み学習教室事業

ウ 青少年研修事業

エ 子ども会育成事業

オ おはなし会事業

カ 「通学学舎」事業

キ 青少年リーダー育成事業

ク 青少年芸術鑑賞事業

ケ 地域で育む「土曜体験広場」事業

コ 土曜日はキッズデー事業

- サ 子どもスポーツ教室事業 シ 親と子の自然教室事業（夏休み）等
(5) 幼児期の教育におけるキャリア教育の推進

<鹿児島県>（種別：学校）指宿市立德光小学校

推薦理由

指宿市立德光小学校は、指宿市の南西部にあり、全校児童66人の小規模校である。キャリア教育の目標を「子どもたち一人一人が、生涯にわたって職業に限らず様々な立場や役割に意欲的に取り組み、人との関わりを通じ、有意義な人生を送るための基礎的な姿勢や能力を育てる」と設定し、保護者や地域住民と地域ぐるみで教育活動を展開している。

特に、地域の特産品である「徳光スイカ」については、JA等の地元企業や地元の高校などと連携して、栽培、収穫、卸市場の競り体験をとおした活動を行うことで、他者と積極的に関わり、社会的関心を高めるとともに、児童の地元への誇りと愛着を育てている。

また、平成17年度にキャリア教育の研究校として文部科学省の指定を受けるなど、これまで継続的かつ積極的にキャリア教育を推進している。

【具体的な取組】

1 豊かな体験活動

- アグリスクールによる徳光すいかの栽培、販売
- 一坪農園での野菜栽培（全家庭）
- マダイやヒラメの放流（3・4年）
- 病院や福祉施設とのデイケア交流（5・6年）
- 養護学校や隣接校との交流（全学年）
- 高校生クラブとの豆祭り体験（4年）

2 学校・家庭・地域が一体となった取組

- 地域行事への積極的参加
（利右衛門祭り、さんこんめ、徳光神社六月灯、鬼火たき、歩こう会、夕読み放送等）
- 平成27年度「優良PTA」文部科学大臣表彰
- 地域教育力の積極的活用（学校応援団や老人クラブ等）

3 夢チャレンジ、先輩から学ぶ

上記の取組等を通して、学校が組織的・計画的に、また、学校・保護者・地域住民が一体となってキャリア教育を推進している。

<鹿児島県>（種別：学校）長島町立鷹巣小学校

推薦理由

研究テーマ「気付き・やる気・本気を育てるキャリア教育の推進」
～「たわやかな力」と「のびる力」の育成を中心に～

1 長島ミニ観光大使（長島のよさを他県でPR）

修学旅行を活用し、長島を紹介する自作のパンフレットを配布して、長島町のよさを他県民や外国からの旅行者に伝える活動を毎年行っている。このことを通して、「郷土を知り、郷土に誇りをもつ児童（キャリアプランニング能力）」、「主体的に学習や活動に取り組む児童（自己理解・課題対応能力）」、「ルールを守り、身なりやあいさつのしっかりできる児童（自己管理能力）」などの育成を図っている。

2 国語、道徳、特別活動等の話し合い活動における、授業を通じたキャリア教育の推進

教科等の教育活動をキャリア教育の観点から捉え直し、それらの目的をきちんと達成する教育等を行う「キャリア教育」を推進するために、教科等を中心に、児童に身に付けさせたい力の明確化、発問の工夫、粘り強く取り組む場の設定、機会をのがさず称賛、振り返りの時間の充実の5つを、「気付き・やる気・本気」アップ作戦のポイントに挙げ、充実した授業づくりを系統的・計画的に実践している。

3 「なりたい自分カード」の取組

自己への関心を高め、希望や目標をもち、なりたい自分に向かって粘り強く取り組む児童の育成を図るとともに、自己を振り返らせながら意欲と自信をもって様々な活動に取り組ませている。

4 鷹巣メソッドの作成と活用

「のびる力(課題対応能力)」育成のために、全職員の系統的な指導、有機的に関連付けられた計画的な指導内容の実践が図られるように、「鷹巣メソッド」を作成し、活用している。これには、全教科領域において、児童の実態に即した授業の流れや学習のきまりが細かに記載され、誰がどの学年を担当してもぶれることなく一貫した指導ができるようにしたものである。今後も活用しながら、更に発展させていく。

5 鹿児島県指定キャリア教育研究協力校としての取組

平成 27・28 年度「県指定キャリア教育研究協力校」として上記のテーマを掲げ、全校態勢で研修を積んできている。その成果を全県下小中学校に呼び掛け、11月22日(火)に公開する。

<鹿児島県> (種別：学校) 鹿児島県立伊佐農林高等学校

推薦理由

鹿児島県立伊佐農林高校では、農林技術科で農業を、生活情報科で家庭や商業について学んでおり、地域課題の解決を図る活動を通して、教科で学ぶ知識と技術を社会で深める PBL によるキャリア教育に取り組んでいる。有志によるボランティア活動として、平成 23 年度から「地域応援団」を結成するなど、地域を応援するための高校生らしい数々の活動は、企業・自治体・小中学校と連携する活動として地域に根付いている。また、高校生の地元への理解・愛着・誇りを育む教育活動として広く県民にも知られており、県内の高校が視察で訪れる程である。

《地域応援団》

高齢農家の依頼を受けて草刈り代行する「草刈倶楽部」、幼稚園や小中学校へ出向き食農教育の手伝いをする「食農倶楽部」、市内外の PR 活動を行う「I S A 4 to 8」、企業の段ボール箱のデザインなどを行う「デザインクラブ」の4つのユニットからなる。現在は、「リアル銀の匙プロジェクト」としてオール学校産の素材によるピザ作りで食農活動や熊本震災被害の募金活動等を行っている。

《商品開発》

県鉢花経営者クラブとの小型シクラメン、地元特産の伊佐米を飼料として給餌した鶏から産まれた黄身の白い卵を使用し、地元の商店とケーキ・カステラ・プリンなどを共同開発した。

《グリーンツーリズム》

伊佐市の魅力を伝える修学旅行の受入や伊佐ツアーを企画・実践している。県外の高校生や一般の参加者に、農業体験や学校にある石窯でピザ作りを体験してもらうなど、おもてなしの企画を実施した。

《食文化伝承》

「かごしま食」の推進委員を迎えて、伊佐地域の伝統食について調理法を高校生が学ぶと同時に、高校生が講師役となり、伊佐市内の小中学生とその保護者に調理法を伝承する活動を毎年行っている。

《商標登録》

農産加工品「更生之素」※豚味噌の缶詰を開発・販売

- 地元の実態や声を踏まえ、生徒達の発想や企画を基にした地域に密着した様々な活動が、集客や販売の手助けになるとともに、伊佐市全体の PR や活性化にもつながっている。
- 「地域応援団」は毎年メンバー交代を行いながらも活動を継続するとともに、同校加工品を用いた商品開発や農産物販売のイベント企画など、地域に欠かせない存在となっている。
- 「地域応援団」を卒業した生徒の中には、本活動での地域の大人との関わりがきっかけとなり、「10年後に帰郷し、伊佐の農業をリードする存在になりたい」といった夢を持ち、歩み始めた卒業生も出てきていることから、将来の地域を担う人材育成につながっている。
- 創立 100 周年を記念し、同窓会から寄贈されたピザ窯「石窯 100 トン」を使い地域特産品の開発をし、グリーンツーリズム活動を通じて、学校活性化とともに地元伊佐市を PR するなど「地域協働」を積極的に実践している。
- 地元の小中学生に対して、地産地消という観点から「食農教育」に携わり、学校給食として学校生産物である安心安全な食品を提供することで、伊佐農林高校を身近に感じてもらうとともに、子供達が地元を誇りに思えるような活動をしている。

<沖縄県> (種別：学校) 那覇市立開南小学校

推薦理由

那覇市立開南小学校のキャリア教育全体計画では、教育目標の「夢や希望を育み、心豊かにたくましく生きる開南っ子の育成」を軸とし、キャリア教育の目標に「人間としての生き方に関わる指導を基盤にして児童の目的意識を高め、夢や希望を持って学び続ける児童を育成する。」を掲げている。全体計画では、児童に身に付けさせたい能力の基礎的・汎用的能力の4つの能力をそれぞれ低・中・高学年で計画し、各領域における指導内容をふまえ、各学年ごとの年間指導計画のもと実践している。

特に6年生においては、ほとんどが親の背中(親の職業)で実際に学び、「感謝」や「尊敬の念」が抱けるような実践内容となっているのが特徴である。また、①将来の夢(こういう大人になりたい)②自分の興味のある仕事調べ(Webサイト→フローチャート)③自分の適性の確認(可能性)④自分に似合った職業探し⑤保護者説明会における「職場見学」の趣旨説明⑥職場見学一覧表の作成⑦事前のマナー講習会⑧職場見学ノートの作成(実際)⑨事後の「職場見学新聞」作成⑩各学級での発表⑪学年一斉のポスターセッションによる発表(授業参観日)⑫「ドリームツリー」の完成(ワークシート)⑬卒業式での「将来の夢」発表、という一連の流れで、子どもたちは将来の職業観について主体的に学び、ワークシートや新聞作成、発表等を通してキャリア教育のねらいに組織的・系統的に取り組んでいることも、特色ある取組と言える。

この取組は、保護者からも好評であり、親が自身の職場を見学させることが難しい場合には、地域や他の児童の保護者の協力を得たりするなどして、全員が職場見学可能な配慮も特徴である。児童が実際記入したワークシートを見ると、1月の夢が「宇宙に行きたい」という漠然としたものから、2月では、「宇宙飛行士になりたい」、3月では「宇宙飛行士になって科学の発展に貢献したい」や「人の役に立つ仕事につきたい」など、より具体的な職業観へ変化していることがわかる。

以上のことから、キャリア教育の功績は顕著であると考えられる。

<仙台市> (種別：学校) 仙台市立南材木町小学校

推薦理由

6年生の総合的な学習の時間で行っている職場体験活動を核に、地元商店街と連携したキャリア教育を継続して実施し、大きな成果を上げている。2年生の生活科では町探検の中で、地域の商店街に協力をしてもらい、自分の住む町には様々な店が多数あることに、気づくようにしている。この体験をもとに、3年生の総合的な学習の時間「いい町 南材」というテーマで、地域の歴史や伝統文化について学び、藩政時代から伝わる薬店・木材店・染め物工場や明治時代から存在する駄菓子屋さんを訪れ、インタビュー活動等をおし、地域の歴史を知り、愛着を持つようにしている。

これらの学習を基礎にして、6年生では、地元商店街の全面的な協力の下、職場体験活動を平成21年度から継続して実施しており、8年目を迎えている。「お店のオリジナルロゴマークづくり」と題した活動では、最初に店舗の特徴をつかむために地元の商店街を訪れて、店を経営する際の思いや仕事の内容をインタビューしている。その後、学年で発表会を行い、情報を共有した後、職場体験を行っている(15~20の店舗)。体験後に「お礼の仕方」について子どもたちが考える活動を設定し、オリジナルのロゴマークを作り、お店に贈呈する活動を行っている。最近の活動では、ロゴマークづくりだけではなく、店のポスターを作成したり、店のキャラクターやオブジェを作成したりするなど、子どもたちの創意を生かした学習活動になるように工夫している。学習後の子どもたちの様子を見ると、「お店の役に立てたい」「お店のPRにつなげたい」と主体的に活動する姿が生まれている。

職場体験活動の中で、実際にお店の手伝いをしたり、掃除をしたりする活動を通して、身近な商店街にある店について知ることができ、自分たちが住む町に深い愛着を持つきっかけとなっている。また、体験やインタビューを通して、「働くこと」「生きること」のつながりを感じさせたり、自分の職業観を実感させたりすることができる優れた実践となっており、キャリア教育優良学校として推薦する。

<横浜市> (種別：学校) 横浜市立中川西中学校

推薦理由

中川西中学校の3年間のキャリア教育は、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能

力や態度を育成するため、1年生にはキャリアチャレンジデー（職業講話）、2年生には職場体験、3年生には地域の方々による進路模擬面接と学年ごとの3部構成になっており、3年間を通して「将来への生き方教育」を行っている。

1年生にはキャリアリンクのプログラムを使い、「地域・グローバル・びっくりな人生」という3つの指標で12人の社会人が来校し生徒たちはその中から3人を選び、「意志」「役割」「能力」をインタビューし（コミュニケーション能力育成）、「人はなぜ働くのだろう」という質問に対し自分の考えを事前・事後学習を通して深めている。

これまで2年生の1日間だけの職場体験を、29年度より3日間に増やすため、学校支援本部の8人のコーディネーターを中心に日本の33業種を基準として様々な業種・職場を集約をし、1学年（350人）全員が実践できる計画を策定している。

3年生進路に向け、約50人の地域の方々（社会人経験のある町内会の役員や地域の企業）による3年生の模擬面接を行っている。こちらの方も、前出のコーディネーターによるご尽力が大きい。

また、「社会に開かれた教育課程」を具現化すべく、地域・産業界との連携・協力を図り、組織的・系統的にキャリア教育を行っている。連携事例としては、1年保健体育・現代的なリズムのダンスを本物のダンサーから学ぶ（文化庁芸術家派遣事業）、各学年ごとの防災教育をNPO3.11 かながわネットワークから知見を得て保健委員会で生徒たち自身が防災ビデオの作成を行っている。また、3年理科「先端材料と地球環境とのかかわり」の単元で東レの水処理膜を使った出前授業やPTA 会長(税理士)による3年社会科の租税教育、3年国語科のオーサービジット「アイスプラネットパート2」作家による出前授業を実施している。

起業体験にかかわる取組として、ジェームスダイソンという起業家の生き方を体験型の授業で生徒たちに実感させ、自分たちも生活の中での困り感から問題解決ができ、製品を発明できるという起業家精神を養うことにも重点を置いている。

<横浜市>（種別：学校）横浜市立若葉台特別支援学校

推薦理由

若葉台特別支援学校は、横浜市初の肢体不自由教育部門（A部門）と知的障害教育部門（B部門）を併置した特別支援学校として3年が経過した。A部門でこれまで培ってきている自立活動の指導はライフキャリア教育そのものであり、現在も人間関係形成能力、コミュニケーション力、自己表現、自己決定を重視した教育を継続・発展させている。B部門は卒後の企業就労を目指し、地域連携・協働をコンセプトにしながらか自己選択・自己決定する力を身につけさせながらキャリア発達を促す教育に取り組んでいる。

B部門では3つの校内実習コース（オフィスサポート、ビルメンテナンス、パン工房）を設定し、地域の自治会、まちづくりセンター、市交通局と連携し、印刷物等の受注、市営バスや地域の清掃、地域でのパン販売を展開し、生徒の自己有用感やコミュニケーション力を高めている。授業実践の中で横浜市教委の外部専門講師派遣事業も活用しており、ビジネスマナー、清掃技術、パン製造技術・喫茶での接客方法などを外部の専門家から直接指導を受けている。パン工房の日常営業は横浜市長名での菓子製造業認可、区の保健センターの承認のもと行っている。他には自治会の餅つき大会や地区センターまつりなど、ボランティア活動としてあるいは授業の一環として地域行事への参加・協働を行っている。また、1年次は近隣の企業、医療機関、社会福祉法人、NPO法人などの協力により地域内だけの現場実習を実現している。

このような地域との連携・協働の取組を支えているのが本校の学校運営協議会であり、地域とともに歩む学校づくりに努めている。また市役所・区役所等の人権研修会を数多く受け入れることで、生徒たちが見学者に日頃の学びを自ら語るによりキャリア発達が促される貴重な機会を創設している。

前述した取組はその都度ふり返りをしながら、形骸化させることなく新たな実践につなげるよう日々検討を継続している。この3年間の中でB部門のみならずA部門との協働で児童生徒のキャリア発達を促す実践の起案につながっている。また日々の実践についてはキャリア教育の視点で組織的な研究に取り組み、公開研究会などを通じて外部への発信に努めている。

これまでの取組は地域の広報誌や新聞さまざまな外部機関から広報されてきた。（「日本教育新聞」等）特に、校内実習や現場実習、地域行事への参加など地域と連携した実践は、住民の高齢化にともない多世代交流、介護、看護、生活支援の重要性を唱える地域のニーズと重なっていくことが大いに期待されるものである。

次の取組として、校内に喫茶室設置の準備を開始している。これによってAB両部門の児童生徒のキャリア発

達を「販売」「接客」などを通してさらに促すことが可能になる。またこれは児童生徒への教育効果だけでなく地域住民や保護者にとってもよりよいコミュニケーションの場となることが期待され、地域からの要望に応えるものとなる。

<浜松市> (種別：学校) 浜松市立笠井中学校

推薦理由

当該校では「未来に向かい、主体的に学び続ける生徒の育成」を研究主題とし、平成27年度から継続して「キャリア教育を視点とした授業改善」に取り組んできた。

1 教科等を通じた日々の学びの改善

生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、笠井中学校生徒に必要な基盤となる4つの力（かかわる力・見つめる力・挑戦する力・つなげる力）を設定し、キャリア教育の視点での授業改善に取り組んだ。

さらに、キャリア教育に教育活動全体で取り組むことを目指して、キャリア教育全体計画や年間指導計画、4つの力の各教科における具体的な生徒の姿を整理した。

平成28年10月14日に、市内学校に向けて研究成果を発表した。

2 他校種や地域・産業界等との連携・協力

教科等の学びと自己の将来や社会とのかかわりを発見させるために、以下に挙げる体験活動を実施した。

- 1年 福祉体験 市内福祉施設34箇所 2日間
お年寄りの方やそこで働く人たちと触れ合う中で、生徒の福祉等に対する理解を深める。
- 2年 職場体験 校区内事業所43箇所 2日間
働く人々の姿を実際に見学したり、職業を体験したりすることによって、生徒の職業観や勤労観を育む。
- 2年 民泊体験 2泊3日
農村の民泊体験や農家の方との交流を通して、暮らしや人々の生き方に触れ、自分の地域や将来に目を向けるとともに、社会性や人間性を育成する。
- 3年 パパママ未来体験 保育士 看護師 乳幼児親子130組 3時間
命の尊さや乳幼児への接し方を学び、乳幼児と触れ合うことを通して、自分の生まれた時のことや大人になった時のことを思い、命や親子のつながりの尊さと感謝の気持ちを実感する。
- 全校 フレンドサミット 校区内 幼稚園2園 小学校2校 1時間
「自分自身を大切にし、自分を取り巻く人や地域に進んでかかわる子供の育成」を校区の目指す子供の姿として共有する。生徒会の呼び掛けで人間関係づくりや命を大切にする集会活動を行った。

以上の取組は、教科等を通じた日々の学びにおいて、将来の社会的・職業的自立に向けて育成した資質・能力を、他校種や地域・産業界等との連携・協力による体験活動につなげ、組織的・系統的に取り組むことで、学校における教科等の学習の意義の認識がさらに深まることをねらう模範となる実践であるため、ここに推薦する。

<京都市> (種別：学校) 京都市立凌風小学校・凌風中学校

推薦理由

凌風学園は施設一体型小中一貫教育校として設立され、9年間の学びと育ちをつなぎ、心身の発達・発達状況に応じた質の高い指導を行うことを経営の方針の一つとして実践し5年目を迎える。中でも、学校教育の重点目標に「キャリア形成支援」を掲げ、キャリア教育のねらいを「自己の特性を伸長し、現在や将来の社会で、積極的に生き抜くための意欲や能力を育む」とし、4・3・2制のそれぞれのステージごとに「目標」「身につける能力」「学習・生活・行事の場面」「評価の観点」を設定し、系統的かつ組織的にキャリア教育の充実に努めている。

<具体的取組>

- ・ 語り合い活動＝9年生→6年生
 - * 小中一貫校ならでの取組でもあり、6年生と9年生が「学習」「生活」「進路」などそれぞれのテーマについて相互に語り合うことで中学校への不安を解消させるとともに系統的なキャリア教育を推進する。
- ・ 生き方探究チャレンジ体験（職場体験）＝8年生
- ・ 生き方探究チャレンジ体験（職場体験）報告会＝8年生→5年、7年
 - * ポスターセッションによる職場体験報告会。特に、5年生に向け発表することで、2年先の「あるべき姿」

を意識した学園生活を送り、目的意識を向上させる狙いがある。

- ・ 「ようこそ先輩」事業＝8年生
 - * 高校、大学、社会人の3名の卒業生を招き、学園生に対しての思いや願いについての講演。先輩の体験談を直接聞くことにより、進路に対する意識を高め、今後の学園生活における目的を明確にさせる。
 - ・ 高校による「出前授業・進路学習会」＝8年生・保護者（7月）
 - * 保護者については、参観することで受験生を支える家庭の在り方について考える手立てとした。
 - ・ 「高等学校・体験学習」＝8年生（1月）
 - * 各高校にグループごとに訪問し、授業体験を通し、進路選択への展望の広がりや意欲的に学習に取り組もうとする姿勢を育成させる。
 - ・ 「ふれあいトーク in RYOUFU」＝7年生
 - * 地域の方との意見交流を通して、主体的に考えを述べたり、聴くことの姿勢を養うとともに、これからの自らの生き方について考えるきっかけとする。
- ※ 凌風学園の特色は、小中一貫教育校であり1年生から9年生まで系統的・組織的にキャリア教育が推進されている点にある。

<神戸市>（種別：学校）神戸市立高倉台小学校

推薦理由

○ 学校の様子

高倉台小学校は、教育努力目標を「生き生き活動 楽しい学校」と掲げ、キャリア教育を全学年で系統的に取り組んでいる。全学年で、「もくもくそうじ」を実践し、清掃や学習園の整備を日常的に行っている。また、整備した学習園に、地域から講師を招いて、花や野菜の上手な育て方を教えてもらい、育てる活動も行っている。特に、3年生では、自分たちで育てた苗を地域や保護者に安価で購入してもらい活動を通して、働く喜びを知り、接客のマナーなども身に付けることができています。さらに、育てた大豆を利用して、手作り豆腐を作る活動も行っている。このような活動を通して、社会人・職業人として自立していくための能力や態度の基盤を育成している。

○ 具体的な活動

3年生では、地域や保護者の方に、苗を栽培して販売する活動を行う。ただ、育てて販売するだけではなく、どのような苗を栽培すれば、買う人が喜んでもらえるかを考えるところから活動が始まる。調べていくと、花の苗より、野菜の苗のほうが人気があることが分かる。そこで、地域の方に栽培の先生となってもらい、喜んでもらうために、どのように栽培していけばよいのかアドバイスをもらいながら毎日丁寧に育てていった。また販売する活動の中で、「喜んで買い物をしていただく」とのめあてを意識させ、どうすればよいか考えながら準備をし、お客役と店員役に分かれて、接客練習にも取り組んだ。売る側の思いだけではなく、買う側の思いを考えることでより子供たちの自主性が育っていき、自分たちで接客し、お客様が喜んで買っていき姿を見ることで、働く喜びも知ることができた。この販売までの課程こそが、子供たちのキャリア発達につながる学習となった。

活動後、家庭で、買っていただいた苗を育て、きれいに花が咲いたり、おいしい野菜が収穫できたりという話を聞くことで、子供たちの達成感もさらに高まった。

以上のように高倉台小学校は、本市において地域を生かし、主体的にキャリア教育の実践に先進的に取り組んでいる。

<広島市>（種別：学校）広島市立三和中学校

推薦理由

本校は、「和・魂・行」の校訓のもと、「互いに協力・協働し、自主性に富み、共に実践する心優しい生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、他校種や地域との連携を主体的に図るとともに、組織的・系統的なキャリア教育に取り組んでいる。

1 他校種や地域との連携

第2学年の生徒が出身小学校を訪問し、学習やレクリエーションなどの手伝いをする「里帰り学習」を実施しており、小学生に頼られたり、母校の教師に認められたりする体験を通して、自己有用感や自己管理能力の

育成を図っている。

また、第2学年の親子が、高等学校に進学した卒業生から、中学校時代にごんばったことや充実した高校生活の様子などの話を聞いたり、第3学年の生徒が、複数の高等学校の教師から、学習の様子や中学生の間に身に付けておきたいマナー等について講話を聞いたりすることを通して、進路実現に向けた将来についての視野を広げることができるようにしている。

さらに、地域のふれあい祭や公民館祭等で、吹奏楽部や演劇部が演奏やダンスを披露したり、放送部が司会をしたりするなど、地域行事を通して、他者と協力・協働して社会に参画する力の育成を図っている。

このように、他校種や地域と深く連携した取組を通して、人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力の育成を図っている。

2 組織的・系統的なキャリア教育の取組

第1学年では、職業調べを実施し、仕事の内容や必要な資格などを新聞にまとめて発表する活動を通して、仕事のやりがいや楽しさなどを学んでいる。

第2学年では、修学旅行で民泊を行っており、民泊先の農業や漁業、畜産業の仕事を体験し、働くことの厳しさや働く人々の情熱等を学んでいる。

第3学年では、地元放送局のアナウンサーによる職業講話を実施するとともに、地域の建設会社やスーパーなど、70ヶ所の事業所で3日間の職場体験学習を実施し、働く意義を考え将来の職業選択のきっかけとしている。

このように、人間としての生き方の自覚を促し、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間の育成を目指し、3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進している。